

4. お手入れのしかた

4.1 各部の脱着・オープンのしかた

⚠ 警告

- 各部の脱着・オープンをするときは、平たんで安全な場所で必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
※ 回転部に巻き込まれたり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- 外したカバー類は、必ず取り付けてください。
※ 外したままで運転すると回転部に巻き込まれたり、けがをするおそれがあります。
- 各部の脱着・オープンをするときは、手などをはさまないように注意してください。

4. お手入れのしかた

4.1.1 エンジンルームの開閉のしかた

開きかた

1. ドアを確実に閉めます。(55 ページ)
2. エンジンルームロックレバー (1) を少し奥に倒し、ロック板 (2) を上に持ち上げた状態で手前に引くと、ロックが外れます。

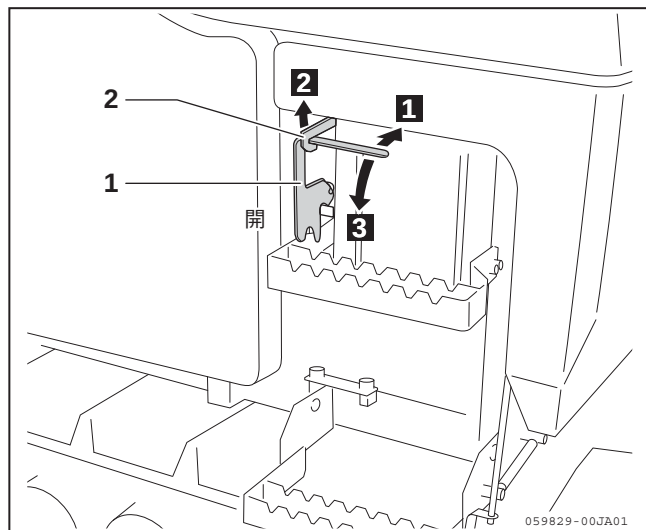


図 4-1

3. エンジンルームカバーを開きます。

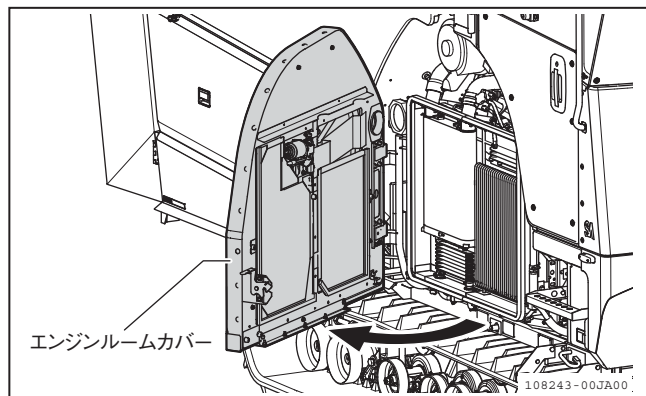


図 4-2

収納のしかた

1. ドアを確実に閉めます。
2. エンジンルームカバーを閉じると自動的にロックされます。

《 参考 》

エンジンルームカバーを閉じたときは、確実にロックされているか必ず確認してください。

4.1.2 刈取部のオープンのしかた

⚠ 警告

- 刈取部を開くときは、つぎの事項を必ず守ってください。

- ・ コンバインを水平な状態にしてください。
- ・ 刈取部を開いた状態で走行しないでください。
- ・ 刈取部ストッパで刈取部を固定してください。

刈取部のオープンのしかた

1. 路面が平坦な場所にコンバインを止め、セフティペダル (1) を駐車ブレーキロックレバー (2) で「ブレーキ」位置にします。

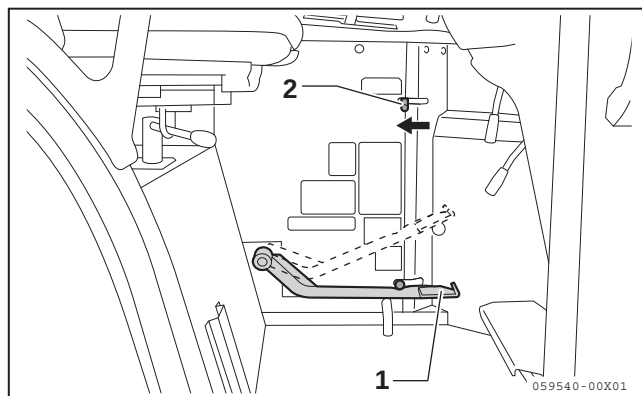


図 4-3

2. 作業クラッチレバーを「OFF」位置にします。

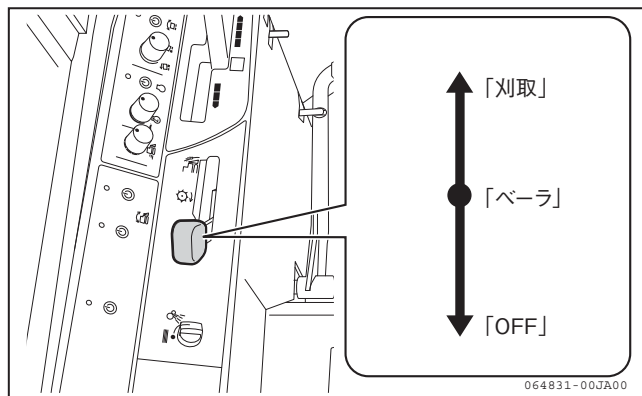


図 4-4

3. エンジンを始動します。
4. 刈取昇降スイッチで、刈取部を最上げ位置にします。

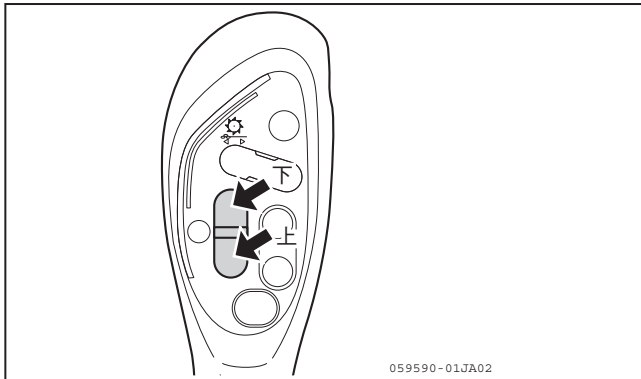


図 4-5

5. こぎ深さ調節スイッチを「深」側にします。縦搬送を最深位置にします。

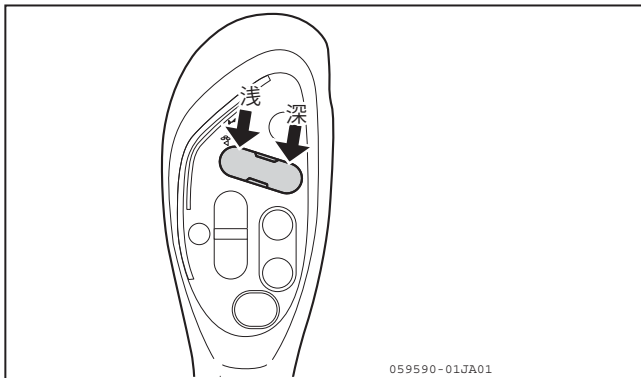


図 4-6

6. エンジンを停止します。
7. 刈取部左側後方の刈取部ストップのノブボルト (1) をゆるめて、「固定」位置 (2) にします。(刈取部を最上げ状態にしておかないと、「固定」位置に動きません。)

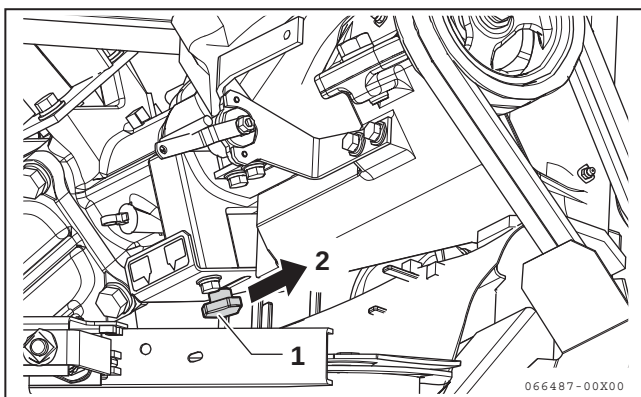


図 4-7

8. エンジンを始動します。

9. 刈取部を下降させて、刈取部を固定します。
10. エンジンを停止します。
11. ボルト 10 × 50 (3) とナット 10 (2) を外し、サイドデバイダ (1) を外します。

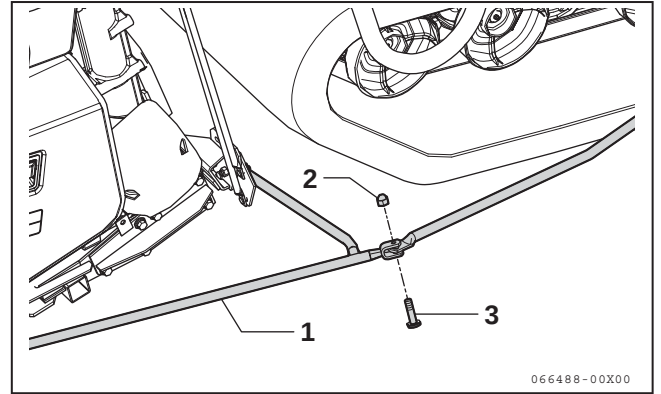


図 4-8

12. シリンダピン固定用 M8 ボルト (1) を外し、シリンダピン (2) を油圧シリンダから抜き取ります。

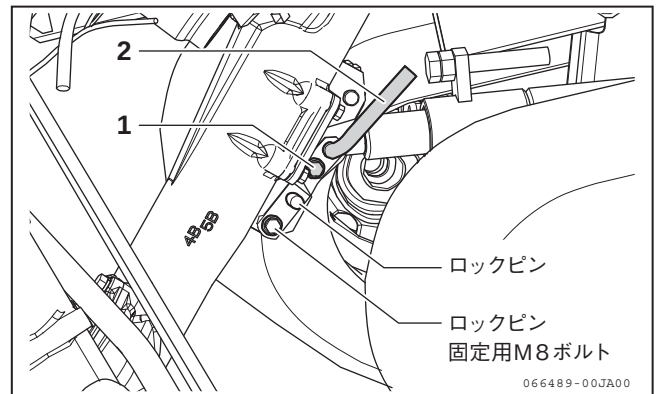


図 4-9

4. お手入れのしかた

13. 刈取駆動ベルト (1) を、ロックナット (2) と調節ナット (3) をゆるめて外します。

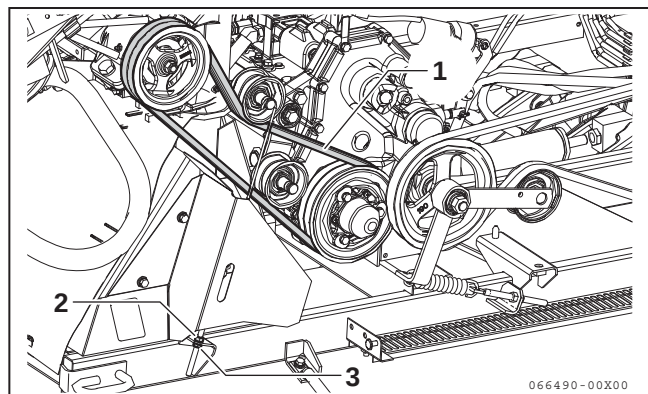


図 4-10

《 重要 》

刈取部を収納するときは、テンションバネのフック長を調節してください。(209 ページ)

14. ボルト 2 本 (1) をゆるめストッパを外します。フィードチェンガイド支点 (2) を下に引き出します。フィードチェンガイド棒 (3) を支点から抜いて外します。

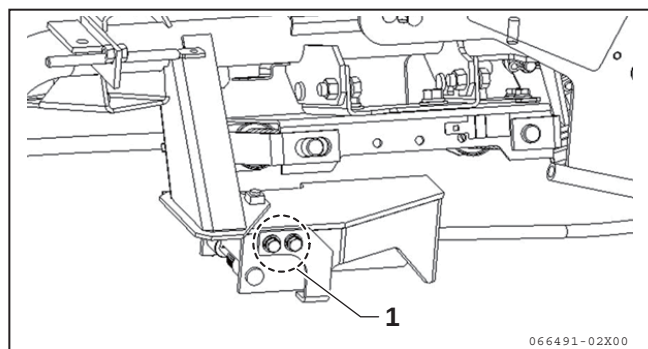


図 4-11

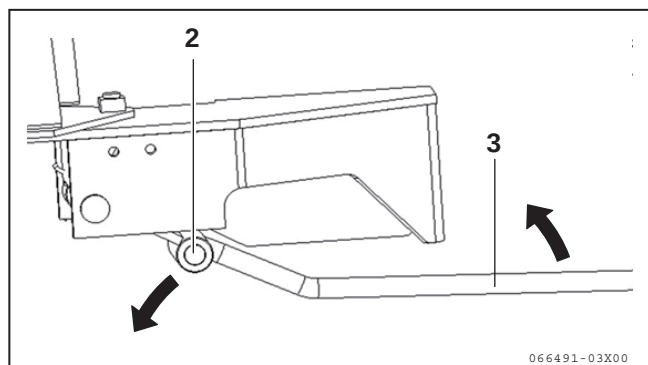


図 4-12

15. 受継ぎ搬送ガイド棒 (1) を持ち上げて、L 形固定ピン (2) で固定します。

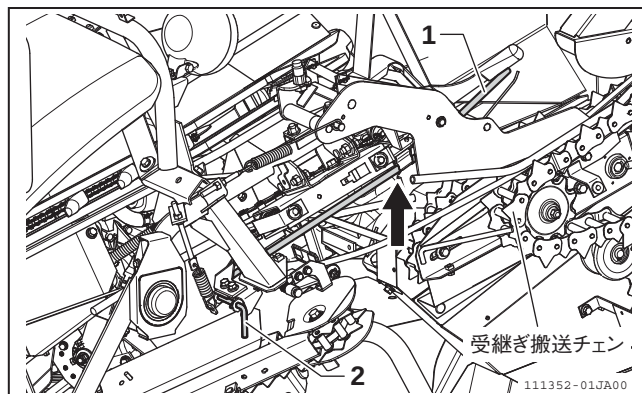


図 4-13

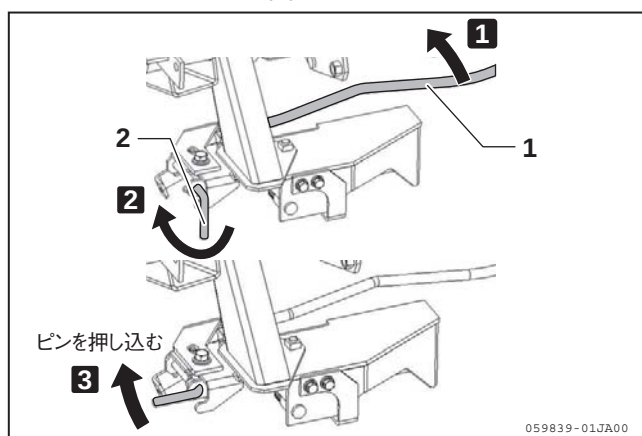


図 4-14

《 重要 》

フィードチェンガイド棒を外し、受継ぎ搬送ガイド棒を上方で固定しておかないと、各ガイド棒が変形するおそれがあります。

16. 運転席側から、左側下方の回転支点部のボルト M14 (1) を外します。

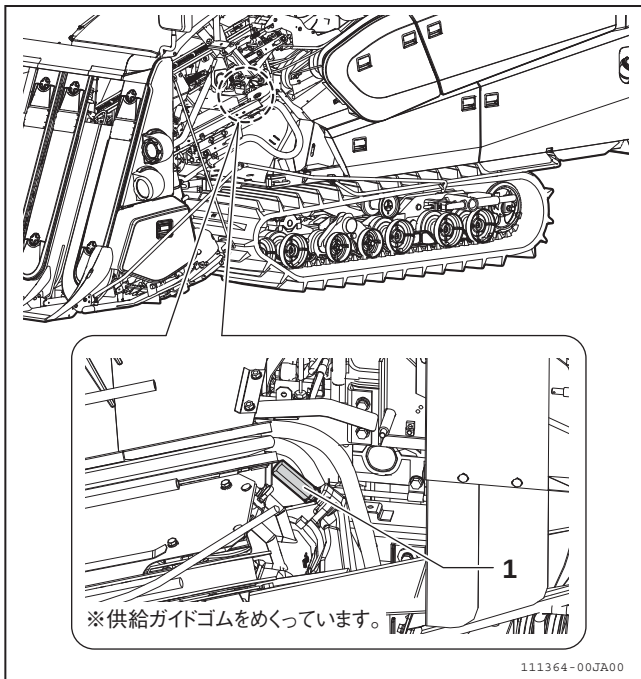


図 4-15

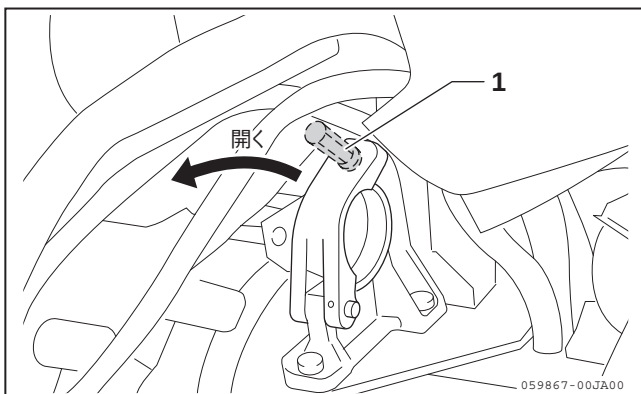


図 4-16

17. ホース・ワイヤ類の引っかかりに注意しながら、刈取部を左方向に回すと、刈取部が開くことができます。

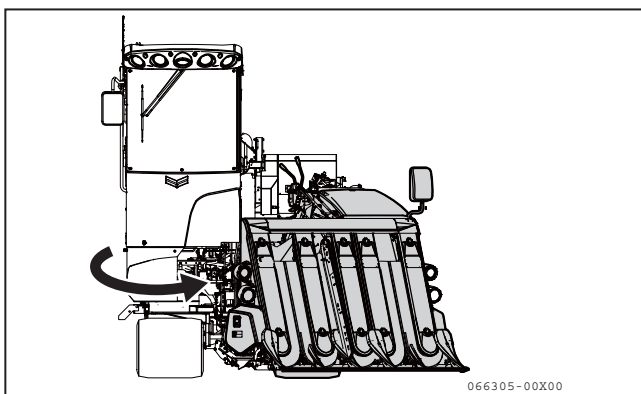


図 4-17

18. 刈取部を収納するときは、逆の手順で行います。

刈取部を収納するときのポイント

◆ 刈取部を収納する前の準備

刈取部を収納する前に、油圧シリンダを少し縮めておくと、シリンダピンが入りやすくなります。

1. エンジンを始動します。
2. 刈取昇降スイッチを「下」側にした状態で、シリンダピンを押して縮めます。

《 参考 》

縮めるときは、シリンダピンの出度を約 20 cm (目安) にしてください。

◆ 油圧シリンダの連結のしかた

油圧シリンダ部を取り付けるときは、つぎの要領に従ってください。

1. ロックピン固定用 M8 ボルト (2) を外して、ロックピン (4) を抜き、シリンダブラケット (5) 下側を外します。
2. 油圧シリンダとシリンダブラケット (5) に、シリンダピンを差し込んで連結します。
3. シリンダピン固定用 M8 ボルト (1) を 2～3 回転、手で締めます。

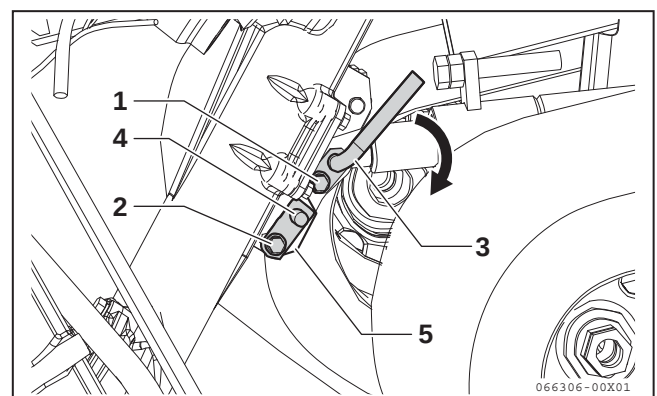


図 4-18

4. シリンダピンのレバー (3) を矢印方向に押し下げて、ロックピンを差し込みます。
5. シリンダピン固定用 M8 ボルトとロックピン固定用 M8 ボルトを締め付けます。

《 重要 》

収納後は、シリンダロックピンの固定用ボルトが確実に入っていることを確認してください。

4. お手入れのしかた

4.1.3 引起しケースカバーの脱着のしかた

引起しケースカバーの外しかた

1. フロントゲートカバー (1) を開きます。
2. 引起しケースカバー (2) のノブねじ (各 2 本) を外します。
3. 引起しケースカバーを持ち上げて外します。

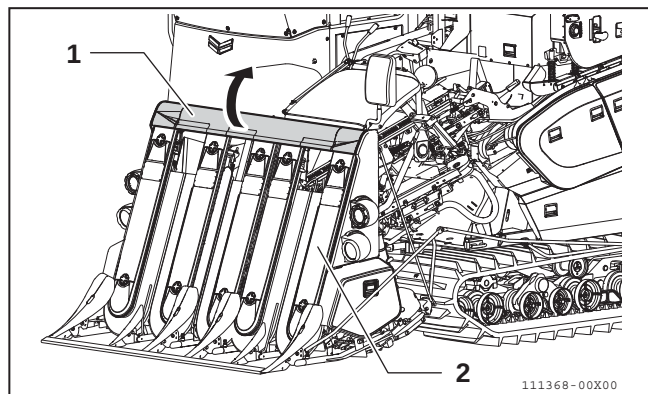


図 4-19

4. 引起しケースカバーを取り付けるときは、逆の手順で行います。

4.1.4 引起しケースのオープンのしかた

1. 分草板大 (1) の固定ボルト (2) をゆるめて、分草板大を外します。

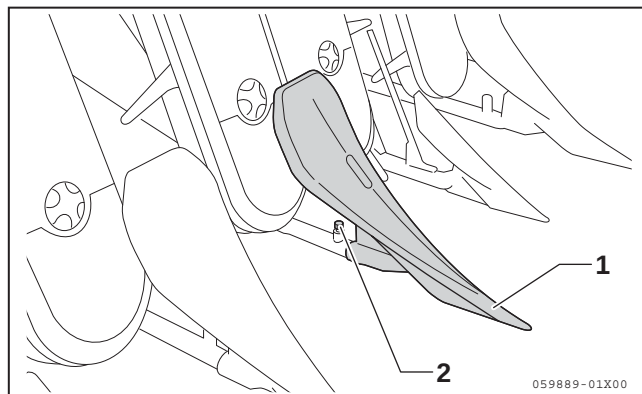


図 4-20

2. 端以外の引起しケースカバーを外します。
3. 引起しケース上部のボルト M8 × 105 (1) (2 本) を外します。

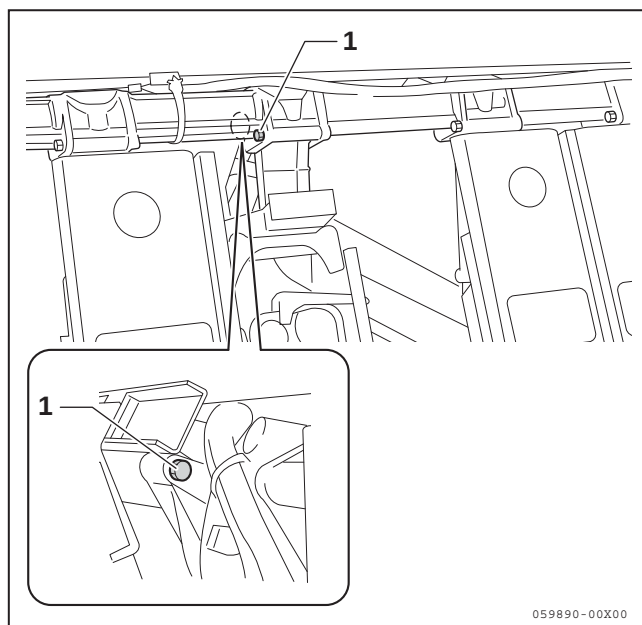


図 4-21

4. 引起しケース下部のボルトM10×80(1)(1本)を外します。

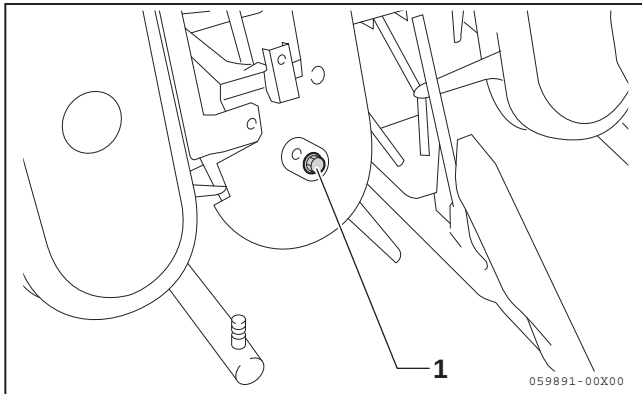


図 4-22

5. 引起しケースを上方に開きます。

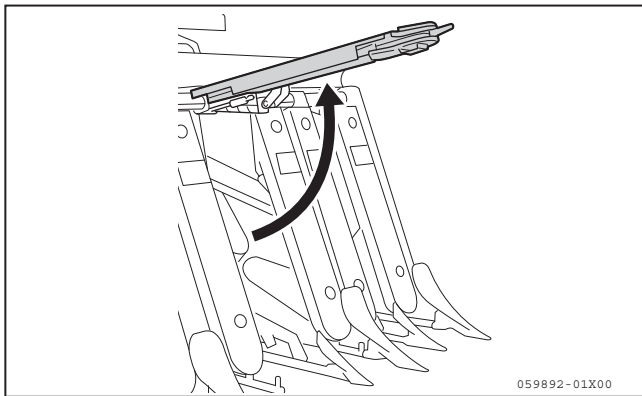


図 4-23

6. 手順3. で外したボルト M8 × 105 (1) を差し込んで固定します。

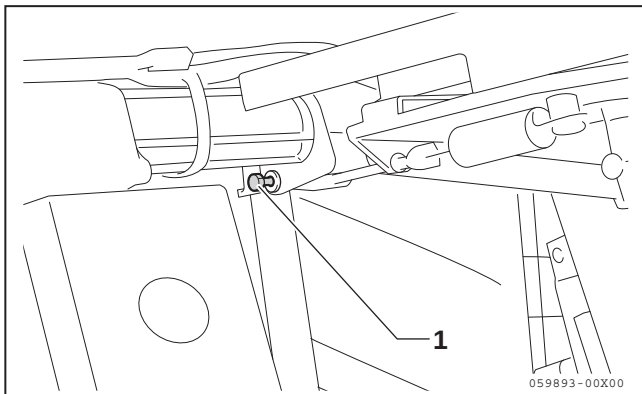


図 4-24

7. 引起しケースを閉じるときは、逆の手順で行います。

《 重要 》

- 左右両端の引起しケースは開くことができません。
- OK デバイダを装着している場合は、OK デバイダを外してから、引起しケースを開いてください。

4. お手入れのしかた

4.1.5 刈取部合流部の開きかた

刈取作業中に搬送チェーン部に稲わらが詰まったときは、エンジンを停止してから、つぎの要領で下部搬送チェーンと縦搬送チェーンの間を広げると掃除がしやすくなります。

1. 抜け止めリングピン (1) を抜きます。
2. 解除レバー (2) を矢印方向 (3, 4) に動かして、下部搬送チェーン L (5) と下部搬送チェーン R (6) の間を広げて、掃除します。

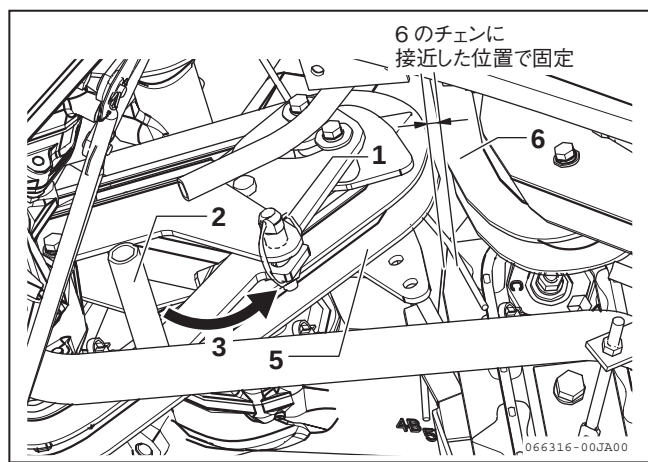


図 4-25

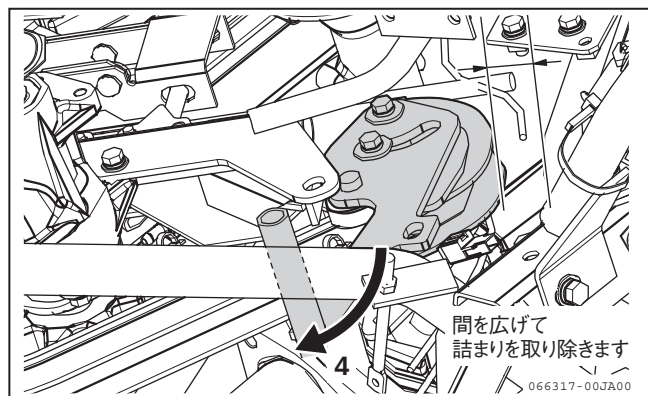


図 4-26

3. 掃除が終わったら、解除レバーを元の位置に戻して、抜け止めリングピンで固定します。

《 重要 》

解除レバーが抜け止めリングピンで確実に固定されているか必ず確認してください。

4.1.6 キャビンのオープンのしかた

⚠ 注意

- キャビンを開くときは、2人で作業を行ってください。

1. 刈取部を開きます。(140 ページ)
2. キャビン左外側後方にあるゴムカバーとクランプを外します。
3. ボルト (1) (4 本) を外してステップ前カバー (2) を外します。

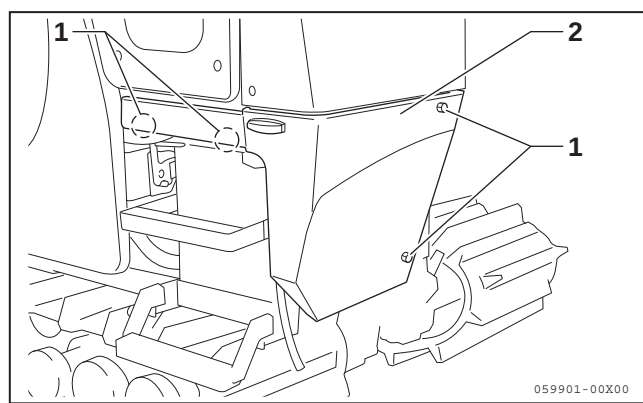


図 4-27

4. ステップ前の方向指示器のハーネスのカプラ (1) を抜きます。

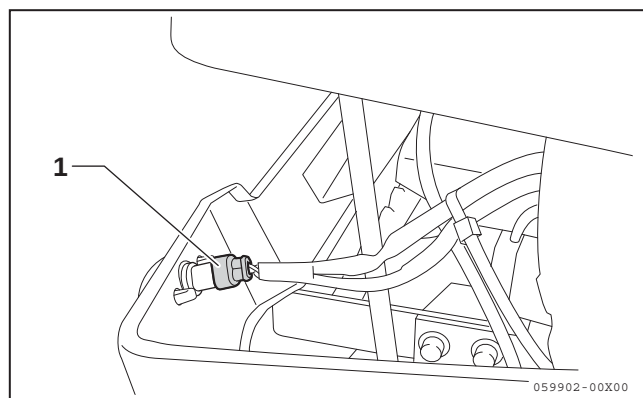


図 4-28

5. ドレンホース (1) のクランプ (2) (2 カ所) を外します。

6. 副変速ロッド (3) 上部のナット (4) (1 カ所) を外します。

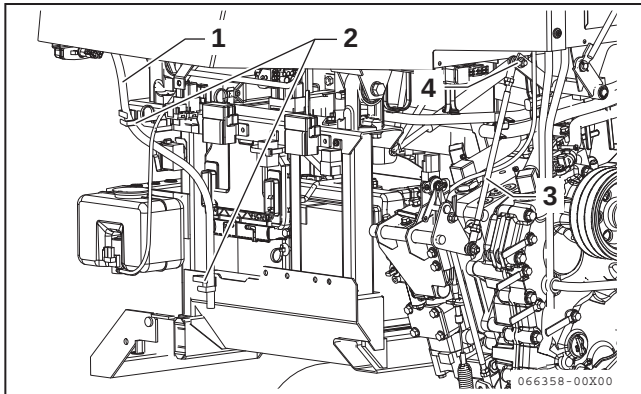


図 4-29

7. キャビン後方下側の左右にあるカブラの接続を、つぎの手順で外します。

- 1) キャビン後方左下側のベール排出カメラと、バックカメラのケーブル (1) の接続を外します。

《 参考 》

各ケーブルのカブラ部には識別用のラベルが貼られています。「CA1」はバックカメラケーブル、「CA2」はベール排出カメラケーブルになります。

- 1) キャビン後方右下側のコンプレッサハーネスとキャビンハーネス (2) の接続を外します。

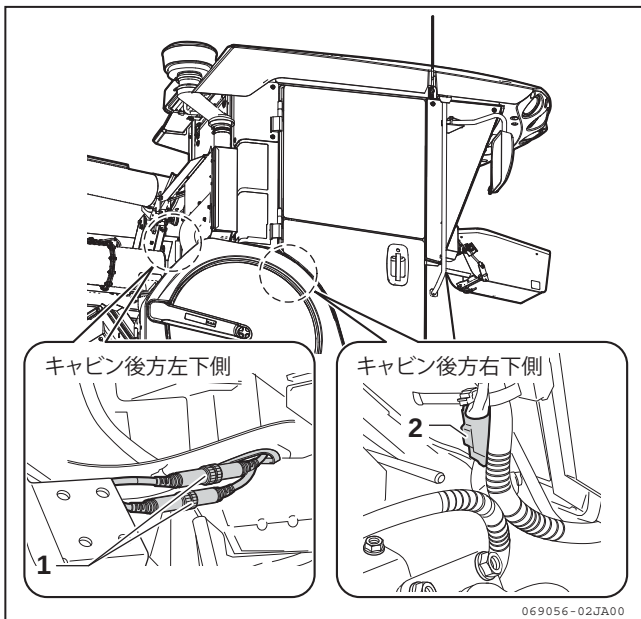


図 4-30

8. 吸気ホース (1) 下部のクランプ (2) をゆるめて、ホースの接続を外します。

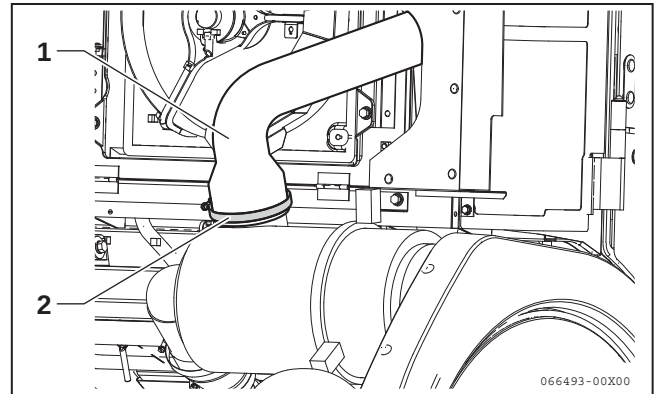


図 4-31

9. キャビン後方下側のキャビン固定部左 (1)・右 (2) のボルト M10・座金 (3) を外します。

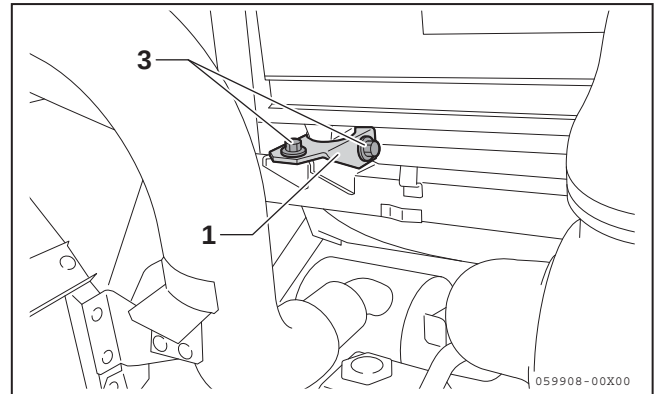


図 4-32

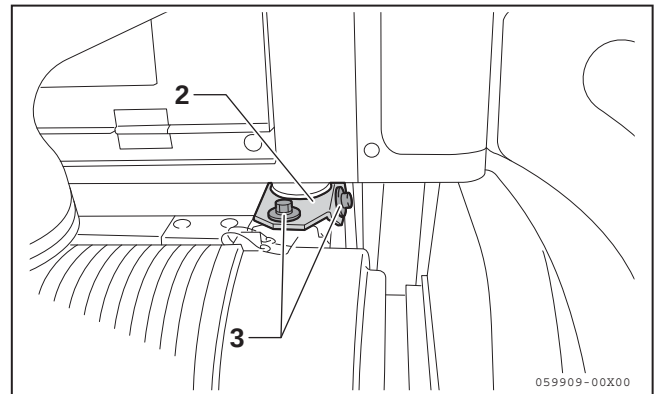


図 4-33

4. お手入れのしかた

10. キャビン右下側にあるストッパ（1）のストッパ固定用ピン（2）を外します。

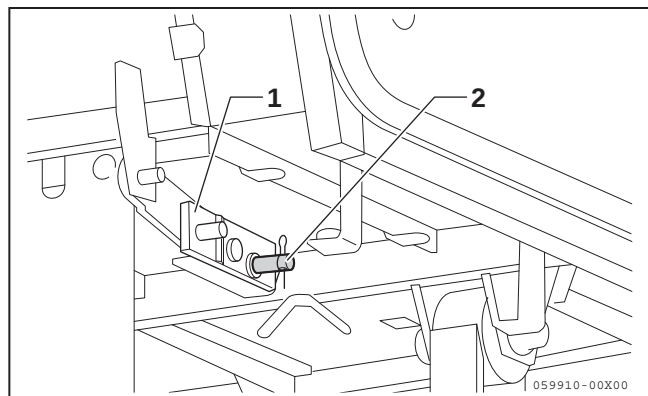


図 4-34

11. キャビンの前方と後方を支えながらゆっくり、開きます。

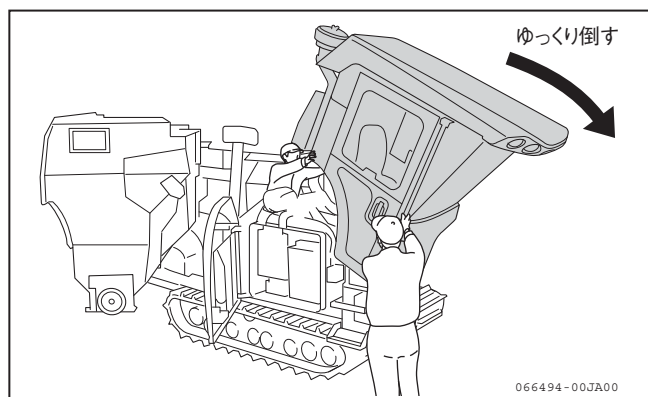


図 4-35

《 重要 》

キャビンを開くときはゆっくり行ってください。急激に開くとコンバインを破損するおそれがあります。

12. キャビンを開いたら、手順 10. で外しておいたストッパ用固定ピンを、ストッパ固定用ピン穴（1）に取り付け、抜け止めにスナップピンをピンに入れます。

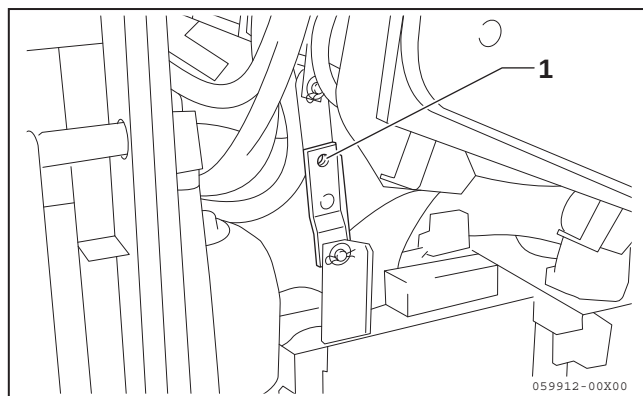


図 4-36

13. キャビンを閉じるときは、逆の手順で行います。

4.2 作業後の手入れについて

4.2.1 作業後の手入れのしかた

！ 危険

- エンジン回転中やエンジンが熱い間は、燃料を抜いたり、注油・給油を絶対にしないでください。

※ 燃料などに引火して火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

- 燃料補給や燃料を抜くときは、くわえタバコ・裸火照明は絶対にしないでください。

※ 燃料に引火して火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

- 燃料補給や燃料を抜いた後は、燃料キャップを確実に閉め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

※ 火災が起こり、ヤケドや死亡事故を引き起こすおそれがあります。

！ 警告

- エンジンが高温の間は、シートなどを絶対にかけないでください。

※ 火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- 点検・整備をするときは、平たんで安定した場所で行ってください。

※ コンバインの転倒により、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- 刈取部の下で点検・整備をするときは、必ず刈取部ストッパで刈取部を固定してください。

※ 固定しないと、刈取部が急に下がり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

！ 警告

- 点検・整備や修理をするときは、作業に適した服装をしてください。

※ コンバインに巻き込まれたり、滑って転倒して傷害事故につながるおそれがあります。

- ・ だぶつきのない服（つなぎなど）を着用し、袖口はきっちりと止めてください。

- ・ 滑り止めの付いた靴（安全靴など）を着用してください。

- ・ ヘルメットを着用してください。

- ・ はち巻き・首巻き・腰タオルはしないでください。

- ・ 音楽用のイヤホンなどを使用しないでください。コンバインに巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- 点検・整備をするときは、可動部で手足をはさんだり、鋭利なものでけがをしないように十分注意しながら作業してください。

！ 注意

- 点検・整備をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、キーを抜いてから行ってください。

※ 回転部に巻き込まれて、けがをするおそれがあります。

- 点検・整備をするときは、高温部分が十分冷めてから行ってください。

※ ヤケドやけがをするおそれがあります。

- 高いところの手入れをするときは、脚立などを用いて行ってください。

※ エンジンルームなどの上に直接登ると、高温の場所もあり危険です。

4. お手入れのしかた

4.2.2 コンバインの洗浄のしかた

⚠ 警告

- コンバインの洗浄は、平たんで安定した場所で行ってください。

※ コンバインが動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- 高圧洗浄機で洗浄するときは、洗浄ノズルを「拡散」位置にし、洗浄ノズルをコンバインから 2 m 以上離してください。

※ 電気配線の損傷・断線により火災を引き起こすおそれがあります。

※ 油圧ホースの破損により、高圧の油が噴出して傷害事故を引き起こすおそれがあります。

〈直接洗車厳禁〉

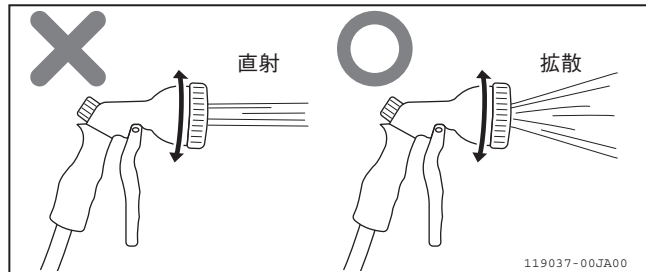


図 4-37

〈近距離放水厳禁〉

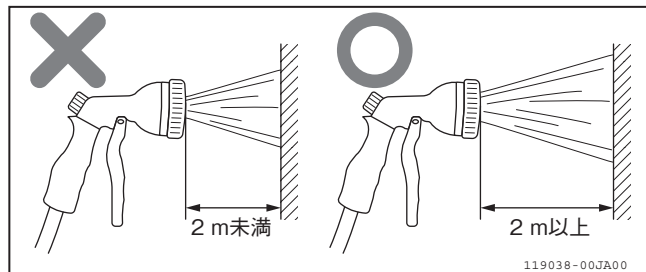


図 4-38

作業したその日のうちにコンバインを水洗いし、水洗い後は以下の掃除を行ってください。

- ・ 作業機などの回転部にはさまり、巻き付いたりしている異物やごみを取り除く
- ・ 水分をよくふき取る
- ・ さびやすいところにはグリスを塗る

- ・ 回転部・摺動部に注油する
- ・ 各グリス注入部（グリスニップル）部に、グリスアップを行う

電装品接続部（カプラー）に水や泥水などが浸入した場合は、きれいな布などで拭きとってください。

《 重要 》

洗車のしかたが不適切な場合、故障や破損の原因になります。

- ・ 安全銘板やシールのはがれ
- ・ 電子部品、エンジン・ミッション・キャビン内への水の浸入による故障
- ・ タイヤ、オイルシール、クローラなどのゴム類、樹脂製のカバー、ガラスなどの破損
- ・ 塗装、メッキ面の皮膜のはがれ

高圧洗浄機などにより洗車をするときは、以下の箇所には圧力水をかけないでください。電気部品の故障の原因になります。

- ・ メーターパネル
- ・ ステアリング周辺
- ・ 油圧・走行操作レバー周辺
- ・ バッテリー周辺
- ・ その他電装品
(スイッチやセンサ、コントローラなど)

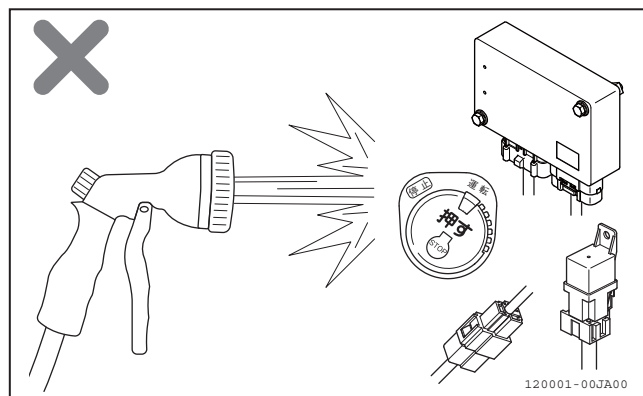


図 4-39

キャビンのガラス部、ルーフ部の洗車をするとき、高圧水を直接かけないでください。水圧を下げるか、水流を広げてください。

守らないと、キャビン内の水漏れ、電気部品の故障の原因になります。

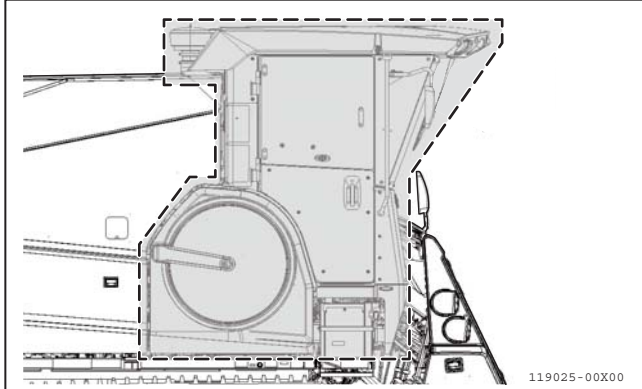


図 4-40

プレクリーナー、エアクリーナ、エンジン部には、水をかけないでください。故障の原因になります。

4.2.3 刈取部ストッパの固定・解除のしかた

警告

- 刈取部の下で点検・調節・整備をするときは、必ずエンジンを停止して、刈取部ストッパ (1) で刈取部を固定 (2) してください。

※ 固定しないと、刈取部が急に下がり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

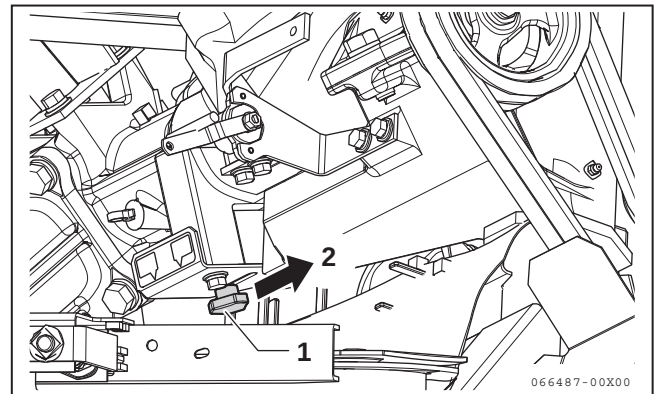


図 4-41

固定のしかた

1. エンジンを始動します。
2. 刈取昇降スイッチを「上」側、またはステアリング右スイッチを「上」側にして、刈取部を最上位置にします。
3. エンジンを停止します。
4. ノブボルトをゆるめて、「固定」位置いっぱいまでノブボルト (刈取部ストッパ) を操作します。
5. ノブボルトを締め付けて、刈取部ストッパを「固定」位置で固定します。
6. エンジンを始動して、刈取部が固定されるまで刈取部を下げます。

《 重要 》

刈取部ストッパが、「固定」位置に確実に固定されているか確認してください。

4. お手入れのしかた

固定の解除のしかた

1. エンジンを始動します。
2. 刈取昇降スイッチを「上」側、またはステアリング右スイッチを「上」側にして、刈取部を最上位置にします。
3. エンジンを停止します。
4. ノブボルトをゆるめて、「解除」位置いっぱいまでノブボルト（刈取部ストッパ）を操作します。
5. ノブボルトを締め付けて、刈取部ストッパを「解除」位置で固定します。
6. エンジンを始動して、刈取部を下げます。

《 重要 》

輸送時や移動走行時には、刈取部ストッパを使用しないでください。

4.2.4 各部の掃除のしかた

⚠ 警告

- 掃除をするときは、必ずエンジンを停止して、駐車ブレーキをかけてから行ってください。

※ エンジンをかけたまま手入れをする
と、回転刃や刈刃などで手をはさま
れ、傷害事故を引き起こすおそれ
があります。

⚠ 注意

- 掃除をした後は、外したカバーや開いた箇所を元に戻してください。

《 参考 》

異品種や稲麦の混種を防ぎ、ベアラ内部の残留を取り除くために、各部の掃除口を開き、きれいに掃除してください。

排出ガス出口およびテールパイプの掃除のしかた

⚠ 警告

- 高温部にわらくすなどが堆積・付着していると、火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- テールパイプ出口に異物が詰まり、排出ガス出口・テールパイプなどの排気管が異常に高温になると、火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- 高温部分が十分に冷めてから行ってください。

※ ヤケドやけがををするおそれがあります。

1. 排出ガス出口およびテールパイプ付近の高温部にある堆積、または付着したわらくすなどを掃除します。



図 4-42

コンデンサ部の掃除のしかた

作業終了後コンデンサ冷却用の外気吸入口（１）（キャビン右後柱面）に付着したちりを掃除します。

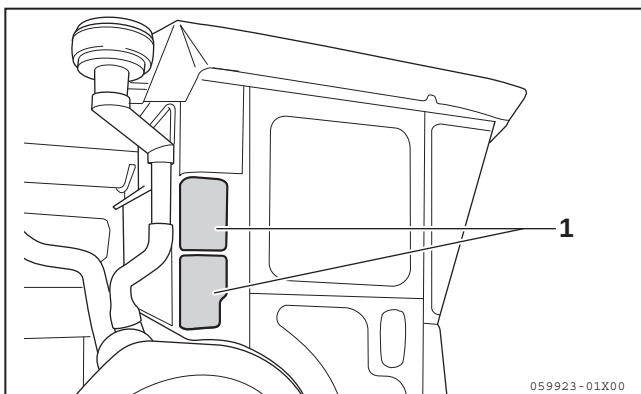


図 4-43

4.2.5 各部の注油のしかた

集中注油装置

⚠ 警告

- 注油するときは、搬送チェーンの動きに注意しながら行ってください。

※ 手が触れると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

◆ 集中注油のしかた

1. 注油コック（１）を注油したい位置にします。

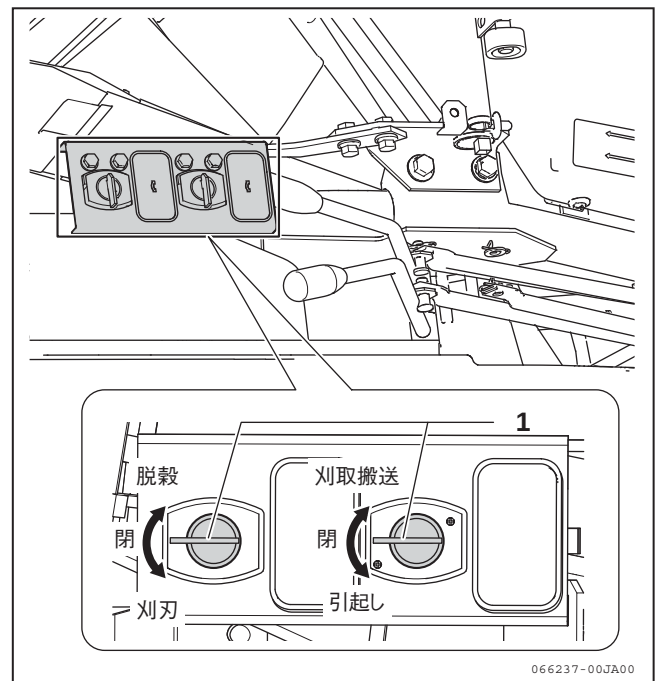


図 4-44

2. エンジンを始動します。
3. エコモードスイッチを「切」（エコランプ消灯）にします。
4. アクセルダイヤルを左に回して、エンジン回転を低回転にします。
5. 副変速レバーを「N」（中立）位置にします。
6. 作業クラッチレバーを「刈取」位置にします。
7. オールマイティシフトレバーを「F」（前進）側に少し倒して、刈取部を作動します。

《 参考 》

警報が鳴りますが、エンジン回転を高回転にしないでください。フィードチェーンの駆動が止まります。

8. 集中注油スイッチ（1）を押すと、自動的に注油されます。

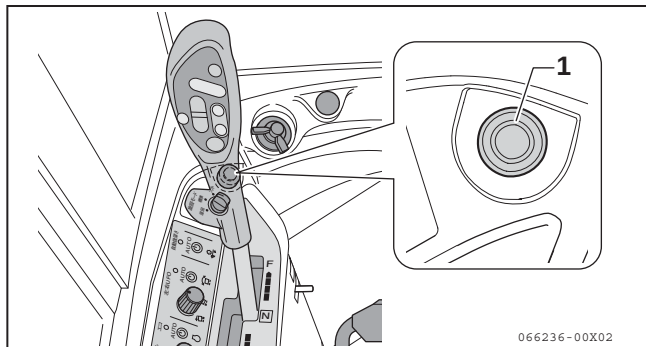


図 4-45

ベアラ……ベアラ搬送チェーン

刈刃……刈刃

刈取搬送…上部搬送チェーン・下部搬送チェーン・縦搬送チェーン・補助搬送チェーン・受継ぎ搬送チェーン

引起し……引起しチェーン

9. 注油が終わったら、注油切替コックを2つとも「閉」位置に戻します。

◆ 注油箇所

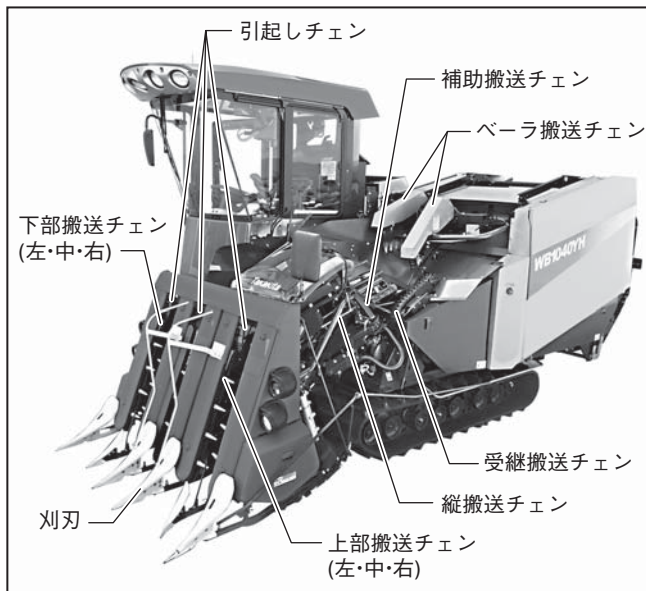


図 4-46 注油箇所

《 重要 》

- 集中注油タンクに入れるオイルは、純正エンジンオイルを使用してください。ミッションオイルや排油などを使用すると、注油ができなかったり、注油ノズルが詰まるおそれがあります。
- 注油切替コックが2カ所とも「開」の位置で、注油スイッチを押し続けないようにしてください。モータに過負荷がかかり、破損の原因になります。
- 注油切替コックを2カ所とも「開」位置で使用すると、油の飛びが弱くなります。片側の切替コックは「閉」にしてください。
- 注油切替コックを2カ所とも「閉」位置で、注油スイッチを押さないでください。注油ホースが外れたり、ポンプが故障するおそれがあります。
- 注油スイッチは10秒以上連続で押し続けしないでください。モータのコイルが焼損し注油できなくなるおそれがあります。10秒連続作動後はいったん操作をやめ、50秒以上たってからスイッチを操作してください。

4.2.6 グリスアップの箇所

掃除をした後、つぎの図の位置にグリスアップを行ってください。

◆ 刈取回動支点左

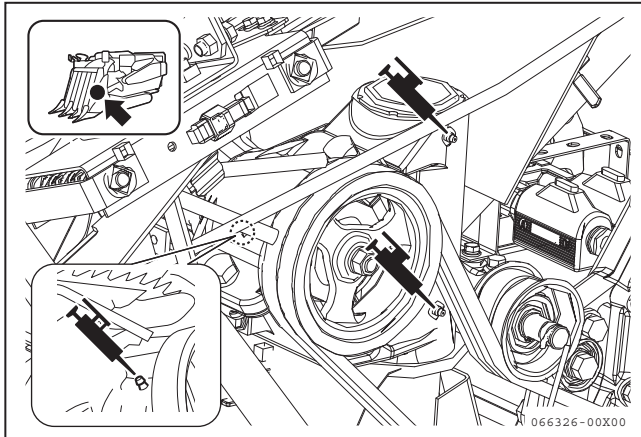


図 4-47 刈取回動支点左

◆ 刈刃駆動リンク部

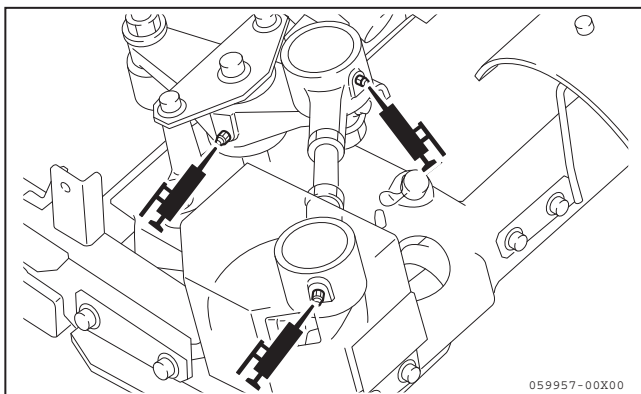
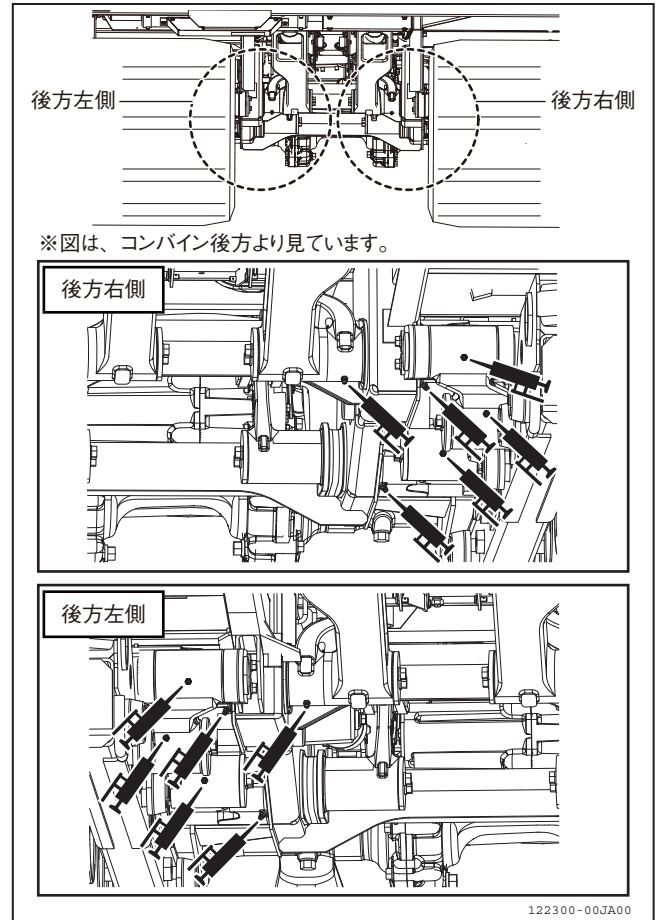


図 4-48 刈刃駆動リンク部

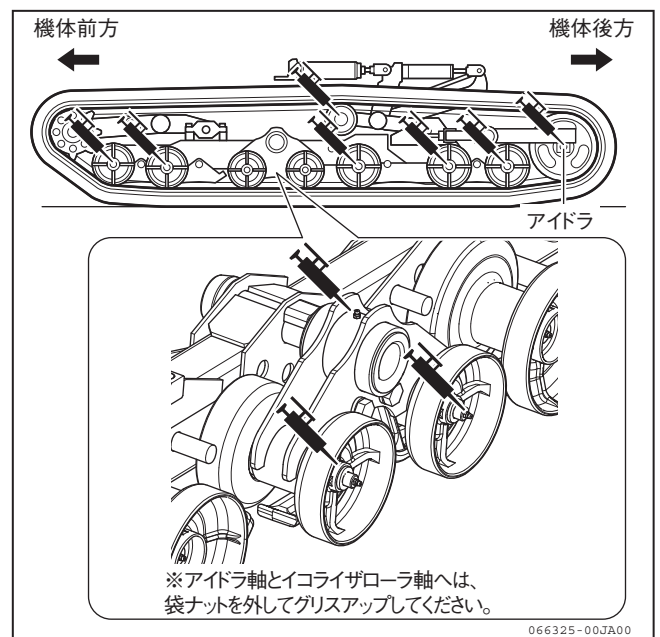
◆ クローラ部（左右）

クローラ部の後方右側 6 カ所、後方左側 6 カ所のグリスニップル箇所は無給油構造になっています。グリスはなじませる程度（少量）しか入りません。また入りづらい場合もあります。



※ 図は、機体左後方を UFO 最上げ状態にして見えています。

図 4-49 クローラ部



※ アイドラ支点部へは、袋ナットを外してグリスアップしてください。

図 4-50 クローラ部

4.2.7 ロールベアラ部の注油・グリスアップの箇所

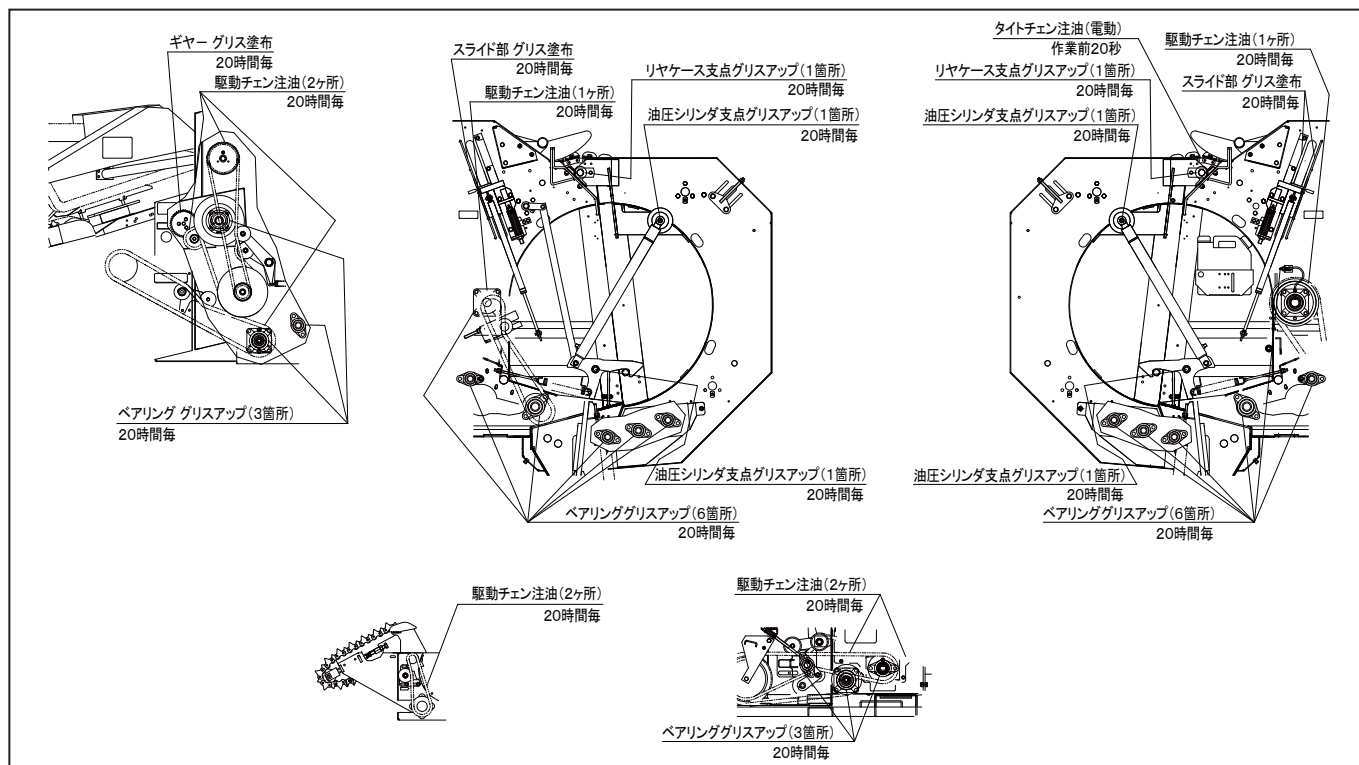


図 4-51 ロールベアラ部の注油・グリスアップの箇所

4.3 点検・整備のしかた

⚠ 警告● コモンレールエンジンの不調は、購入先にご相談ください。

※ サプライポンプとインジェクタの間には、高圧燃料が通っています。故障かなと思ったら自分で分解・修理せずに、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。高圧燃料による傷害事故を引き起こすおそれがあります。

● 点検・整備・調節をするときは、交通の危険がなく、平たんで安定した場所で行ってください。

※ コンバインが転倒するなど、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

● 刈取部を上げて点検・整備・調節をするときは、必ず刈取部ストッパを固定位置にして、刈取部を固定し、さらにウマ（支え）やジャッキをして刈取部が下がらないようにしてください。

※ 固定しないと、刈取部が急に下がり傷害事故を引き起こすおそれがあります。

● 室内で点検・整備をするときは、換気を十分に行ってください。

※ 排出ガスによる中毒を起こし、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

● 点検・整備をするときは、作業に適した服装にしてください。

※ また、可動部で手足をはさんだり、鋭利なものでけがをしないように十分注意しながら作業してください。

● 電気系統の点検・整備をするときは、バッテリーの（－）側のケーブルを外してください。

※ ショートして火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意● 点検・整備をするときは、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、各レバーを「N」（中立）、または「切」位置にして、回転部の停止を確認してからキーを抜いて行ってください。

※ 回転部に巻き込まれて、けがをするおそれがあります。

● 点検・整備をするときは、排出ガス出口などの高温部分が十分に冷めてから行ってください。

※ ヤケドやけがをするおそれがあります。

● カバーを外して点検・整備したときは、必ずカバーを元通りに取り付けてください。

※ 元通りに取り付けないと、回転部に巻き込まれたり、けがをするおそれがあります。

● 複数で作業するときは、安全を確保するために、キースイッチのキーを抜いてください。

《 重要 》

- 廃油や不凍液などの地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・溶剤・フィルター・バッテリー・その他有害物を捨てる時は、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。
- 冷媒ガスをみだりに大気中に放出することは法令で禁じられています。絶対に行わないでください。
- 冷媒ガス（フロン類）の充填・回収・廃棄は都道府県に登録された第一種フロン類充填回収業者のみが行うことができます。廃棄する場合は、登録された充填回収業者に依頼してください。
- オイルや燃料をクローラおよびエンジン防振ゴムにかけないようにしてください。もしオイルがかかったときは、十分に洗浄してください。そのままにしておくとクローラやエンジン防振ゴムの劣化や寿命が短くなるおそれがあります。
- 専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、お買い上げいただいた特販店、またはJAにご相談ください。
- 電気系統の点検・整備をするときは、バッテリーの（-）側のケーブルを外してください。

4.3.1 定期点検・整備の時期について

シーズン中でも、点検整備が必要な使用時間や状態になったら、「給油・給水一覧表」や「主要部品の耐久性と点検・交換時期の目安表」を参考に整備を行ってください。

また、定期点検や整備は、農閑期に行われることをお勧めします。農閑期に行いますと農繁期にはコンバインの性能が十分に発揮され、安全で快適な作業が行えます。

コンバインの整備不良による事故を未然に防止するため、1 シーズンごとに特販店または JA での定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。

特に、燃料パイプやラジエータホースなどのゴムホース類は 2 年ごとに交換し、電気配線は毎年点検するようにして、常にコンバインを最良の状態で安心して作業が行えるようにしてください。

4.3.2 オイル・グリス・不凍液一覧表

表 4-1 オイル・グリス・不凍液一覧表

	純正品	一般販売店の相当オイル	
		ENEOS	コスモ石油
燃料	—	ディーゼル軽油	
エンジンオイル (JASO 分類、DH-2 級) (API 分類、CJ-4 級)	クリーンロイヤルオイル 10 W-30 (DH-2 級)	ディーゼルエンジン用 SAE10W-30 相当品 (DH-2 級または CJ-4 級)	
グリス (マルチパーパスタイプ)	—	エピノックグリス AP2 または リゾコックグリス EP2	コスモグリス ダイナマックス EP
不凍液 (JIS K2234 2 種 パーマネントタイプ)	スーパーフリーズまたは ロイヤルフリーズ	アンチフリーズ PT	アンチフリーズ PT (ゴールド、シルバー)
ミッションオイル (油圧・HST オイル兼用)	トランスミッションフルード TF300	—	
ミッションオイル (カウンターケース)	トランスミッションフルード TF300		
エアコン	コンプレッサ潤滑油	ガスが抜けてしまった場合やガスの入れ替え時にはコ ンプレッサ専用潤滑油を使用してください。 ND-OIL8 (DENSO) 110 ± 10cc	
	使用冷媒 (クーラガス)	フロン R-134a 770 ± 50g	

《 重要 》

気温が -5℃ 以下のとき、燃料は 3 号または特 3 号軽油を使用してください。

4. お手入れのしかた

4.3.3 給油・給水一覧表

表 4-2 給油・給水一覧表

項目		給油量	種類	交換時期	参照 ページ
燃料		90L	ディーゼル軽油	作業前	164
冷却水	ラジエータ	14L	清水・ヤンマー不凍液	2 年ごと	172
	サブタンク	1.1L	清水・ヤンマー不凍液	2 年ごと	172
ミッションオイル (ミッションケース内油量)		11.7L	TF300 トランス ミッションフルード	1 回目：50 時間または 1 シーズン 2 回目以降： 400 時間ごと、または 2 年ごとの どちらか早いほう	168
カウンターケース (油圧作動油兼用)	ケース内	6.5L	TF300 トランス ミッションフルード	3 回目以降： 400 時間ごと、または 2 年ごとの どちらか早いほう	170
	配管	5.0L			
ミッション 車軸ケース	右	0.54L	TF300 トランス	400 時間ごと (スプロケット交換と合わせて実施)	170
	左	0.64L	ミッションフルード		
エンジンオイル		7.5L	ヤンマー純正オイル クリーンロイヤルオイル (DH-2)	1 回目：50 時間または 1 シーズン 2 回目以降： 100 時間ごと、または 1 シーズン ごとのどちらか早いほう 3 回目以降： 100 時間ごと、または 1 シーズン ごとのどちらか早いほう	166

《 重要 》

定期点検を実施すると共に、オイルの交換には純正（指定）オイルをご使用ください。

4.3.4 ロールベアラ部の点検・整備のしかた

タイトチェンの張り調整

タイトチェンが伸び、シメツケプレートが標準位置より前へ出てきたら、次の要領で調整してください。

1. Aのボルトをゆるめます。
2. ナイロンナットを締め込み、スライダが下図の位置になるように調整します。
3. Aのボルトでロックします。

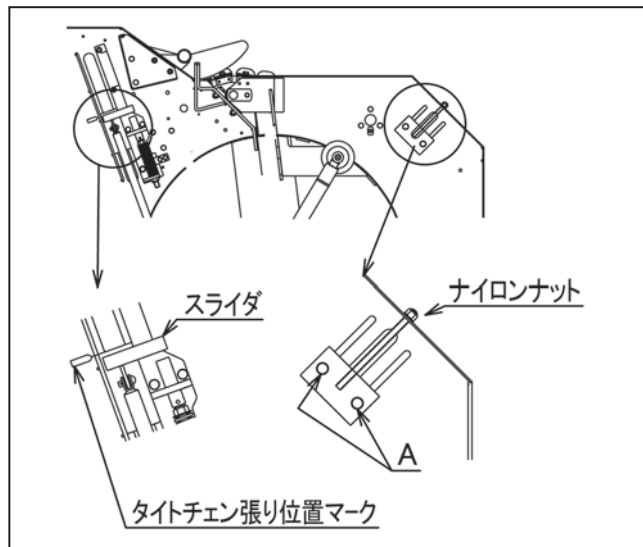


図 4-52

⚠ 注意

- チェン張り調整は、チャンバを閉じた状態で行ってください。
- 調整後は空回しして、下図のようになっていることを確認してください。
- 調整後に感知のポテンショメータの初期位置合わせを行ってください。70 ページを参照してください。

シャーボルトの交換

各部に過負荷がかかったときボルトがせん断され、本機の損傷を防止します。

◆ シャーボルトのサイズおよび場所

64 ページを参照してください。

◆ シャーボルトの交換

1. カバーを外します。
2. せん断されたボルトを除去します。
3. スプロケットを回し、ボルト穴が通る位置にします。
4. ボルトを入れ、ナイロンナットで締付けます。
5. カバーを取付けます。

自動注油

タイトチェンにはボール放出後チャンバを閉めると、5秒間自動注油されます。

作業前にベアラを回転させながら注油してください。注油方法は 68 ページを参照してください。

1. オイルタンクに約4L オイル（約 250 ベール分）を入れてください。（右カバー内）
オイルはエンジンオイル SAE5W-30 または 10W-30 を使用ください。

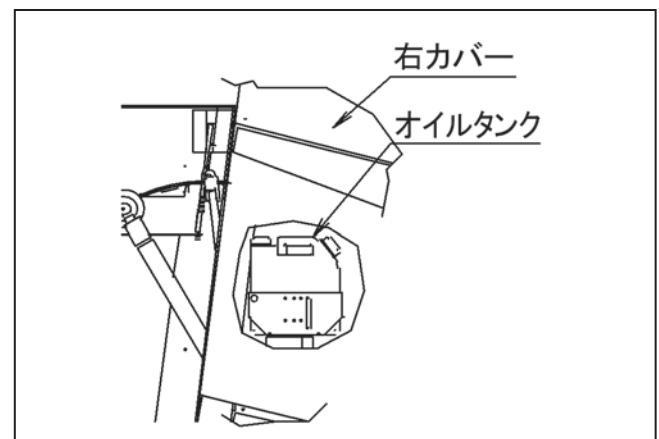


図 4-53

⚠ 注意

- 無注油での運転は絶対に行わないでください。
※ オイルポンプおよびモータの故障の原因になります。
- 粘度の高いオイルは使用しないでください。
※ モータの故障の原因になるになります。
- 注油前に注油ノズル先端のゴミを削除してください。

2. エンジンを低速で回転させてください。
3. コントロールボックスの注油ボタンを押し、20秒程度注油を続け、その後注油ボタンを OFF にします。

⚠ 警告

- 点検・調整をするときは必ずベークラッチを切り、エンジンを停止させてメインスイッチのキーを抜いてください。
※ 守らないと、重大な傷害事故を引き起こす恐れがあります。

リアチャンバの清掃

リアチャンバを開き、折返し部の左右のリンチピンを取り外し、中に溜まった残留物を取り除いてください。

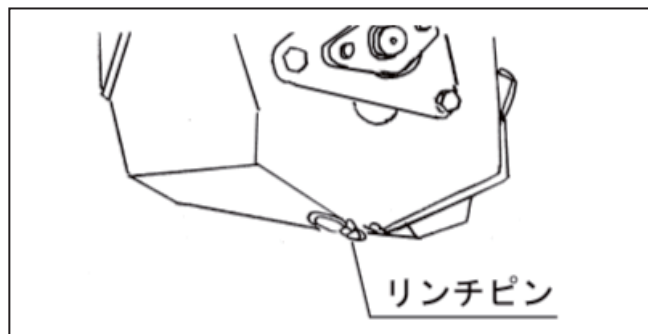


図 4-54

⚠ 警告

- チャンバの開閉は、後方に人がいないことや、障害物のないことを十分確認してください。



- 刈取部・チャンバを上げて点検等を行うときは必ずストッパを閉じてください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こす恐れがあります。

⚠ 注意

- チャンバ内を掃除してください。
※ 堆積した収穫物が腐敗し雑菌がベールに混入し、サイレージ品質を劣化させる恐れがあります。
- タイトチェンの油をふき取り、掃除してください。
※ そのままにしておくと、耐久性を損なうおそれがあります。
- チャンバを開いたまま点検する時は必ずシリンダストッパを閉じてください。

4.3.5 メンテナンス時間のリセットのしかた

画面上に表示するメンテナンス情報は、あくまで目安です。お客様の使用状況に合わせて「給油・給水一覧表」（160 ページ）または「主要部品の耐久性と点検・交換時期の目安表」（260 ページ）に従って交換してください。

オイル交換をしたときは、「メンテナンス情報時間リセットメニュー」の画面で、必ずメンテナンス情報時間をリセットしてください。

リセットしたときから、時間の積算を開始し、規定時間に達するとメンテナンス情報が表示されます。

1. 「メニュー」（スイッチ）を押します。メニュー画面が表示されます。

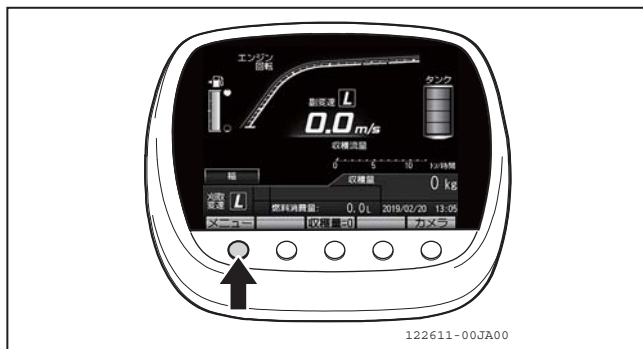


図 4-55

2. 「↑」（スイッチ）および「↓」（スイッチ）を押して「コンバイン設定」を選択し、「決定」（スイッチ）を押します。



図 4-56

3. 「↓」（スイッチ）を押して、カーソルを下に移動していくと「メンテナンス情報時間リセットメニュー」の画面に切り替わります。

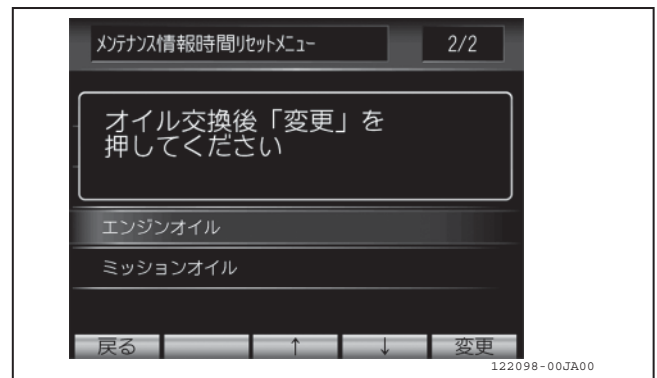


図 4-57

4. エンジンオイルを交換したときは、エンジンオイルの項目を、ミッションオイルを交換したときは、ミッションオイルの項目を、「↑」（スイッチ）および「↓」（スイッチ）を押して選択します。

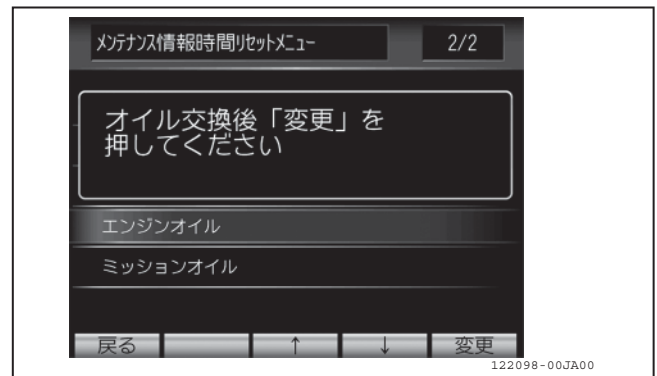


図 4-58

4. お手入れのしかた

5. 「決定」(スイッチ)を押します。「リセット」の文字が表示され、時間のリセットが確定されますので、その時点から規定交換時間が経過すると、メンテナンス情報表示されるようになります。

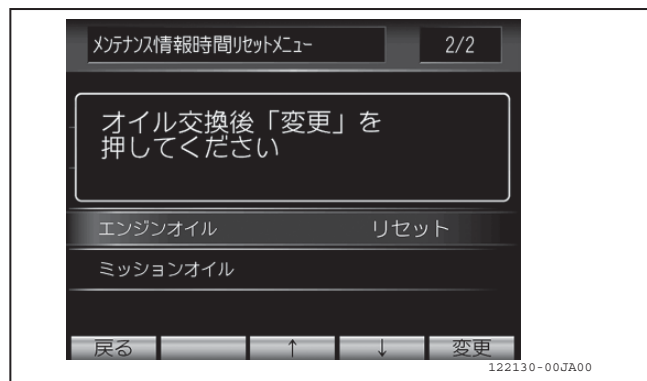


図 4-59

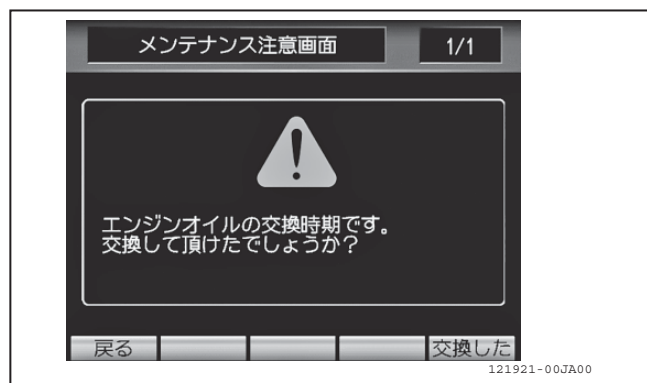


図 4-60

6. 「戻る」(スイッチ)を押すと、通常の画面に戻ります。

4.3.6 燃料の点検・補給のしかた

⚠ 危険

- 燃料の点検・補給をするときは、くわえタバコや裸火照明を絶対にしないでください。
※ 燃料に引火して火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警告

- 燃料の補給をしたときは、燃料キャップを確実に閉め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。
※ 火災が起こり、ヤケドや傷害事故を引き起こすおそれがあります。

燃料の残量点検のしかた

燃料の残量は、キースイッチを「入」にして、センターディスプレイの燃料残量表示(1)で確認します。燃料の残量が少なくなったときは、「●」マーク(2)が点灯、マークが点滅し、ブザーが断続的に鳴ります。ブザーを止めるときは、「ブザー止」(スイッチ)を押してください。

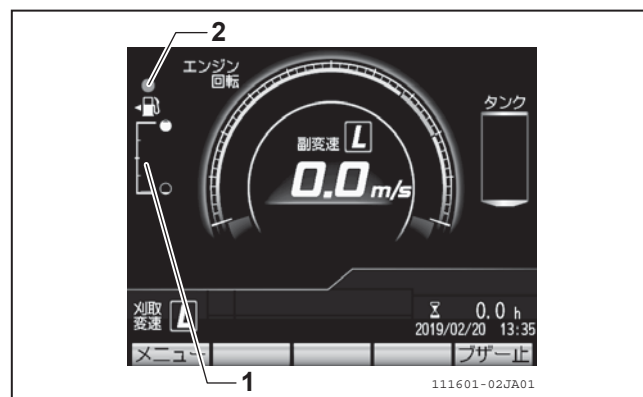


図 4-61

燃料の補給のしかた

《 重要 》

- コモンレールエンジンの燃料噴射関係の部品は精密部品です。燃料補給の際には、水や異物が混入しないように注意してください。
- 燃料を補給するときは、燃料フィルターを必ず装着してください。燃料フィルターを外したまま、燃料を補給すると、配管内で異物が詰まり、出力低下やエンジンストップの原因になるおそれがあります。

キースイッチを「入」にしてから燃料キャップを外し、燃料をフィルターから液面が見えはじめるまで補給してください。

燃料給油時に満量近くになると、ブレーキランプが点滅し、ブザーが鳴ります。燃料がこぼれないように注意して給油してください。「ブザー止」(スイッチ)を押すと、ブザーは鳴り止みます。

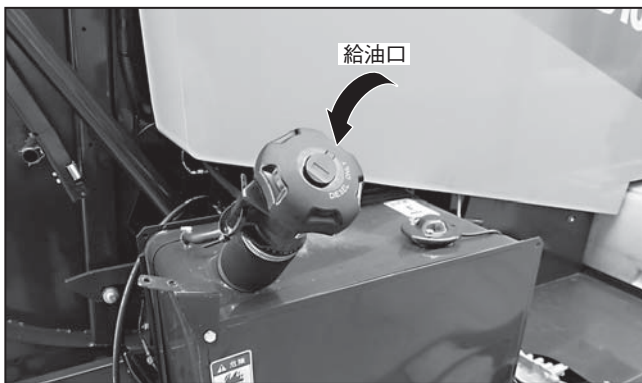


図 4-62

《 重要 》

- 燃料を補給するときは、燃料フィルターを必ず装着してください。燃料フィルターを外したまま、燃料を補給すると、配管内で異物が詰まり、出力低下やエンジンストップの原因になるおそれがあります。
- 燃料補給は、給油口のフィルター下方に液面が見えてきたら、給油をやめてください。冬季など燃料の温度が低いときに、燃料を給油口いっぱいまで入れていると、気温の上昇と共に膨張し、ブリーザパイプから漏れることがあります。
- このコンバインのエンジンは排出ガス規制対応のため、燃料噴射部品に精密部品を使用しています。使用燃料を保管する場合は、重鉛メッキ鋼板の容器の使用はさけ、樹脂製、ステンレス製などの容器を使用してください。燃料の中に重鉛、または鉛物質が溶け出すと、エンジン不調の原因になる場合があります。

4.3.7 オイルの点検・補給・交換のしかた

《 重要 》

- 地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・溶剤・フィルター・バッテリー・その他有害物を捨てる時は、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。
- 冷媒ガスをみだりに大気中に放出することは法令で禁じられています。絶対に行わないでください。
- 冷媒ガス（フロン類）の充填・回収・廃棄は都道府県に登録された第一種フロン類充填回収業者のみが行うことができます。廃棄する場合は、登録された充填回収業者に依頼してください。
- オイルや燃料をクローラおよびエンジンマウントゴムにかけないようにしてください。もしオイルがかかったときは、十分に洗浄してください。そのままにしておくとクローラやエンジンマウントゴムの劣化や寿命が短くなるおそれがあります。
- オイルや燃料を補給・交換するときは、電装部品にかからないようにしてください。故障の原因になるおそれがあります。

エンジンオイル

エンジンオイルの点検・補給・交換は、エンジン始動前か、エンジンが冷えているときに行ってください。作業終了後は、元通りにセットしてください。

表 4-3 エンジンオイル

推奨 エンジンオイル	交換時期	規定量
クリーン ロイヤルオイル 10W-30 (DH-2)	1 回目： 50 時間後、または 1 シーズン後 2 回目以降： 100 時間ごと、または 1 シーズンごとのどちらか 早いほう 3 回目以降： 100 時間ごと、または 1 シーズンごとのどちらか 早いほう	7.5L

◆ 交換時期について

「給油・給水一覧表」（160 ページ）に従って交換してください。使用時間が交換時期になると、センターディスプレイにメンテナンス情報が表示されます。

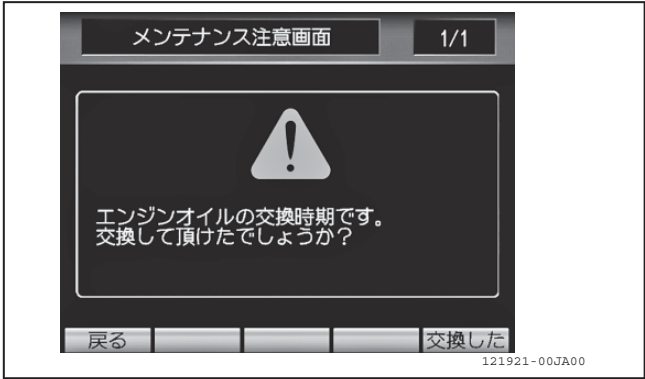


図 4-63

● 表示のリセットのしかた

交換を済ませた場合は、「交換した」（スイッチ）を押してください。設定時間までの積算時間がリセットされます。

● すぐに交換しない場合

「戻る」（スイッチ）を押してください。つぎにキースイッチを「入」位置にしたときにも、「交換した」（スイッチ）を押すまで表示されます。

《 参考 》

メンテナンス情報は、約 5 秒で表示が消える設定になっています。また、メンテナンス情報の表示は 3 回までです。3 回の表示が終わると、自動的に積算時間がリセットされますので注意してください。

◆ 点検のしかた

1. 検油ゲージ（1）を抜いて、先端をきれいにふき取ります。

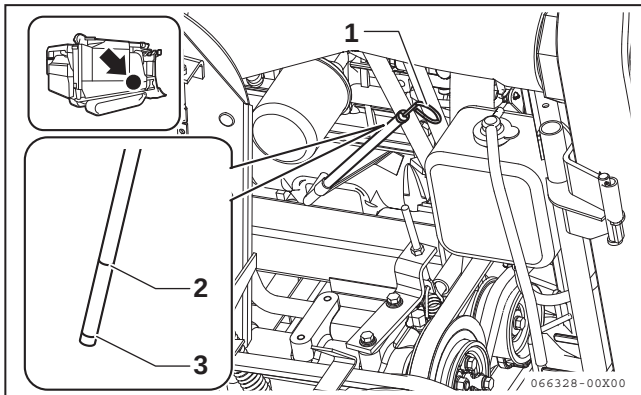


図 4-64

2. 検油ゲージを元通りに差し込んだ後、もう一度抜き出して、ゲージの上限（2）と下限（3）の間にオイルがあることを点検します。
3. 点検後は、検油ゲージを元通りに取り付けます。

《 参考 》

点検時、オイル漏れのないことを確認してください。

◆ 補給のしかた

オイルが不足している場合は、給油口（1）から規定量になるまで補給します。

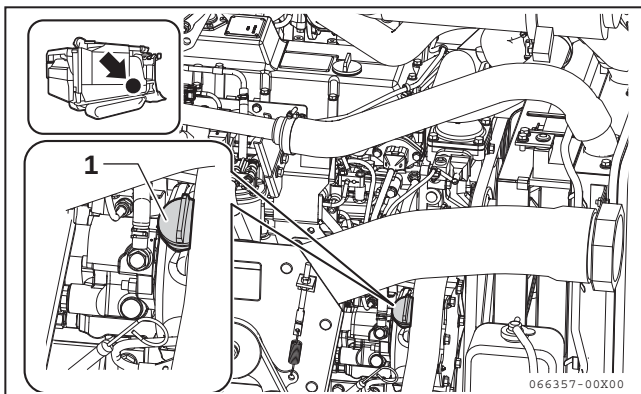


図 4-65

《 重要 》

エンジン上部（ボンネット部）にも給油口がありますが、上部の給油口からは給油しないでください。エンジンの破損につながるおそれがあります。

◆ 交換のしかた

1. ドレンプラグの下に、古いオイルを受ける容器を置きます。

《 参考 》

オイルがクローラにかからないように、厚紙などを折り曲げて、樋状にしたものを使用してオイルを受けてください。

2. 給油口のふたを外した後、ドレンプラグ（1）を外します。古いオイルが流れ出てきます。

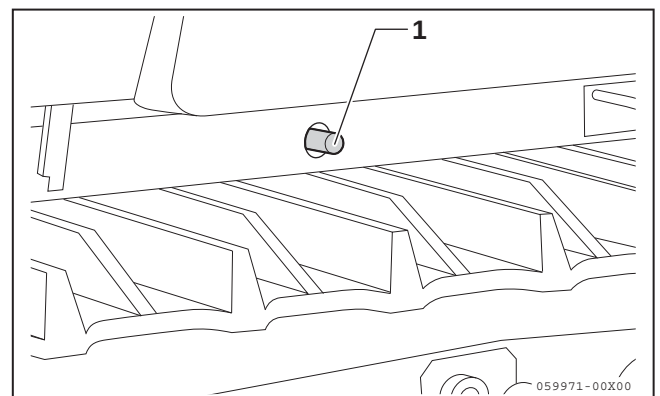


図 4-66

《 参考 》

給油口のふたを外すと、オイルが抜けやすくなります。

3. 古いオイルが抜けきったら、ドレンプラグを元通りに取り付けます。
4. 給油口から、エンジンオイルを規定量まで給油します。
5. 給油口にふたを取り付けます。
6. エンジンを始動し、5分程度、低速回転で回します。
7. エンジンを停止し、油圧警報が表示されないことを確認し、約5分間待ちます。
8. 検油ゲージでオイル量を点検します。不足している場合は、補給します。

4. お手入れのしかた

《 参考 》

センターディスプレイに、メンテナンス情報が表示される前にエンジンオイル交換をしたときは、「メンテナンス情報時間リセットメニュー」の画面でメンテナンス情報時間をリセットしてください。(163 ページ)

メンテナンス情報時間は、リセットしたときから時間の積算を開始しますので、リセットしないと、規定時間前に、メンテナンス情報を表示してしまいます。

ミッションオイル

ミッションオイルの点検・補給・交換は、刈取部を最上状態にして、刈取部をロックしてから行ってください。(151 ページ)

作業終了後は、元通りにセットしてください。

表 4-4 ミッションオイル

推奨オイル	交換時期	規定量
TF300 トランス ミッション フルード	1 回目： 50 時間または 1 シーズン	11.7 L
	2 回目： 400 時間または 2 年の どちらか早いほう	
	3 回目以降： 400 時間ごと、または 2 年ごとのどちらか早いほう	

◆ 交換時期について

「給油・給水一覧表」(160 ページ)に従って交換してください。使用時間が交換時期になると、センターディスプレイにメンテナンス情報が表示されます。

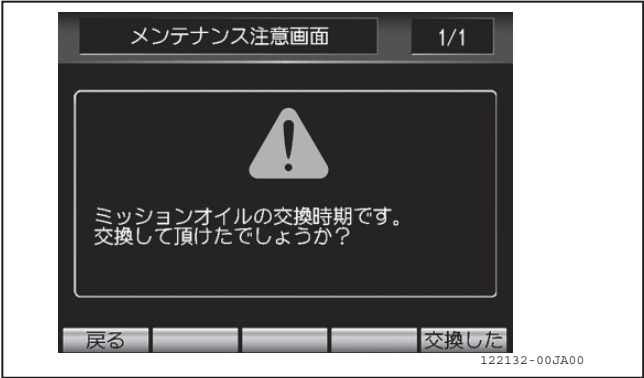


図 4-67

● 表示のリセットのしかた

交換を済ませた場合は、「交換した」(スイッチ)を押してください。設定時間までの積算時間がリセットされます。

● すぐに交換しない場合

「戻る」(スイッチ)を押してください。つぎにキースイッチを「入」位置にしたときにも、「交換した」(スイッチ)を押すまで表示されます。

《 参考 》

メンテナンス情報は、約 5 秒で表示が消える設定になっています。また、メンテナンス情報の表示は 3 回までです。3 回の表示が終わると、自動的に積算時間がリセットされますので注意してください。

◆ 点検のしかた

1. エンジンを始動します。
2. コンバインを水平にします。
3. 刈取昇降スイッチを「上」側にします。刈取部を最上げ位置にします。
4. エンジンを停止します。
5. 刈取部ストッパのノブボルトをゆるめて、「固定」位置いっぱいまでノブボルト（刈取部ストッパ）を操作します。（151 ページ）
6. 刈取部ストッパのノブボルトを締め付けて、刈取部ストッパを「固定」位置で固定します。
7. エンジンを始動して、刈取部が固定されるまで刈取部を下げます。

《 重要 》

刈取部ストッパが、「固定」位置に確実に固定されているか確認してください。

8. エンジンを停止します。
9. フィードチェンを開きます。
10. ミッション前部の検油窓（1）でオイル量を点検します。規定量は上部検油窓の半分の位置です。

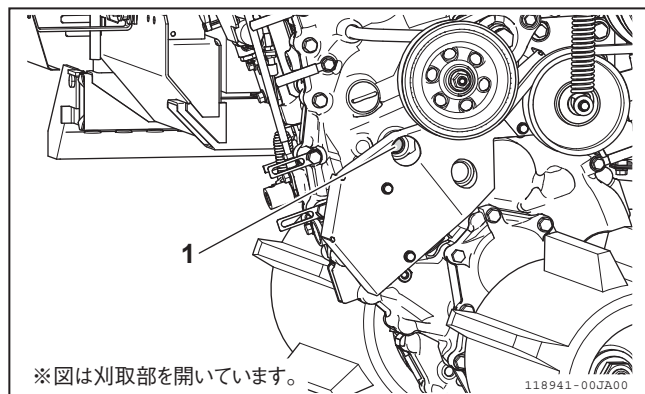


図 4-68

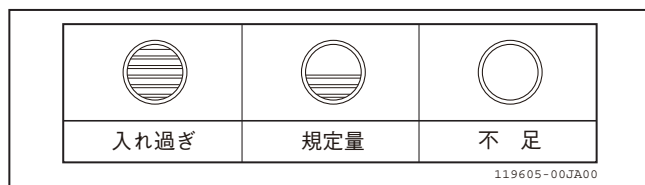


図 4-69 検油窓の見かた

《 重要 》

点検時、オイル漏れのないことを確認してください。

◆ 補給のしかた

オイルが不足している場合は、給油口（1）から規定量（検油窓（3）の半分の位置）まで補給してください。

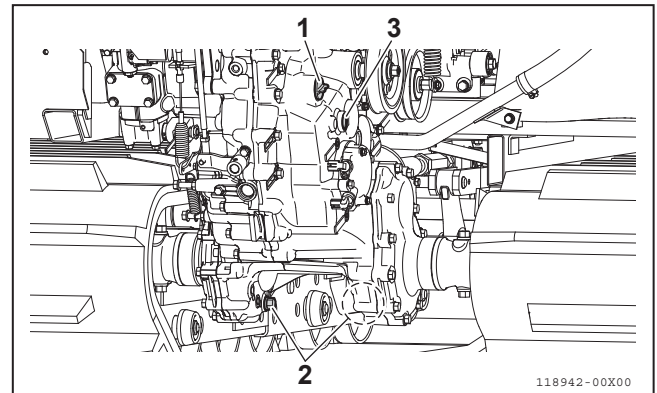


図 4-70

◆ 交換のしかた

1. ミッションケース下部のドレンプラグ（2）の下に、古いオイルを受ける容器を置きます。
2. 給油口のふたを外した後、ドレンプラグを外します。古いオイルが流れ出てきます。

《 参考 》

給油口のふたを外すと、オイルが抜けやすくなります。

3. 古いオイルが抜けきったら、ドレンプラグを元通りに取り付けます。
4. 給油口からミッションオイルを給油します。
5. 給油口のふたを取り付けます。

《 重要 》

ミッションオイルの交換後は、前記の「点検のしかた」に従って、オイルが規定量あるか確認してください。

《 参考 》

センターディスプレイに、メンテナンス情報が表示される前にミッションオイル交換をしたときは、「メンテナンス情報時間リセットメニュー」の画面でメンテナンス情報時間をリセットしてください。（163 ページ）

メンテナンス情報時間は、リセットしたときから時間の積算を開始しますので、リセットしないと、規定時間前に、メンテナンス情報を表示してしまいます。

4. お手入れのしかた

◆ 車軸ケースオイルの交換のしかた

ミッションは、ミッションケース（本体）と車軸ケースのオイルがオイルシールで分離されています。車軸ケースのオイルを交換するときは、車軸ケース下のドレンプラグ（1）を外して行います。

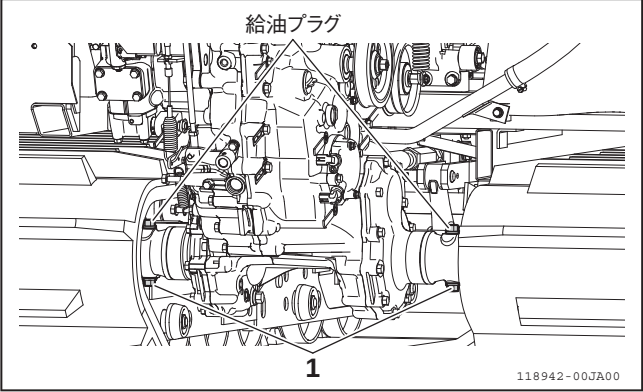


図 4-71

表 4-5 車軸ケースオイル

推奨オイル	交換時期	規定量	
TF300 トランス ミッション フルード	400 時間ごと (スプロケット交換と 合わせて実施)	右側	0.54L
		左側	0.64L

点検・補給・交換が終わったら、逆の手順で刈取部ストッパを解除し、刈取部を下げてください。
(151 ページ)

その他の給油箇所

《 参考 》

オイルの点検・補給・交換の必要なときは、特
販店、または JA に相談してください。
(159 ページ)

表 4-6 その他のオイル

	推奨オイル	交換時期	規定量	
カウンター ケース	TF300 トランス ミッション フルード	1 回目： 50 時間または 1 シーズン	ケース内	6.5L
		2 回目： 400 時間または 2 年のどちらか早 いほう 3 回目以降：400 時間ごと、または 2 年ごとのどちら か早いほう		
減速ギア ケース	ギアオイル #90	1 回目： 50 時間または 1 シーズン	配管	5.0L
		2 回目： 400 時間または 2 年のどちらか早 いほう 3 回目以降：400 時間ごと、または 2 年ごとのどちら か早いほう		

◆ カウンターケース

カウンターケースの油量を確認する場合は、いったん刈取部を最上げにし、刈取部ストッパ位置にします。その後、刈取部を「固定」位置まで下げてから行います。(151 ページ)

車体水平 (UFO) は最下げにします。

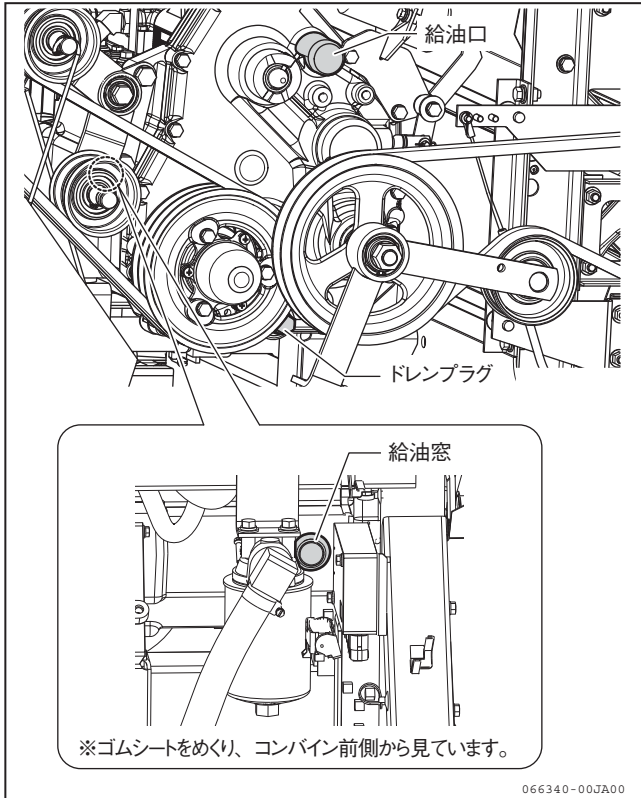


図 4-72

◆ ミッション

1. 図の辺りにあるカバーを取り外します。

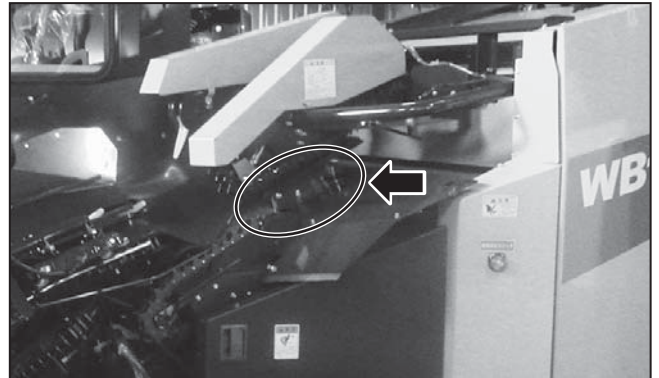


図 4-73

2. 下図のような形状をしているカバーを取り外します。(ボルトで止まっています。)

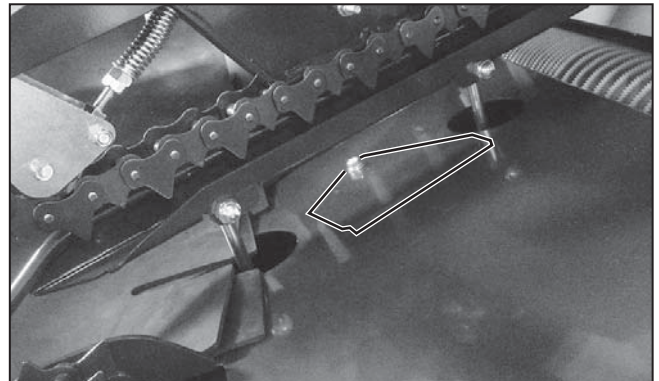


図 4-74

3. カバーを取り外すと給油口があります。

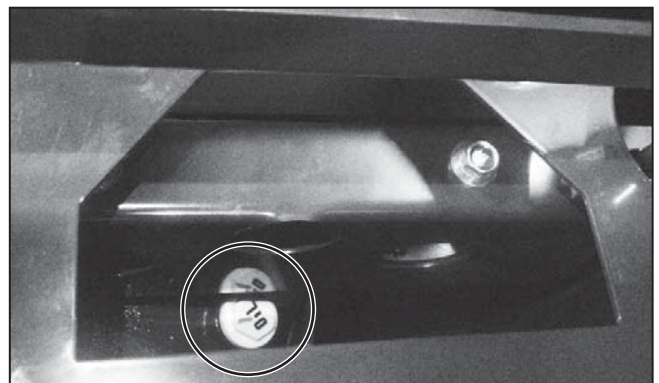


図 4-75

4. お手入れのしかた

4.3.8 冷却水の点検・補給・交換のしかた

⚠ 危険

- ラジエータキャップは、エンジン運転中や停止直後には絶対に外さないでください。

※外すと熱湯が噴き出して、ヤケドや死亡事故を引き起こすおそれがあります。エンジン停止後 30 分以上経過し、エンジンが冷えてからラジエータキャップを徐々にゆるめ、蒸気の圧力を抜いてから開けてください。

⚠ 注意

- エンジンルームなどの上には、直接登らないでください。高温になっている箇所もあり危険です。
脚立などを用いて行ってください。

《 重要 》

- 地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・溶剤・フィルター・バッテリー・その他有害物を捨てる時は、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。
- 冷媒ガスをみだりに大気中に放出することは法令で禁じられています。絶対に行わないでください。
- 冷媒ガス（フロン類）の充填・回収・廃棄は都道府県に登録された第一種フロン類充填回収業者のみが行うことができます。廃棄する場合は、登録された充填回収業者に依頼してください。

冷却水の点検・補給・交換は、エンジンルームを開いてから行ってください。（140 ページ）
作業終了後は、元通りにセットしてください。

◆ 点検のしかた

サブタンク内の冷却水が「FULL」「LOW」の範囲内にあるか点検してください。

《 参考 》

点検時、水漏れのないことを確認してください。

◆ 補給のしかた

1. サブタンク（1）を前に倒します。

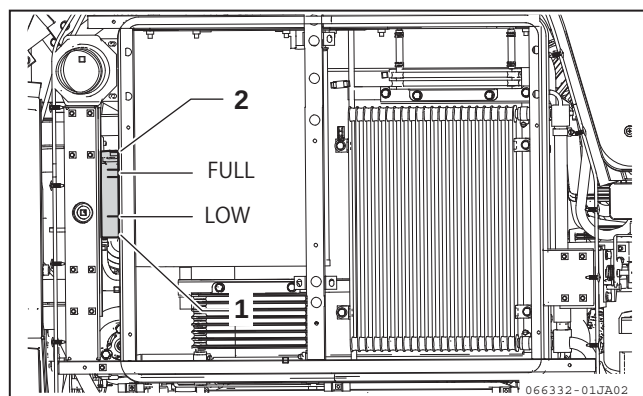


図 4-76

2. 冷却水が不足している場合は、サブタンクのキャップ（2）を外し、きれいな水道水を補給します。

◆ 交換のしかた

表 4-7 冷却水

推奨不凍液	ロイヤルフリーズ
交換時期	2 年ごと

1. ラジエータキャップ（1）を外します。

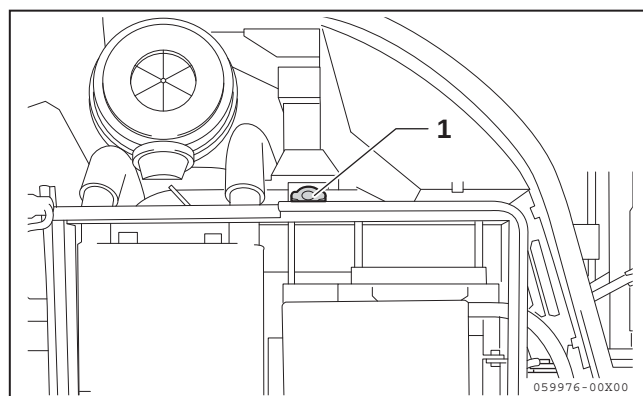


図 4-77

- ドレンコック（1）を外し、ラジエータ内の水をすべて抜きます。

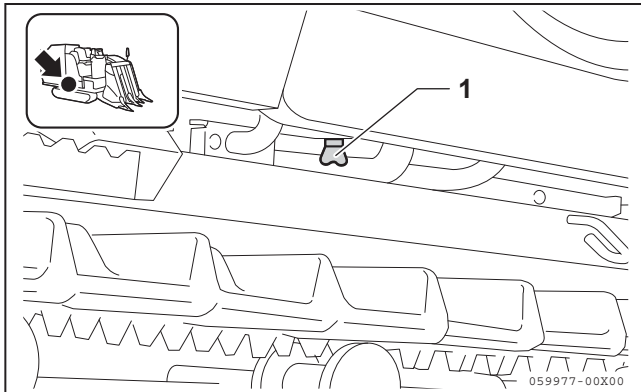


図 4-78

- 水道水でごみやさびが出なくなるまでラジエータ内を洗います。

《 参考 》

ラジエータ内をきれいにしたいときは、ラジエータ洗浄剤を混合した水をラジエータに入れ、15 分以上エンジンを空運転してから、水を抜き取ってください。

- ドレンコックを元通りに取り付け、不凍液を必要量入れた後、水道水をあふれるまで入れます。
- ラジエータキャップを取り付けます。
- エンジンを始動し、5 分間エンジンを空運転して、不凍液の混合を早めます。
- エンジン停止後、再度サブタンク内の冷却水量が規定量あるか確認します。

◆ 不凍液の取り扱いについて

- 不凍液は、水の凍結温度を下げる効果があります。不凍液の混合比によって凍結温度が異なりますので、厳寒地帯などでは表 4-9 を参考にして、安全な濃度で使用してください。

表 4-8 不凍液混合率表

外気温度 (℃)	- 5	- 10	- 15	- 20	- 25	- 30
比 水 (%)	85	75	70	65	60	55
率 不凍液 (%)	15	25	30	35	40	45

- 出荷時には、不凍液が入っています。冷却水交換時には、新たに不凍液を入れてください。
- 不凍液の混合比は、メーカーによって多少異なりますので、メーカーの取扱説明書の指示に従ってください。
- 冷却水が自然に不足した場合は、水道水だけを入れてください。また、パーマネントタイプを使用しているときは、比重を測定して確認してください。
- 不凍液の有効期限は 1 年です。毎年、新しい不凍液と交換してください。

《 重要 》

軟水（硬度:0 ～ 100mg/L）を使用してください。守らないと、エンジン、ラジエータ内にミネラル成分が析出し、破損するおそれがあります。（水道水が軟水の場合は、水道水を使用してください。）

4. お手入れのしかた

4.3.9 エンジンオイルエレメントの交換のしかた

エンジンオイルエレメントは、エンジンオイル内の小さな異物をこし取るものです。カートリッジタイプになっていますので、掃除はできません。定期的に交換してください。

表 4-9 エンジンオイルエレメント

交換時期	1 回目：50 時間または 1 シーズン後 2 回目以後：300 時間ごと
------	--

表 4-10 品名、コード No.

品名	コード No.
フィルタ D80 × L80	129150-35153

作業は、エンジンルームを開いてから行ってください。
(140 ページ)
作業終了後は、元通りにセットしてください。

《 参考 》

エンジンオイルエレメントの交換と同時に、エンジンオイルの交換も行ってください。
(166 ページ)

交換のしかた

エンジンオイルエレメントの交換は、エンジンオイルを抜き取った後に行ってください。

1. オイルエレメント (1) を、矢印方向に回して外します。

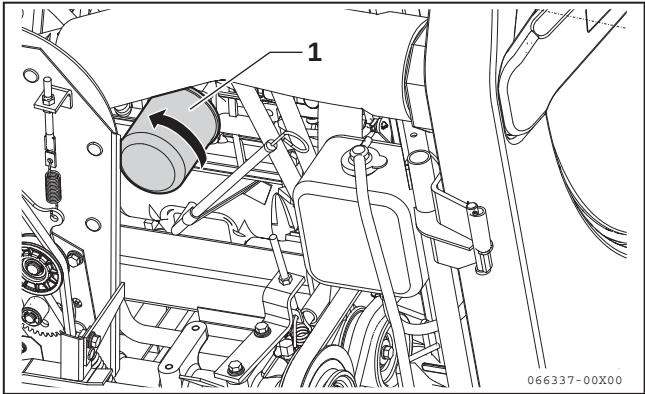


図 4-79

2. 新しいオイルエレメントの底面にあるゴムリングに、オイルを塗布します。
3. オイルエレメントを、ゴムリングがエンジンケースに接触する位置までねじ込んだ後、2/3 回転締め付けます。

《 重要 》

- 交換後は、オイルエレメント取付面からのオイル漏れやにじみがないか、必ず点検してください。
- エンジンオイルエレメントは、ヤンマー純正部品をご使用ください。

4.3.10 HST フィルターの交換のしかた

HST オイルは、ミッションオイルと兼用しています。HST フィルターは、カートリッジタイプになっていますので、掃除はできません。定期的に交換してください。

表 4-11 HST フィルター

交換時期	1 回目：50 時間
	2 回目以後：400 時間ごと

表 4-12 品名、コード No.

品名	コード No.
カートリッジ CMP	1A7180-48210

《 参考 》

HST フィルターの交換と同時に、ミッションオイルの交換も行ってください。(168 ページ)

交換のしかた

HST フィルターの交換は、ミッションオイルを抜き取った後に行ってください。

1. エンジンルームを開きます。
2. HST フィルター (1) を、矢印方向に回して外します。

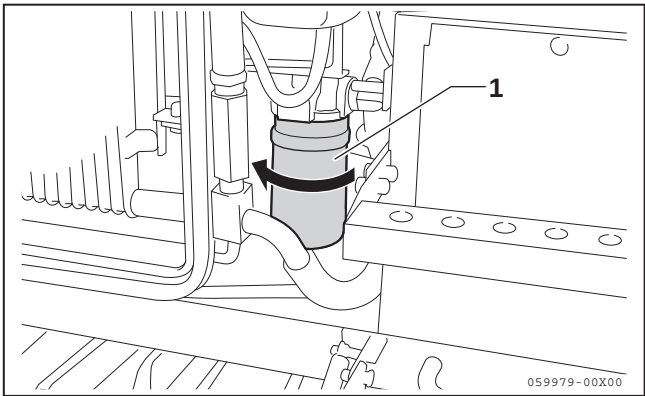


図 4-80

3. 新しい HST フィルターの底面にあるゴムリングに、オイルを塗布します。
4. HST フィルターを、ゴムリングがミッションケースに接触する位置までねじ込んだ後、2/3 回転締め付けます。

《 重要 》

- 交換後は、HST フィルター取付面からオイル漏れやにじみがないか、必ず確認してください。
- HST フィルターは、ヤンマー純正部品をご使用ください。

4. お手入れのしかた

4.3.11 カウンターケースのオイルフィルターの交換のしかた

カウンターケースのオイルフィルターは、カートリッジタイプになっていますので、掃除ができません。定期的に交換してください。

表 4-13 カウンターケースのオイルフィルター

交換時期	1 回目：50 時間 2 回目以後：400 時間ごと
------	-------------------------------

表 4-14 品名、コード No.

品名	コード No.
カートリッジ CMP	1E6A80-66080

交換のしかた

1. カウンターケースのオイルフィルター（1）を、矢印方向に回して外します。

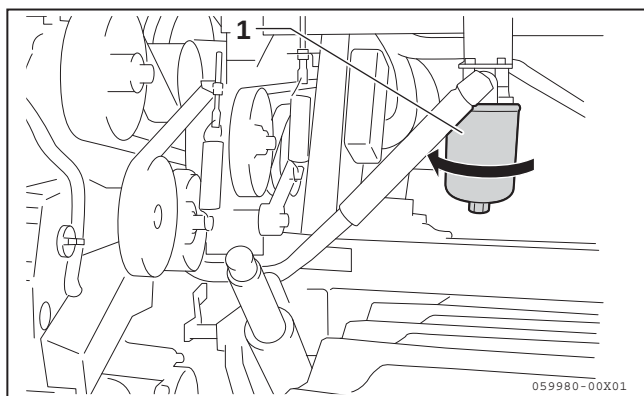


図 4-81

2. 新しいカウンターケースのオイルフィルターの底面にあるゴムリングに、オイルを塗布します。
3. オイルフィルターを、ゴムリングがミッションケースに接触する位置までねじ込んだ後、2/3 回転締め付けます。

《 重要 》

- 交換後は、オイルフィルター取付面からオイル漏れやにじみがないか、必ず確認してください。
- カウンターケースのオイルフィルターは、ヤンマー純正部品をご使用ください。

4.3.12 ウォーターセパレータエレメントの点検・ドレン抜き・掃除・交換のしかた

表 4-15 ウォーターセパレータエレメント

水抜き・洗浄	1 回目：50 時間 2 回目以後：100 時間ごと
--------	-------------------------------

表 4-16 品名、コード No.

品名	コード No.
エレメント	129A00-55730

《 重要 》

- ウォーターセパレータを表 4-16 に従って定期的に点検し、水がたまっていたり、汚れのある場合は、水抜き・洗浄を行ってください。サプライポンプまたはインジェクタが焼き付くおそれがあります。
- ウォーターセパレータに多くの水がたまっている場合は、エンジンを始動せず、購入先に連絡して点検・整備を受けてください。サプライポンプまで水が浸入しているおそれがあります。

点検のしかた

1. カッタを開きます。
2. ボルト（4 本）外し、カバーを外します。
3. 燃料タンクの前側にウォーターセパレータ（油水分離器）（1）があります。表 4-15 に従って定期的に点検します。特にセンターディスプレイ下部に警報画面が表示された場合は、ウォーターセパレータに水がたまっていますので、すみやかに中の水を抜きます。

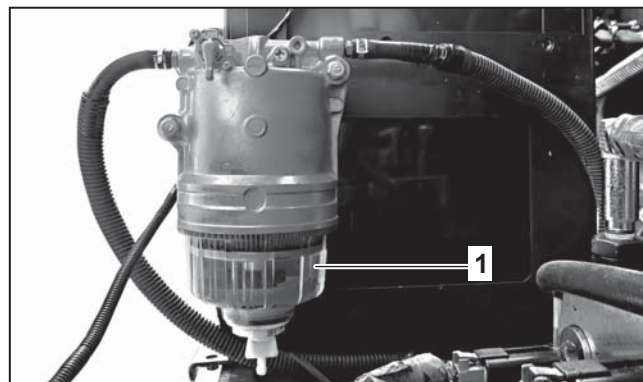


図 4-82

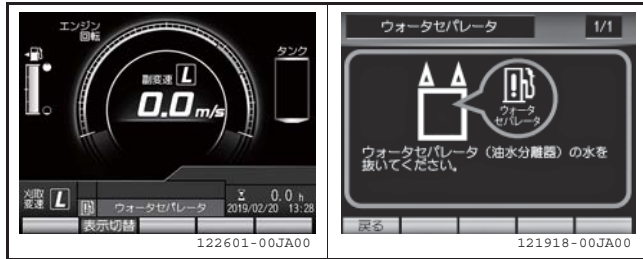


図 4-83 警報画面

ドレン抜きのしかた

1. カッタを開きます。
2. ボルト (4 本) 外し、カバーを外します。
3. ウォーターセパレータ (1) のコック (2) を「OFF」 (閉) 位置にします。

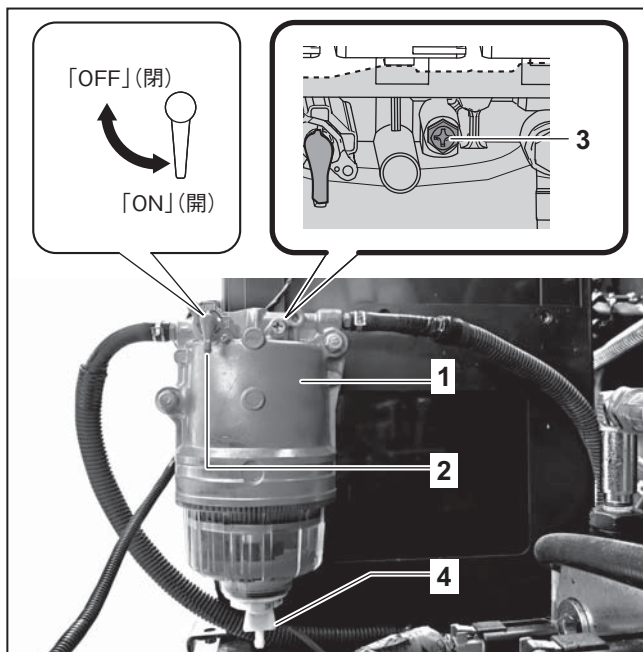


図 4-84

4. エア抜きプラグ (3) をゆるめます。
5. ドレンプラグ (4) を回してエア抜きプラグを外し、中の燃料と水をすべて抜きます。
6. ドレンプラグとエア抜きプラグを元通りに締めます。
7. 燃料タンクのドレン抜きを行います。
8. 燃料のエア抜きを行います。(186 ページ)

《 重要 》

- 空気が入ったときは、燃料のエア抜きをしてください。(186 ページ)
- ドレン抜きを行うときは、ドレン下方に容器を用意してください。

掃除のしかた

1. カッタを開きます。
2. ボルト (4 本) 外し、カバーを外します。
3. ウォーターセパレータ (1) のコック (2) を「OFF」 (閉) 位置にします。

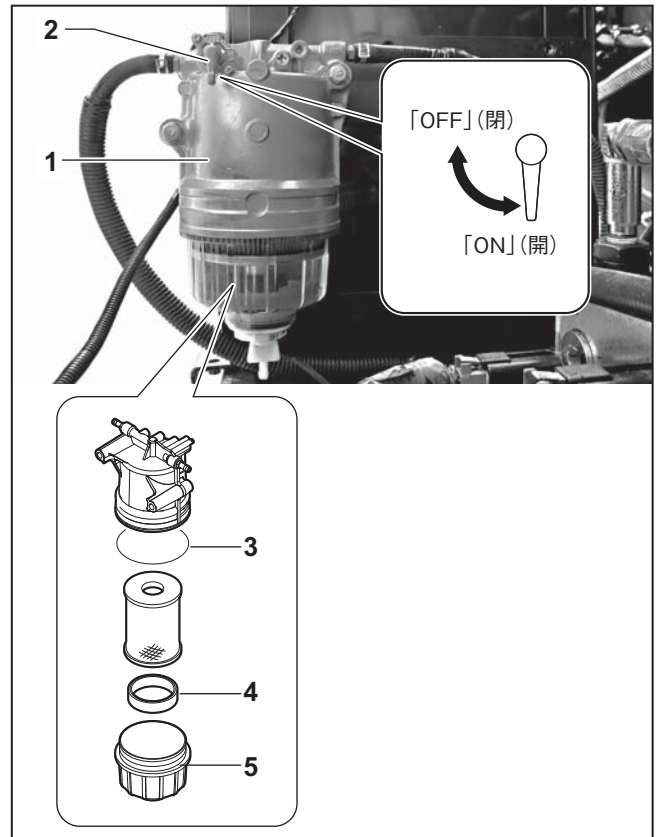


図 4-85

4. FO フィルターカップ (5)、フロート (4)、O リング (3) を外し、水・ごみを取り除きます。
5. コシ器の洗浄が終わったらエレメントと FO フィルターカップ、フロート、エレメントと O リングを元通りに取り付けます。
6. ウォーターセパレータのコックを「ON」 (開) 位置にします。

交換のしかた

コシ器内のエレメントは、300 時間ごとに交換が必要です。

要領は、掃除のしかたと同じです。前記 4. のときに、エレメントを交換してください。

表 4-17 交換時期

交換時期	300 時間ごと
------	----------

4. お手入れのしかた

4.3.13 燃料フィルターの交換のしかた

燃料フィルターは、燃料内の小さな異物をこし取るものです。カートリッジタイプになっていますので、掃除はできません。定期的に交換してください。

表 4-18 燃料フィルター

交換時期	300 時間ごと
------	----------

表 4-19 品名、コード No.

品名	コード No.
FO フィルタ	129A00-55800

交換のしかた

1. カートリッジ(1)を、矢印方向に回して外します。

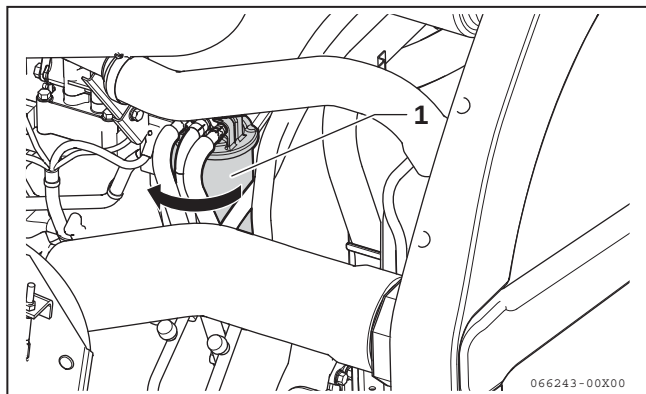


図 4-86

2. 新しいカートリッジのゴムリングに、オイルを塗布します。
3. カートリッジを、ゴムリングがエンジンケースに接触する位置までねじ込んだ後、2/3 回転締め付けます。
4. エア抜きを行います。(186 ページ)

《 重要 》

- 交換後は、カートリッジ取付面からの燃料漏れやにじみがないか、必ず点検してください。
- 燃料フィルターは、ヤンマー純正部品をご使用ください。

4.3.14 排気フィルターの再生のしかた

⚠ 危険

- 再生中は、周囲に十分注意をはらい、特に子供を近寄らせないようにし、コンバインから離れないでください。
※ 火災や死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警告

- 再生中および再生直後は、排気フィルター周辺や排出ガスの出口が高温になります。絶対に触らず近づかないようにしてください。
※ やけどなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。可燃性のものが周囲にないように常にきれいにしてください。また、再生直後はシートをかけないようにしてください。
- 倉庫や車庫など、閉めきった屋内では排気フィルターの再生をしないでください。
※ 再生するときは、風通しのよい屋外で行ってください。排出ガスによる中毒を起こし、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

《 重要 》

エンジンオイルは、必ず指定のオイルを使用してください。指定以外のオイルを使用すると、排気フィルターが目詰まりして故障の原因となります。

《 参考 》

- 再生中の排出ガスは、通常時とは異なる臭いが発生しますが故障ではありません。
- 排気フィルター再生中は、吸気スロットルが作動するため作動音が発生することがありますが故障ではありません。
- 再生中、エンジン音に変化したり、白煙が出ることがありますが故障ではありません。
- アイドリング中は、PM が堆積しやすくなります。
- 不要なアイドリング（低回転）はしないでください。

排気フィルターについて

排気フィルターは、エンジンと排出ガス出口の間に装着され、PM（ススなどの粒子状物質）を捕集することで、大気中に放出しないようにするためのフィルター装置です。

排気フィルターにたまったPMを燃焼除去することにより、排気フィルターの機能を再生できます。

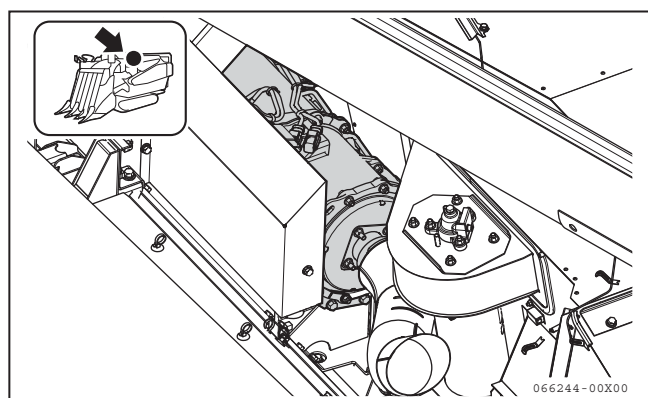


図 4-87

《 参考 》

捕集したPMを放置すると目詰まりを起しエンジン性能が低下します。このため定期的に排気温度を上昇させて、PMを燃焼除去する必要があります。これを排気フィルターの再生といいます。

排気フィルターのメンテナンスについて

⚠ 警告

- アッシュには、エンジンオイルの添加剤の燃え残りで人体に有害な成分が含まれています。

※ メンテナンスは、必ず特販店、またはJAに依頼してください。

排気フィルターは、PM（ススなどの粒子状物質）以外に潤滑油の添加剤に含まれる金属成分のアッシュ（灰分）がたまりやすくなります。

アッシュは、PMのように排気フィルター内で燃焼除去ができませんのでメンテナンスが必要です。

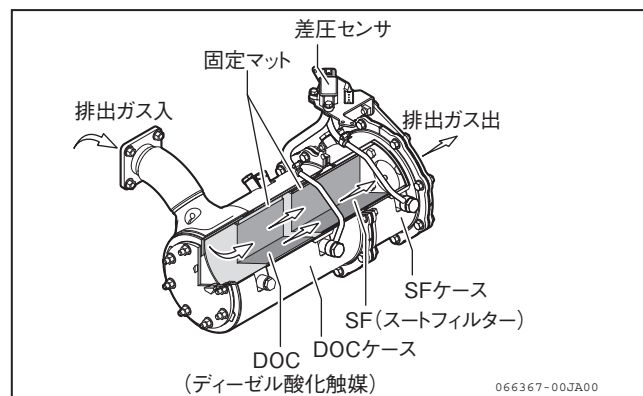


図 4-88 排気フィルター構成図

表 4-20 メンテナンス・交換時期

部品名	メンテナンス時期	交換時期
SF (スートフィルター)	6000 時間ごと	9000 時間
DOC (ディーゼル酸化触媒)	不要	9000 時間

《 重要 》

- 燃料は、必ず低硫黄ディーゼル軽油を使用してください。
- エンジンオイルは、排気フィルター搭載用ディーゼルエンジンオイル（ヤンマー純正DH-2オイル）を使用してください。
- メンテナンス・交換時期（表 4-21）は、ヤンマー指定の燃料、エンジンオイルをご使用した場合の目安です。指定以外のものをご使用された場合、故障の原因となります。
- 排気フィルターは、定期的なメンテナンスが必要です。堆積されたアッシュのメンテナンスを行わないとエンジン出力の低下や燃費悪化の原因となります。

4. お手入れのしかた

排気フィルターの再生モードについて

排気フィルターの再生には、PM の堆積量、稼働時間に応じた5つの再生モードがあります。この内、自己再生、アシスト再生は自動で再生が行われますが、リセット再生、駐車再生、リカバリ再生については手動で再生を行う必要があります。排気フィルター再生要求画面が表示されたら、必ず手動で再生操作を行ってください。

《 重要 》

再生せずに放置すると、排気フィルターの目詰まりによるエンジン性能の低下や燃費悪化の原因となります。また、手動再生を行わずに一定時間以上運転を継続すると、修理が必要となる場合があります。

表 4-21 再生モードについて

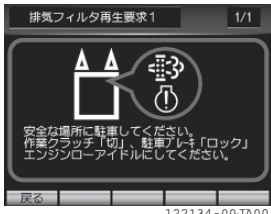
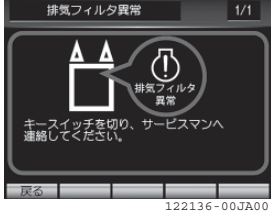
警告 (PM 堆積) レベル	再生モード		モニター表示	排気フィルター スイッチ (お知らせランプ)	ブザー	作業	処置のしかた
小 大	自動	自己再生	—	—	—	可	コンバインは、エンジンの排熱で自己再生を行います。
		アシスト再生	—	—	—	可	PM が一定量堆積すると自動で再生を行います。
	手動	リセット再生		2 秒間に 1 回点滅 (0.5Hz)	2 秒間に 1 回鳴る (0.5Hz)	可	リセット再生を行ってください。 (182 ページ) 〈リセット再生要求発生条件〉 ・初回アワメータ約 50 時間、以降約 100 時間ごと または ・PM の堆積量がリセット再生レベルに達したとき
		駐車再生 (警告 1)		1 秒間に 1 回点滅 (1Hz)	1 秒間に 1 回鳴る (1Hz)	不可	作業を中止してコンバインを安全な場所に駐車して ・作業クラッチレバー「OFF」 ・駐車ブレーキ「ロック」 ・エンジンローアイドルにします。
		リカバリ再生 (警告 2)		2 秒間に 1 回点滅 (0.5Hz)	2 秒間に 1 回鳴る (0.5Hz)	不可	PM が堆積していますのでただちに駐車再生を行ってください。(183 ページ)
		リカバリ再生 (警告 2)		—	—	不可	作業を中止して安全な場所に駐車し、エンジンを停止してください。ただちに特販店、または JA に修理を依頼してください。(231 ページ)

表 4-22 排気フィルター再生とお知らせ機能について

排気フィルター再生スイッチ (お知らせランプ)	ブザー	状態
点滅	鳴る	排気フィルター再生待ち
点灯	停止	排気フィルター再生中 (約 30 分)
消灯	停止	排気フィルター再生終了

4. お手入れのしかた

リセット再生の手順

1. 排気フィルター再生スイッチのお知らせランプが点滅し、ブザーが1秒間に2回の間隔で鳴ります。

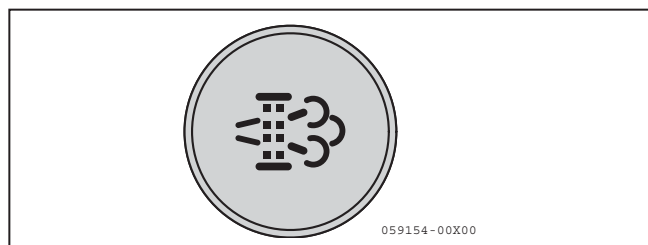


図 4-89

2. 排気フィルター再生要求の警報が表示されます。

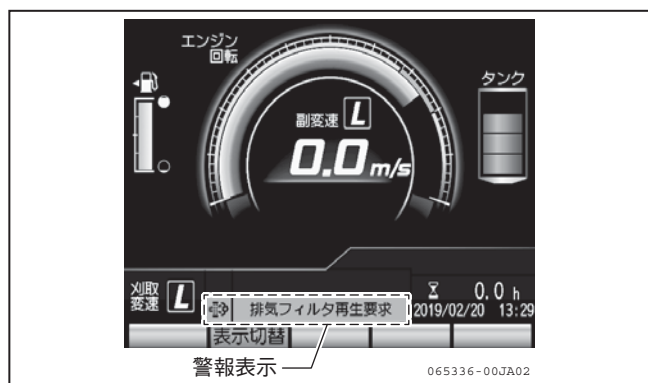


図 4-90

《 参考 》

- 再生要求の警報はエンジンの使用状況によっては設定時間より早く表示される場合があります。
- 「表示切替」（スイッチ）を押すと「排気フィルター再生要求画面」が表示されます。「戻る」（スイッチ）を選択すると通常画面に戻ります。



図 4-91

3. コンバインを停車します。

4. 排気フィルター再生スイッチを3秒以上長押しします。

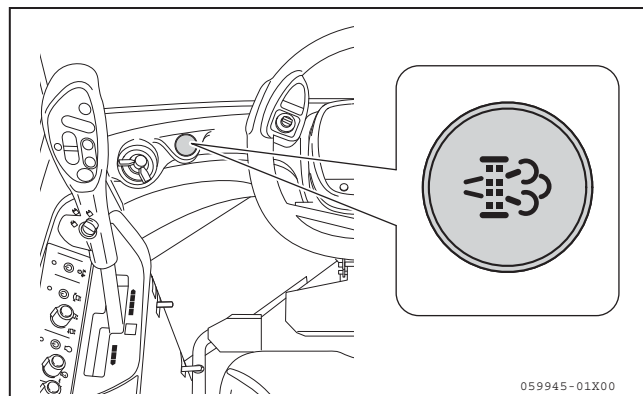


図 4-92

5. ブザーが停止して再生が始まり、スイッチのお知らせランプが点灯します。終了するとランプは消灯します。
6. 作業を開始します。

《 重要 》

- リセット再生は必ず刈取作業中に行ってください。刈取作業中以外では再生条件が満たされず、再生要求ランプが点灯したまま、再生が終わらない場合があります。
- 刈取作業が終了している場合は、つぎの刈取作業時にリセット再生を行ってください。再生要求が出た状態で保管しても、エンジンには影響ありません。
- リセット再生を行わずエンジンを始動していると、駐車再生の要求が出る場合があります。その場合は、183 ページの「駐車再生の手順」に従って、駐車再生を行ってください。

《 参考 》

- リセット再生は、つぎの条件では再生が開始されません。冷態時は、暖機運転をしてください。条件がそろえば自動的に再生が開始されます。
 - エンジン冷却水温が低いとき
 - 排気フィルターの温度が低いとき
- 再生は、約30分で終了しますが、再生終了までの時間は、外気温によって異なります。あらかじめ燃料残量を確認して、再生を開始してください。

- 再生は、できるだけ中断せず終了するまで実行してください。やむをえず、再生を中断したい場合は、キースイッチを「切」の位置にしてください。再生が完了しないままエンジン停止すると、つぎにエンジンを始動したときに排気フィルター再生要求の警告が表示されますので、できるだけ早く再開してください。
- エンジンのエラーが発生しているときは、再生要求の警報が表示されません。ただちに買い上げいただいた特販店、またはJA へご連絡ください。

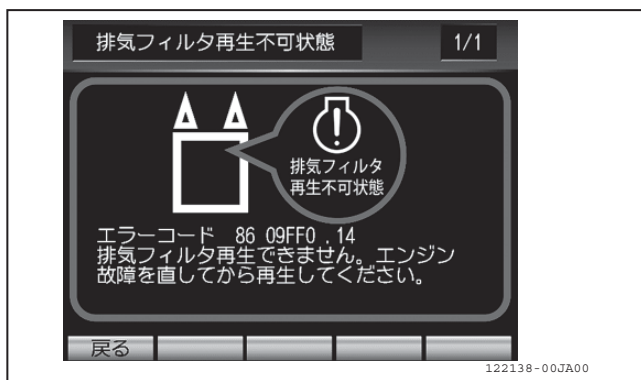


図 4-93

- リセット再生中に「表示切替」(スイッチ)を押すと「排気フィルター再生中画面」が表示されます。

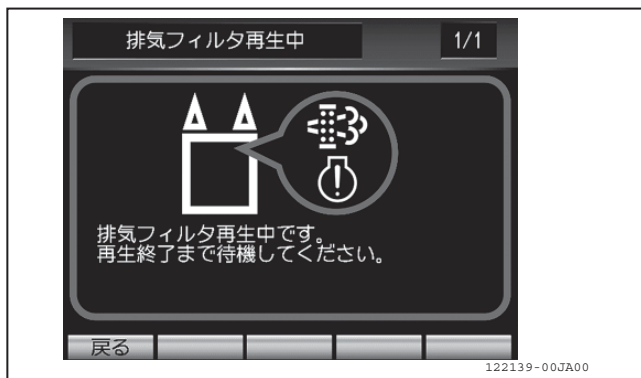


図 4-94

- 再生中は、エンジン音に変化したり、白煙が出たりすることがありますが故障ではありません。
- 再生中の排出ガスは、通常時とは異なる臭いが発生しますが故障ではありません。
- 排気フィルター再生中は、吸気スロットルが作動するため作動音が発生することがありますが故障ではありません。

駐車再生の手順

警告

- 排気フィルター再生（駐車再生）の要求を無視して、運転を継続すると、PM が過剰に堆積するため場合によっては PM が異常に燃焼して、排気フィルターが破損し、火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 排出ガスに十分注意してください。
※倉庫や車庫など、閉めきった屋内ではエンジンを始動しないでください。エンジンを始動するときは、風通しのよい屋外で行ってください。やむをえず屋内で始動するときは、換気を十分に行ってください。
※排出ガスによる中毒を起こし、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1. 排気フィルター再生スイッチのお知らせランプが点滅し、ブザーが1秒間に1回の間隔で鳴ります。

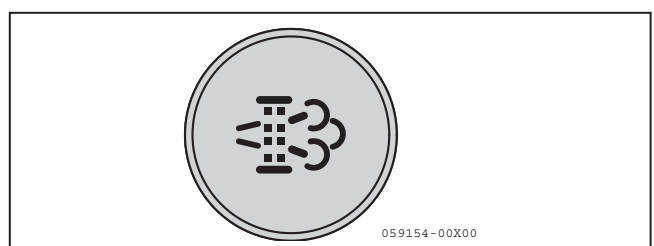


図 4-95

4. お手入れのしかた

2. 排気フィルター再生要求 1 の警報が表示されます。

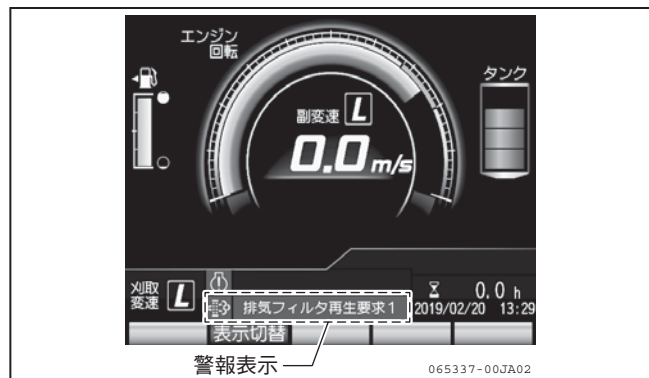


図 4-96

《 参考 》

「表示切替」(スイッチ)を押すと「排気フィルター再生要求1画面」が表示されます。「戻る」(スイッチ)を選択すると通常画面に戻ります。

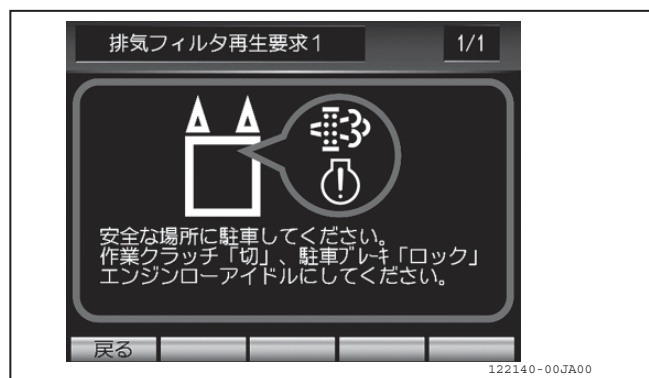


図 4-97

3. 安全な場所に停車し、作業クラッチレバーを「OFF」位置にし、駐車ブレーキをかけてアイドルリング（低回転）にします。
4. 排気フィルター再生要求 2 の警告が表示されます。

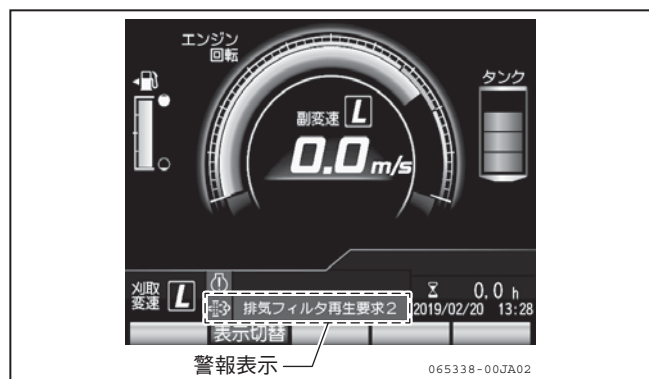


図 4-98

《 参考 》

「表示切替」(スイッチ)を押すと「排気フィルター再生要求2画面」が表示されます。「戻る」(スイッチ)を選択すると通常画面に戻ります。

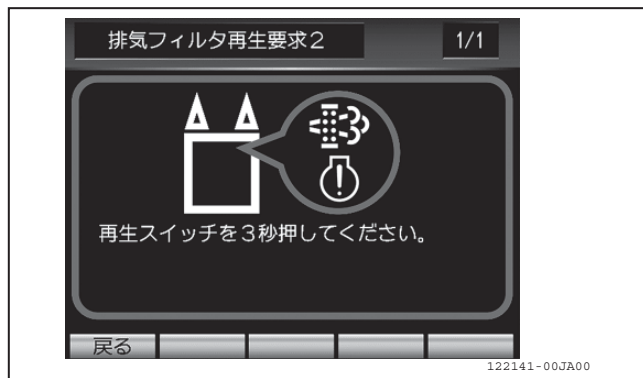


図 4-99

5. 排気フィルター再生スイッチを 3 秒以上長押しします。

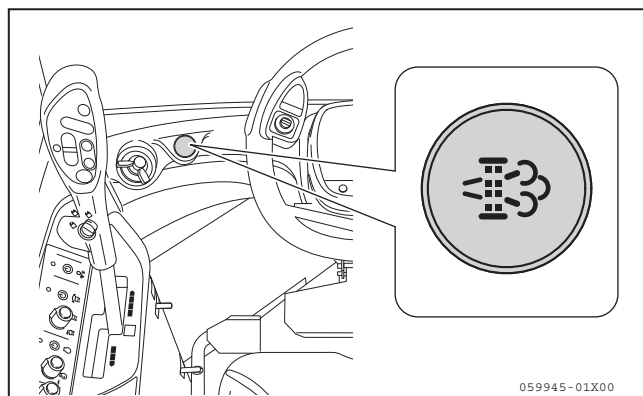


図 4-100

6. ブザーが停止して再生が始まり、スイッチのお知らせランプが点灯します。終了するとランプは消灯します。

《 参考 》

- 再生中は、エンジン回転が自動的に上がります。
- つぎの操作を行うと再生が中断されます。
 - アクセルダイヤルを「」回転側に回したとき
 - 作業クラッチレバーを「OFF」以外の位置にしたとき
 - 駐車ブレーキを解除したとき
- 再生は、約 30 分で終了しますが、再生終了までの時間は、外気温によって異なります。あらかじめ燃料残量を確認して、再生を開始してください。

- 再生は、できるだけ中断せず終了するまで実行してください。やむをえず、再生を中断する場合は、キースイッチを「切」の位置にしてください。再生が完了しないままエンジン停止すると、つぎにエンジンを始動したときに排気フィルター再生要求画面が表示されますので、できるだけ早く再開してください。

《 参考 》

- エンジンのエラーが発生しているときは、再生要求の警報が表示されません。ただちにお買い上げいただいた特販店、またはJA へご連絡ください。



図 4-101

- 再生中は、エンジン音に変化したり、白煙が出たりすることがありますが故障ではありません。
- 再生中の排出ガスは、通常時とは異なる臭いが発生しますが故障ではありません。
- 排気フィルター再生中は、吸気スロットルが作動するため作動音が発生することがありますが故障ではありません。

4.3.15 注油フィルターの掃除のしかた

集中注油装置の各注油ノズルから、オイルの噴出が悪くなったら、つぎの要領でフィルターの掃除を行ってください。

1. 刈取サイドカバー R を外します。
2. オイルチューブの継手のナットをゆるめて、引っ張ります。

《 参考 》

継手を外すと、オイルチューブに残っている少しのオイルが流れ出ます。ウエスなどで受けてください。

3. 継手 (1) の中にあるフィルター (2) を掃除します。

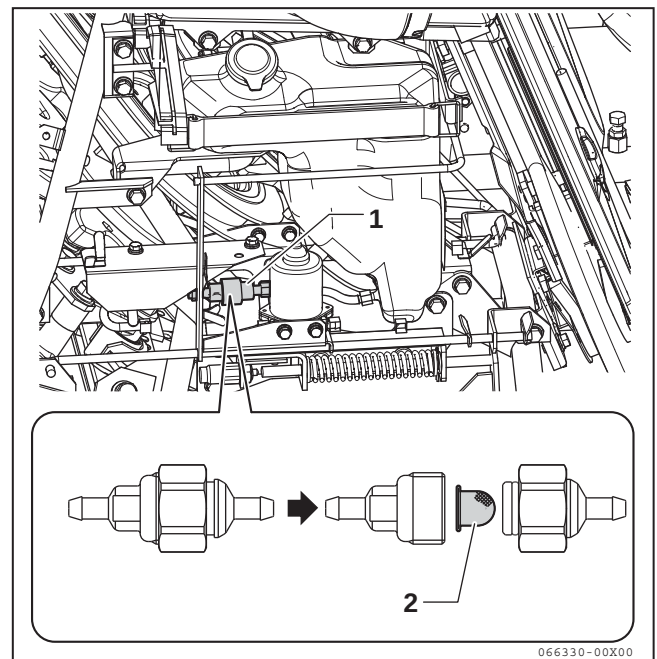


図 4-102

4. きれいに掃除した後、フィルターを元通りに取り付けます。

《 参考 》

フィルターを取り付けた後は、集中注油装置を作動させて、継手部からオイル漏れのないことを確認してください。(153 ページ)

5. 刈取サイドカバー R を元通りに取り付けます。

4. お手入れのしかた

4.3.16 燃料のエア抜きのしかた

⚠ 警告

- エンジン周りのベルト・防振ゴム・ホースなどに、燃料がかからないように注意してください。

※ もし、燃料がかかった場合は、十分に水洗いしてください。燃料がかかっていると、火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

燃料タンクが空になったり、燃料系統に空気が入るとエンジンは止まります。つぎの要領で空気抜きをしてください。

1. 燃料タンクを満タンにします。
2. キースイッチを「入」位置にしたまま 20 ～ 30 秒待ち、「始動」位置にします。
3. 自動的にエア抜きが行われ、エンジンが始動します。

以上でエア抜きは完了です。

4.3.17 エアクリーナーの掃除・交換のしかた

⚠ 警告

- エアクリーナーエレメントの掃除は作業前に行ってください。

※ 運転中、および運転直後は掃除をしないでください。排出ガス出口やエレメントフックが高温になって、ヤケドによる傷害事故を引き起こすおそれがあります。

エアクリーナーは吸入された空気に含まれている砂塵を取り除き、シリンダやピストンリングの摩耗を防ぐ装置です。刈取作業は、ホコリがよく出ますので、毎日、作業後に掃除してください。

《 参考 》

エアクリーナーの掃除と同時に、プレクリーナーの掃除も行ってください。(187 ページ)

表 4-23 エアクリーナー

掃除時期	エレメントの交換時期
50 時間ごと	・ 300 時間ごと ・ ホコリの多いところでは 200 時間ごと (規定時間未満でも 1 年間で交換)

表 4-24 品名、コード No.

品名	コード No.
エレメント (アウター)	119160-12560

掃除・交換のしかた

1. エンジンルームを開きます。
2. カバー (1) の止め金 (2) (3 カ所) を外して、アウターエレメント (3) を取り出します。

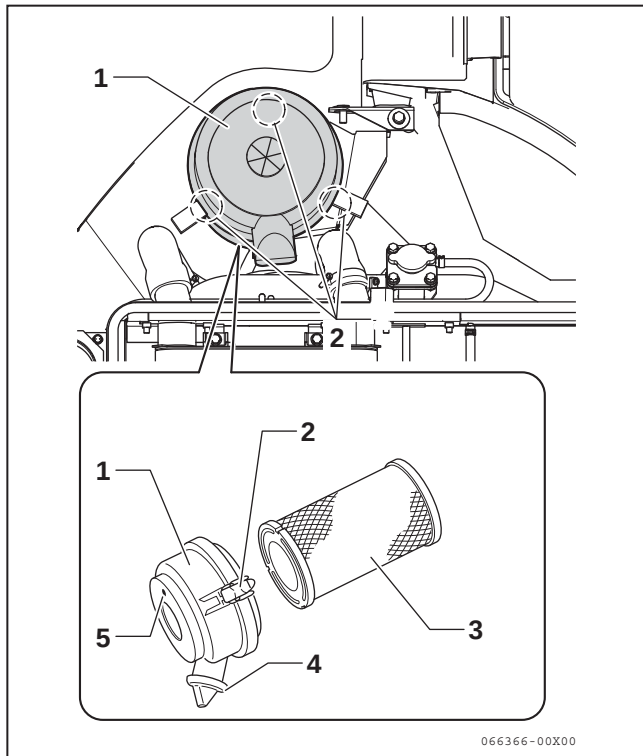


図 4-103

3. エレメントは、内側から空気 (7 kg/cm² 以下) を吹きつけます。
4. 取り付けるときは、逆の手順で行います。
5. カバーは、バキューエータバルブ (4) が下を向く (TOP マーク (5) が上を向く) ように取り付けます。

《 参考 》

エレメントを交換するときは、ヤンマー純正部品をご使用ください。

4.3.18 プレクリーナーの掃除のしかた

⚠ 注意

● エンジンルームなどの上には、直接登らないでください。

※ 高温になっている箇所もあり危険です。

プレクリーナーの中にたまったごみは、毎日、作業後に掃除してください。

《 参考 》

プレクリーナーは、ホコリをすべて集めるものではありません。プレクリーナーの掃除と同時に、エアクリーナーも掃除してください。
(186 ページ)

掃除のしかた

リアウインドウを閉じてから、プレクリーナー (1) 上部のチョウナット (2) を外して、たまっているごみを取り除いてください。

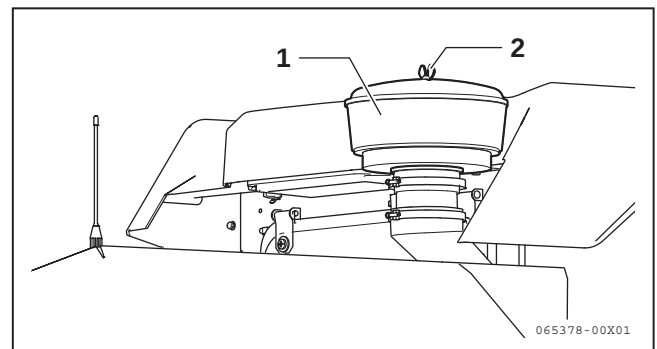


図 4-104

4. お手入れのしかた

4.3.19 吸気口・ロータリースクリーン・ラジエータ冷却フィンの掃除のしかた

吸気口・ロータリースクリーン・ラジエータ冷却フィンは、エンジンの防塵装置です。冷却風を吸入する大切な装置ですから、作業前・作業後には必ず掃除をしてください。

ロータリースクリーンの掃除のしかた

ロータリースクリーン（1）の網面にゴミが付着したときは、軽く網面をこすってゴミを落としてください。吸引ダクト（2）のゴミやホコリを掃除してください。



図 4-105

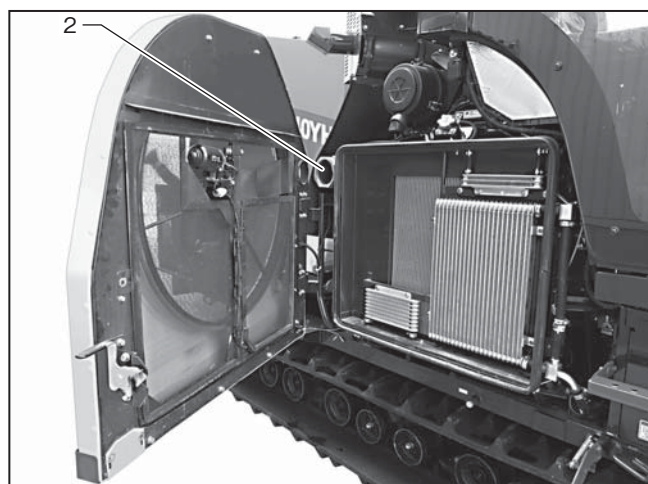


図 4-106

◆ 外気吸気口の掃除のしかた

吸気口網面（1）にゴミが付着した場合は、エンジンを止めてから、軽く網面をこすってゴミを落としてください。エアコン用コンデンサフィンにゴミが付着した場合も、ゴミを払い落としてください。

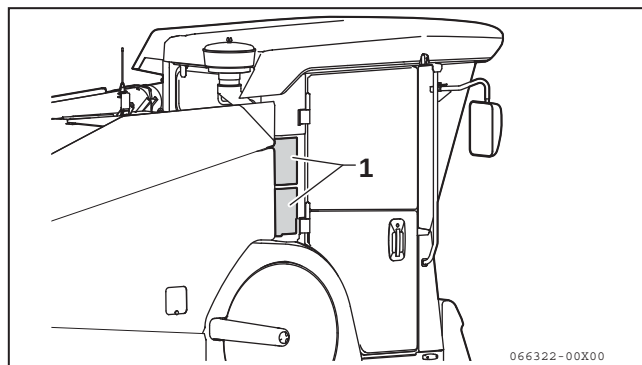


図 4-107

各部クーラフィン・ラジエータ冷却フィンの掃除のしかた

粉塵が特に多い場合は、つぎの要領でラジエータ冷却フィンを掃除してください

1. エンジンルームを開きます。(140 ページ)
2. ボルト (1) (2 本) を外してインタークーラの上部カバー (2) を外します。

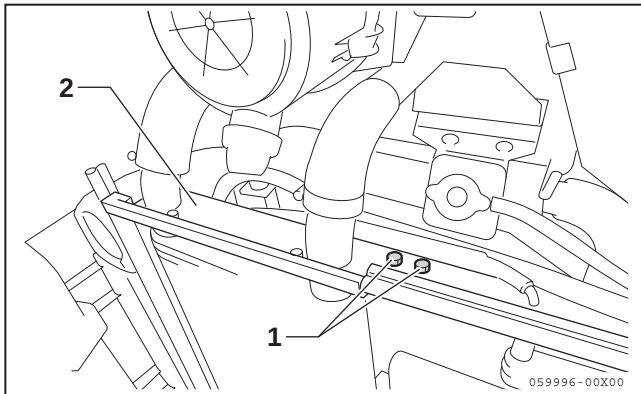


図 4-108

3. HST 用オイルクーラ、燃料クーラ、カウンターケース用オイルクーラを固定しているボルト、ナット類を外して手前にずらします

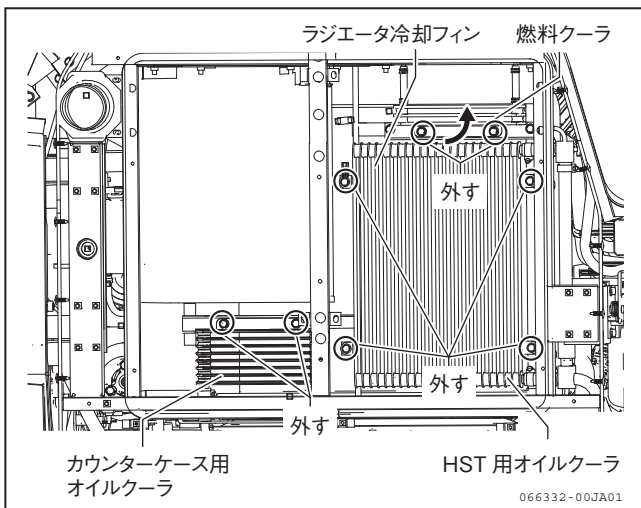


図 4-109

4. 奥側にあるラジエータ冷却フィンと各部フィンに付着しているごみを取り除きます。
5. きれいに掃除した後、元通りに取り付けます。
6. エンジンルームを閉じます。

《 重要 》

フィンを変形させないでください。

エアコン用コンデンサフィンの掃除のしかた

1. プレクリーナーからの配管のクランプをゆるめて、配管を外します。

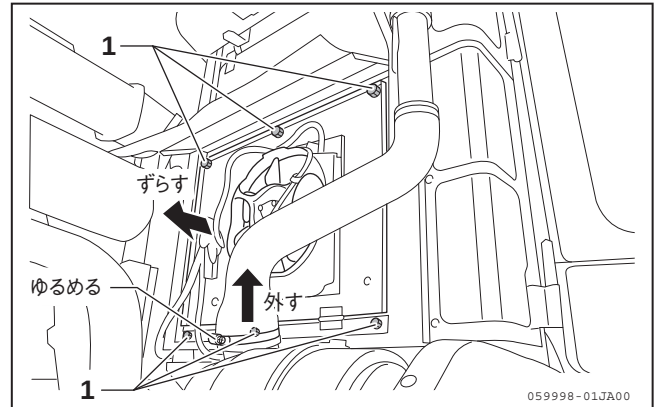


図 4-110

2. キャビン後面のカバーのボルト (1) (6 本) を外して、カバーをコンバイン後方にずらします。(図 4-110)
3. ドライバーシートを倒し、ノブボルト (1) (6 カ所) を外し、後ろカバー C (2) を外します。

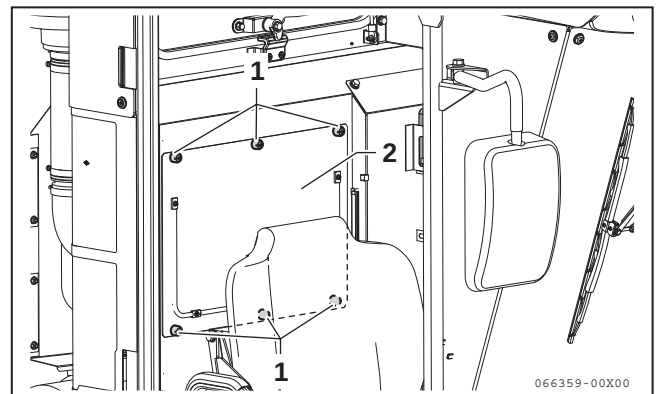


図 4-111

4. お手入れのしかた

4. 開いたカバーの裏側にあるコンデンサフィン(1)に付着している、ごみを取り除きます。

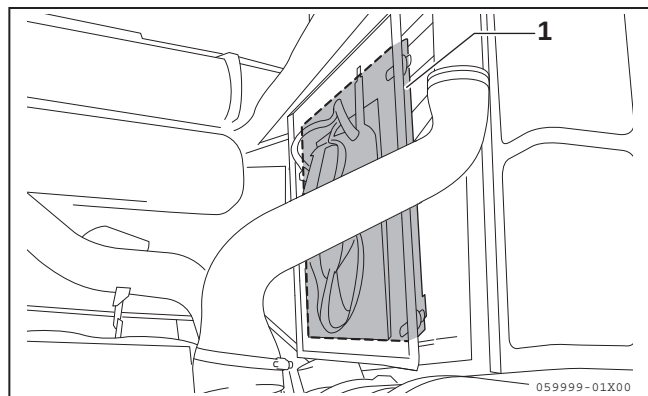


図 4-112

5. 掃除後は元通りに取り付けます。

《 重要 》

- 網面やスクリーンへのごみの付着には常に注意し、ごみが付着していれば必ず掃除してください。
- コンデンサが目詰まりすると、冷房能力が低下しますので、定期的に掃除をしてください。

フィルターの掃除のしかた

⚠ 警告

- フィルターの掃除や点検・整備をするときは、必ずキースイッチを「切」位置にしてください。
 - キースイッチが「入」位置のときに、空気の吸い込み口や吹き出し口に、棒や手を入れないでください。
- ※ 内部でファンが回転していますので、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1. キースイッチを「切」位置にします。
2. 内気吸入口フィルター(1)および外気導入口フィルター(2)を外して、圧縮空気で洗浄します。



図 4-113

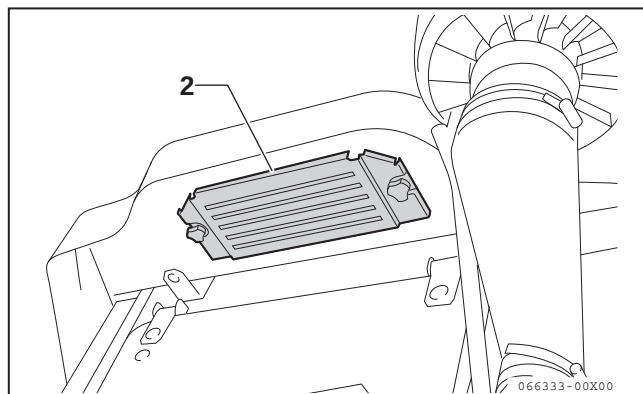


図 4-114

◆ 汚れや詰まりが著しい場合

1. 中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて、上下左右に動かしながら洗浄します。
2. 清水でよくすすいだ後、完全に自然乾燥させます。

《 重要 》

洗浄に有機溶剤（ガソリン、シンナーなど）を使用しないでください。

4.3.20 ウォッシャー液の補充のしかた

ウォッシャータンク（1）は、ステップ前カバー内にあります。ウォッシャー液がなくなったときは、ウォッシャータンクにウォッシャー液を入れます。

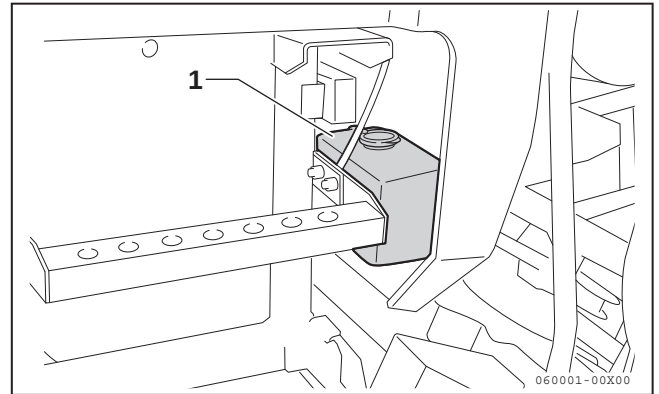


図 4-115

4.3.21 バッテリーの点検・整備のしかた

⚠ 危険

- バッテリーを点検するときおよびコンバインから外すときは、必ずエンジンを停止し、ショートによる火花や火気に注意してください。

※ バッテリーから発生する水素ガスに引火して爆発が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

- バッテリーの液槽キャップを外すときは、火気厳禁です。

※ 液槽キャップを開けると、液槽口から爆発性のあるガスが出ますので、ヤケドや火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

- バッテリーの電解液は希硫酸ですので、取り扱いには注意してください。

※ もし、皮膚や衣服についたときは、ただちに水洗いし、石けんでよく硫酸分を洗い流してください。万一、目に入ったときは、すぐに流水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

- 急速充電はしないでください。

⚠ 警告

- バッテリーの点検時には、保護メガネとゴム手袋を着用してください。

- バッテリー液は、「下限 (LOWER)」以下にしないください。

※ 容器内の極板接続部がバッテリー液から露出し、エンジン始動時に火花が出るおそれがあります。また、その火花が容器内のガスに引火して破裂し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- バッテリー端子を取り付けるときは、(+) 側を先に取り付け、外すときは (-) 側から外してください。

※ ショートによるヤケドや火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- バッテリーの上面および周辺は、常に清潔にしてください。

※ 排気穴をふさぐと、火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

《 重要 》

- 電解液の地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・溶剤・フィルター・バッテリー・その他有害物を捨てる時は、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。
- 冷媒ガスをみだりに大気中に放出することは法令で禁じられています。絶対に行わないでください。
- 冷媒ガス（フロン類）の充填・回収・廃棄は都道府県に登録された第一種フロン類充填回収業者のみが行うことができます。廃棄する場合は、登録された充填回収業者に依頼してください。
- バッテリーの各槽に電解液を入れすぎると、充電時にバッテリー液が吹き出し、コンパインの金属部を腐食させます。
- バッテリーを交換するときは、必ず取扱説明書の指定した型式のバッテリーを使用してください。

バッテリー液の点検・補給のしかた

各槽のバッテリー液が、上限（1）と下限（2）のラインの間にあることを確認します。不足しているときは液口栓を外して、蒸留水を各槽均等に補給します。

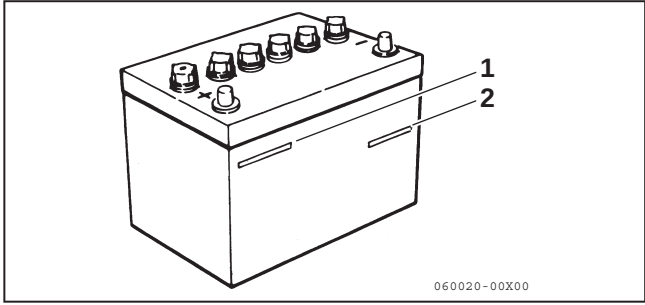


図 4-116

表 4-25 指定バッテリー

指定バッテリー	115D31R
---------	---------

《 重要 》

- バッテリー液は、常に規定量を保ってください。
- バッテリー端子がゆるんでいる場合は、確実に締め付けてください。

交換時期について

交換時期（バッテリー電圧が 10.5V 以下）になると、センターディスプレイにメンテナンス情報が表示されます。

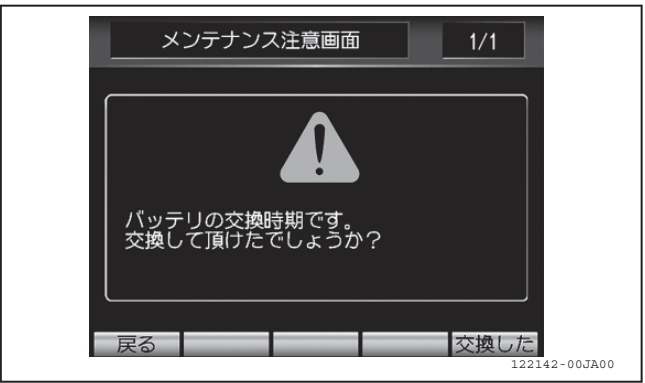


図 4-117

◆ 表示のリセットのしかた

交換を済ませた場合は、「交換した」（スイッチ）を押してください。

◆ すぐに交換しない場合

「戻る」（スイッチ）を押してください。メンテナンス情報の表示は、次回キースイッチを「入」位置にしたときにも表示されます。

4. お手入れのしかた

バッテリーの外しかた

バッテリーは、運転席下にあります。つぎの要領に従って外してください。

1. ステップ上段 (1) を固定しているナット (2) (2 個) をゆるめて、ステップ上段を上を持ち上げます。ステップ上段を持ち上げたまま、長穴分奥に押し込みシャーシ側ステーの上面に乗せま

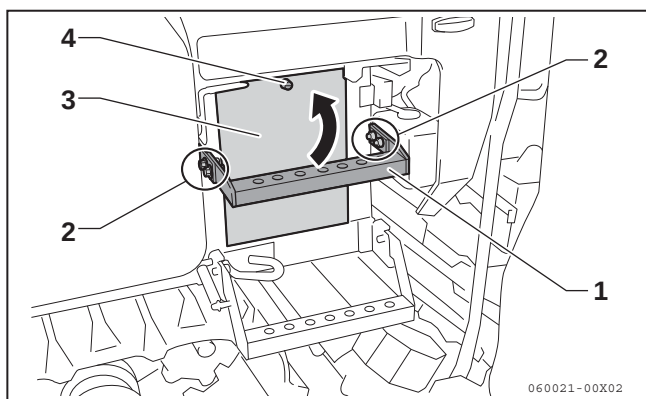


図 4-118

2. バッテリーカバー (3) を固定しているノブボルト (4) (1 個) を外して、バッテリーカバーを外します。
3. バッテリーを固定している取付ナット (1) (4 個) を外して、バッテリー固定金具 (2) を外します。

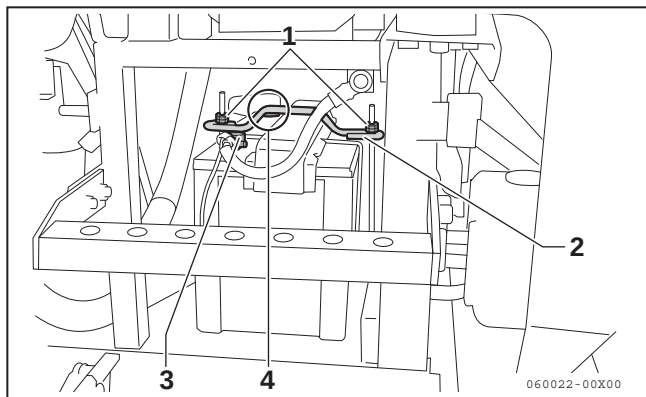


図 4-119

4. バッテリーケーブルの「-」端子 (3) を外したあと、「+」端子 (4) を外します。
5. バッテリーを抜き出します。
6. バッテリーの取り付けは、取り外しの逆の手順で行います。

補充電のしかた

⚠ 危険

● 急速充電はしないでください。

寒冷地など気温の低い地域で使うとき、エンジンの始動がしにくくなったとき、ライトが暗くなったとき、自然放電によってセル始動ができないときは、つぎの要領で補充電をしてください。

1. バッテリーを外します。
2. 液口栓を外し、バッテリーの「+」を充電器の「+」に、バッテリーの「-」を充電器の「-」に接続します。
3. 3 アンペア程度で 8 ~ 10 時間行います。

《 重要 》

- 取り付けるときは、ターミナル接触部の油分などをふき取ってください。また、取り付け後は、ターミナル部にグリスを塗布してください。
- バッテリーの「+」ターミナル部のゴムブーツは、必ず取り付けてください。

バッテリーの手入れのしかた

バッテリー端子が腐食していたり、白い粉が付いている場合は、お湯で掃除し、グリスを塗布してください。

バッテリーの自然放電について

エンジンを長期間運転しないで放置していると、バッテリーは自然放電します。使用しないときでも、ときどきエンジンがかかることを点検し、必要に応じて充電してください。

4.3.22 パイプ類の点検のしかた

！ 警告

- 燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油の漏れは厚紙や板などを使って点検してください。

※ 油が皮膚に浸入した場合、強度のアレルギーを起こすおそれがあります。

- 作業前・作業後に、燃料パイプの劣化やキズによる燃料漏れがないか点検し、燃料漏れのある燃料パイプは交換してください。

※ 燃料漏れがあると火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

燃料パイプやラジエータホースなどの傷みによる燃料漏れ、水漏れがないか点検してください。また、締付バンドがゆるんでないか点検してください。

燃料パイプやラジエータホースは、傷みがなくても2年ごとに交換してください。

燃料パイプを交換したときは、エア抜きをしてください。(186 ページ)

《 重要 》

- 燃料パイプを交換するときは、ホース、またはサプライポンプに異物が入らないように注意してください。サプライポンプが故障するおそれがあります。
- エンジンオイルのドレンホースも必ず点検してください。エンジンオイルのドレンホースが破損していると、エンジンの焼き付きの原因になります。

4.3.23 電気配線の点検のしかた

！ 警告

- ワイヤハーネスおよびバッテリーケーブルが損傷しているとショートを起こします。

- バッテリーや配線に付着しているわらくずやごみは、作業前・作業後にきれいに取り除いてください。

※ わらくずやごみが付着していると、火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

電気配線コードが他の部品のエッジ部に接触して、被覆のはがれやキズ、接続部のゆるみがないか点検してください。配線コードが傷んでいる場合は、特販店、または JA で修理してください。

配線コードは、傷みがなくても50時間使用または1年ごとに、定期点検を受けてください。

4. お手入れのしかた

4.3.24 刈刃の手入れのしかた

⚠ 警告

- 刈取部の下で点検・調節・整備をするときは、必ずエンジンを停止して、刈取部ストッパで刈取部を固定してください。

※ 固定しないと、刈取部が急に下がり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- 刈刃の手入れや交換をするときは、厚手の手袋を着用し、刃先を触らないでください。

※ けがをするおそれがあります。

《 重要 》

刈跡がそろわなくなったときは、刈刃に注油して、刈刃と受刃のすき間を調整してください。

調節のしかた

1. ステアリング右スイッチを「上」側、またはオールマイティシフトレバーの刈取昇降スイッチを「上」側にして、刈取部を最上げ位置にします。
2. 刈取部ストッパで刈取部を固定します。
(151 ページ)
3. 刈刃と受刃のすき間が 0.1 ～ 0.3 mm になるように、0.2 mm のシムで調節します。

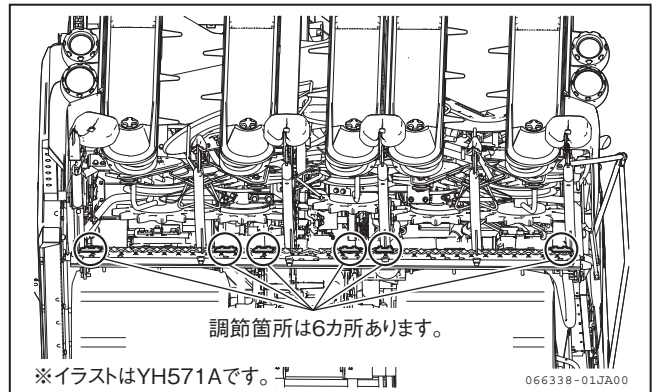


図 4-120

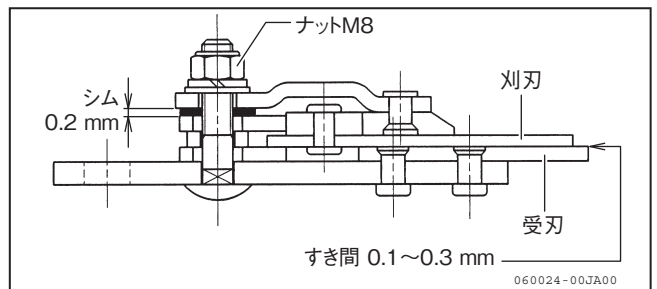


図 4-121

《 重要 》

- シーズン終了後には、刈刃に付着した泥やわらくずを取り除き、注油してください。
- 刈刃の破損または摩耗が著しい場合は、新しい刈刃に交換してください。刈刃の交換は、特販店、または JA に依頼してください。

4. 調整後は刈取部ストッパを解除し、刈取部を下げます。

4.3.25 ヒューズ・スローブローヒューズの点検・交換のしかた

⚠ 警告

●ヒューズおよびスローブローヒューズは、必ず規定アンペアのものを使用してください。

※ 火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ヒューズの交換のしかた

1. ヒューズボックスのふたを外して、ヒューズを点検します。
2. ヒューズが切れていれば、規定容量のものと交換します。

《 重要 》

規定容量のヒューズと交換してもすぐに切れてしまう場合は、お買い上げいただいた特販店、または JA で点検を受けてください。

スローブローヒューズ 60A・80A・100A の交換のしかた

1. ボルト (1) (4 本) を外してステップ前カバー (2) を外します。

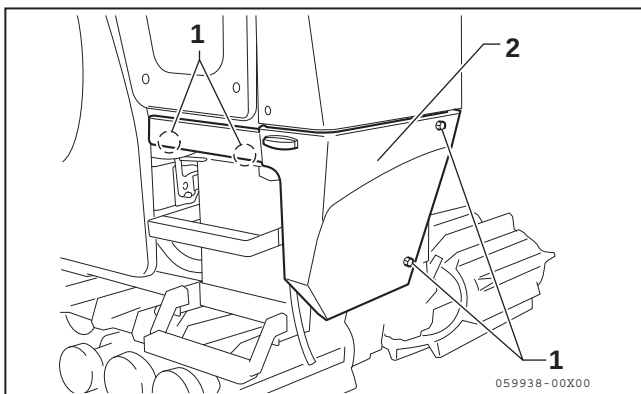


図 4-122

2. ステップ前の方向指示器のハーネス (1) のカブラを抜きます。

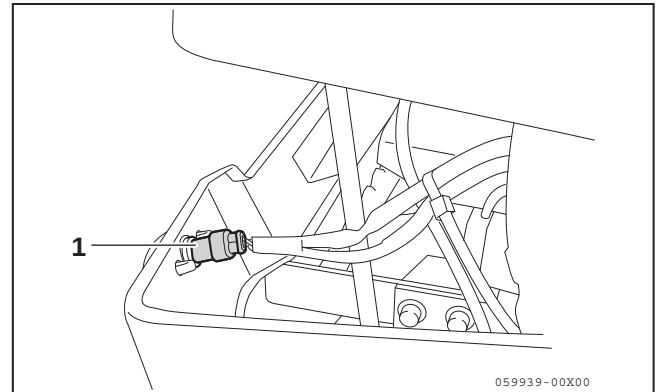


図 4-123

3. バッテリーコードの「-」端子を外します。
4. スローブローヒューズケース (1) を固定している、ボルト (2 本) を外します。
5. ヒューズケース両側面のカバーを開き、交換するスローブローヒューズを固定しているボルト (2 本) を外します。

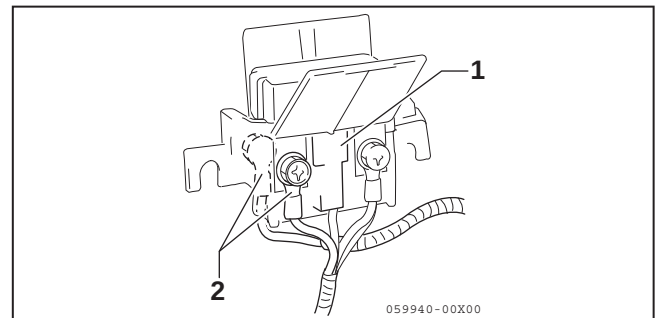


図 4-124

《 参考 》

ボルト (2 本) は、スローブローヒューズごとにあります。

6. ヒューズケース上面のカバーを外し、スローブローヒューズを交換し、元通りに取り付けます。

《 参考 》

スローブローヒューズはヒューズの一種で万一、配線回路 (常時通電している回路) へ過大電流が流れた場合、溶断して電流をしゃ断します。溶断したらお買い上げいただいた特販店、または JA で点検を受けてください。

4. お手入れのしかた

本機側ヒューズ

- ・ヒューズは、3 カ所にあります。
- ・スローブローヒューズは、本機ヒューズの横にあります。

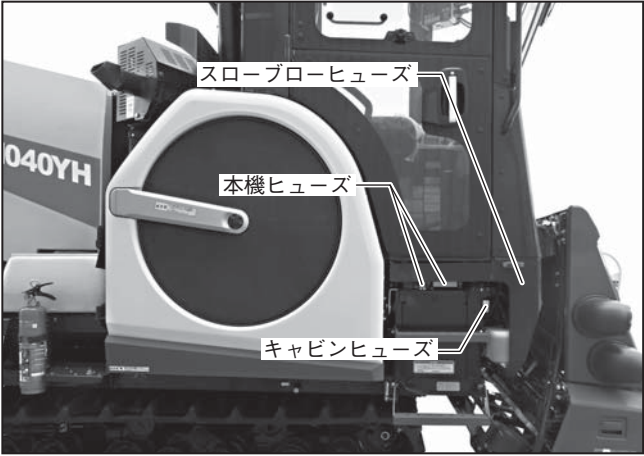


図 4-125

◆ 本機ヒューズおよびスローブローヒューズ

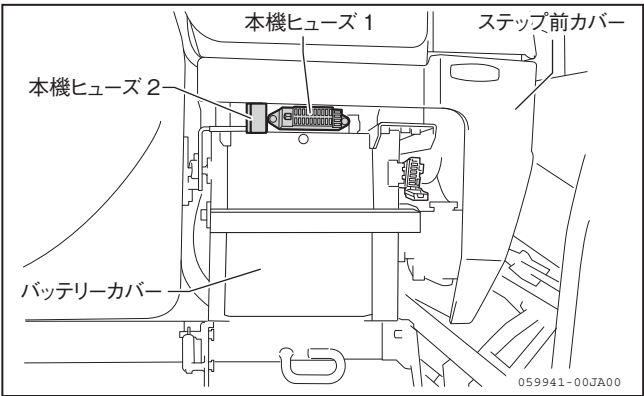
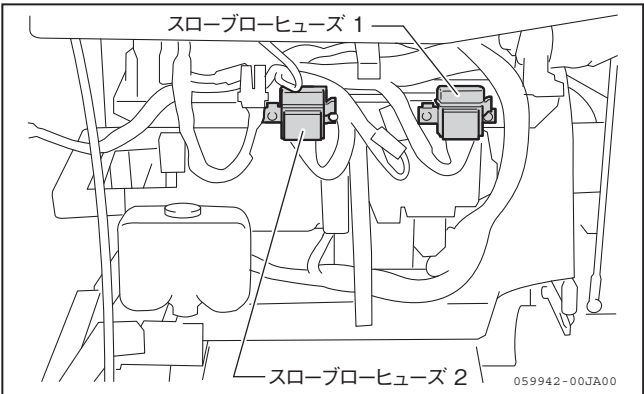


図 4-126 本機ヒューズ



※ 図は、ステップ前カバーを外し、本機前方から見えています。

図 4-127 スローブローヒューズ

◆ 本機ヒューズ

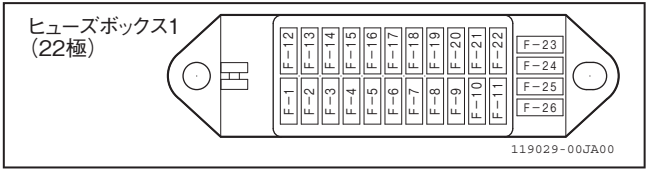


図 4-128

収穫情報	カメラ		オーガクラッチモータ	脱穀クラッチモータ	ロータリスクリーン	作業灯1	キースイッチ	コントローラ走行後	油圧電磁弁	コントローラ走行	30A
5A	5A		15A	20A	20A	30A	10A	15A	15A	10A	
ドライバ中	ドライバ前後	R-ECU	コントローラ刈取	刈取制御	ドライバ走行	電源ソケット	注油	ホーン/ヘッドライト	フラジャ	電源保持	20A
5A	5A	5A	30A	5A	5A	10A	15A	15A	10A	5A	15A

図 4-129

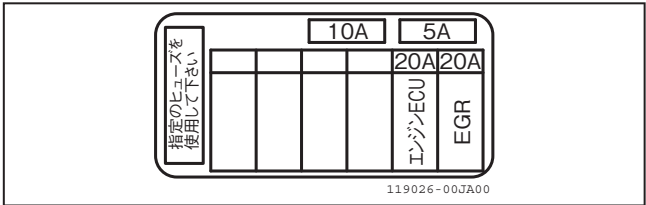


図 4-130

◆ スローブローヒューズ

スローブローヒューズ 2		スローブローヒューズ 1	
F-25 60A	グロー	F-28 60A	キャビン
F-26 40A	電源-3	F-29 40A	電源-2
F-27 100A	ジェネレータ	F-30 60A	電源-1

図 4-131

キャビン用のヒューズ

◆ ヒューズの場所

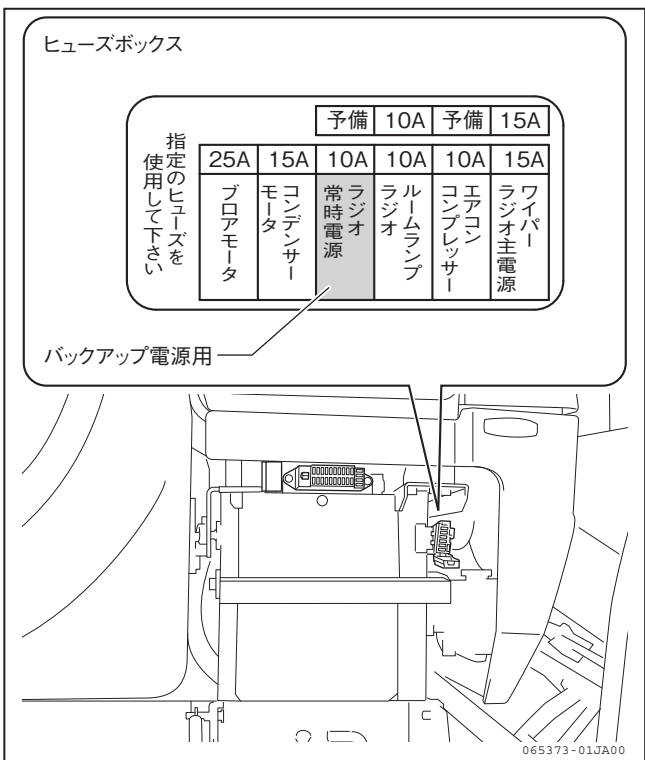


図 4-132 キャビン用のヒューズ

◆ ヒューズホルダー（コントロールボックス）

キャビン内のコントロールボックスの電源を入れても画面が表示されない場合は、ブレードヒューズ（15A）が切れていないか確認してください。

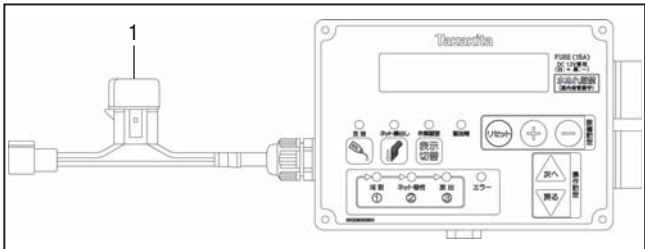


図 4-133

表 4-26 品名、品番

	品名	品番
1	ブレードヒューズ 15A	00900-0200-150

◆ ヒューズホルダー（添加器）

添加器のポンプが作動しない場合はキャビン内コントローラーのヒューズ（10A 管ヒューズ）が切れていないか確認してください。

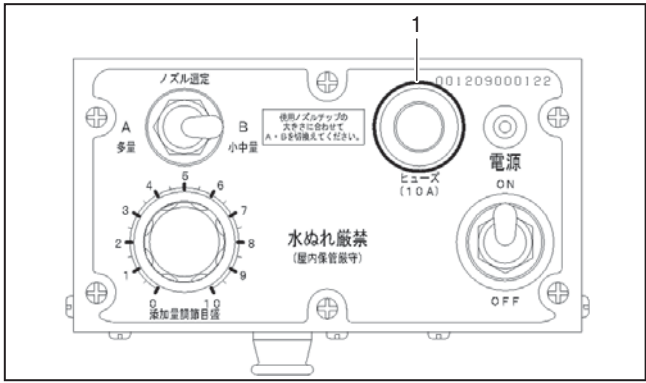


図 4-134

表 4-27 品名、品番

	品名	品番
1	管ヒューズ 10A(短)	00900-0400-100

◆ ロールベアラ側ヒューズ

コントロールボックス、添加器コントローラの電源が両方とも入らない時は添加剤タンクステータ下のヒューズを確認してください。

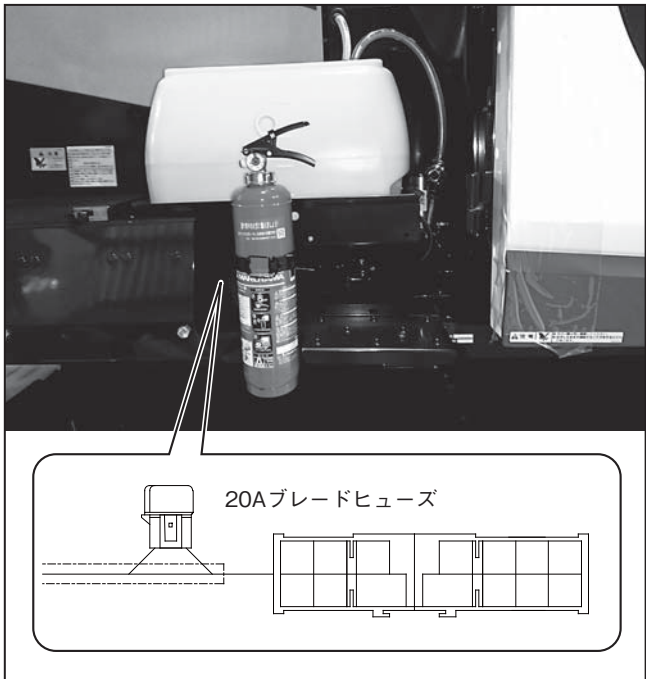


図 4-135

4. お手入れのしかた

4.3.26 ランプの交換のしかた

⚠ 注意

- ランプの交換は、ランプが冷えてから行ってください。

※ ヤケドをするおそれがあります。

ヘッドランプの交換のしかた

ヘッドランプは LED を使用しています。LED のみを交換することはできません。LED の交換は特販店、または JA にご連絡ください。

車幅灯と刈取部方向指示器ランプの交換のしかた

表 4-28 車幅灯コードと方向指示器ランプコード

車幅灯 バルブ (12V 5W)	1E6B90-81270
方向指示器ランプ バルブ (12V 21W)	1E6B90-81260

※ 例として左側のランプ交換のしかたを記載しています。

1. 刈取サイドカバー L PL (1) を外します。
2. ノブボルト (2) (2 個) を外して、引き起こしケースカバー L (3) を外します。

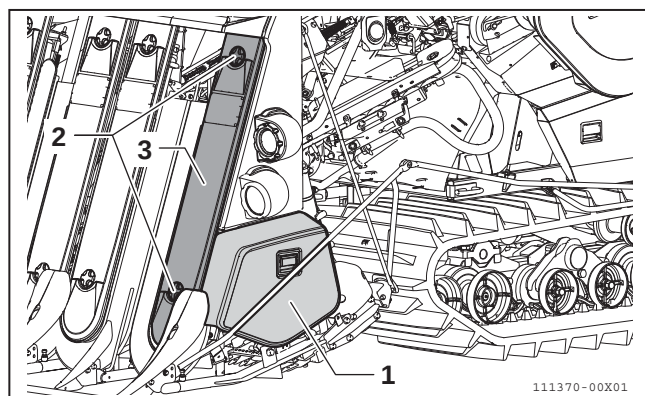
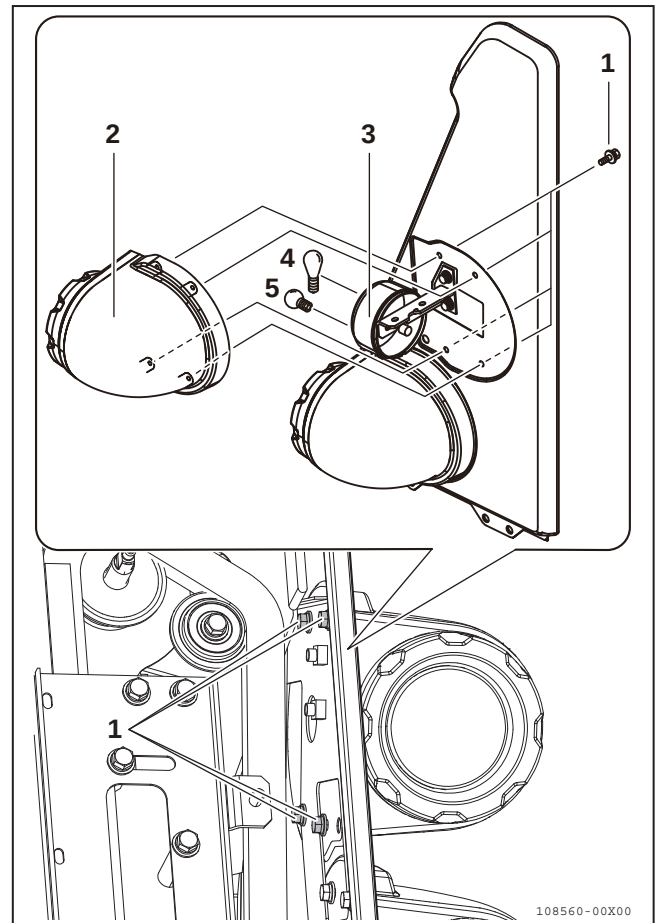


図 4-136

3. ボルト (1) (4 本) を外し、コンビカバー仕組み (2) を外します。
4. フロントコンビランプ CMP (3) より方向指示器のバルブ (4) または車幅灯のバルブ (5) を外します。



※ 図は左側の方向指示器、車幅灯です。

図 4-137

5. 交換後は、逆の手順で取り付けます。

《 参考 》

右側のランプ交換の手順も左側と同じです。

方向指示器ランプ (右) の交換のしかた

表 4-29 方向指示器ランプコード

方向指示器ランプ デンキユウ (12V 3W)	1A7890-53820
----------------------------	--------------

1. ねじ (1) (2 本) を外します。
2. サイドランプカバー (2) を外し、方向指示器のバルブ (3) を外します。

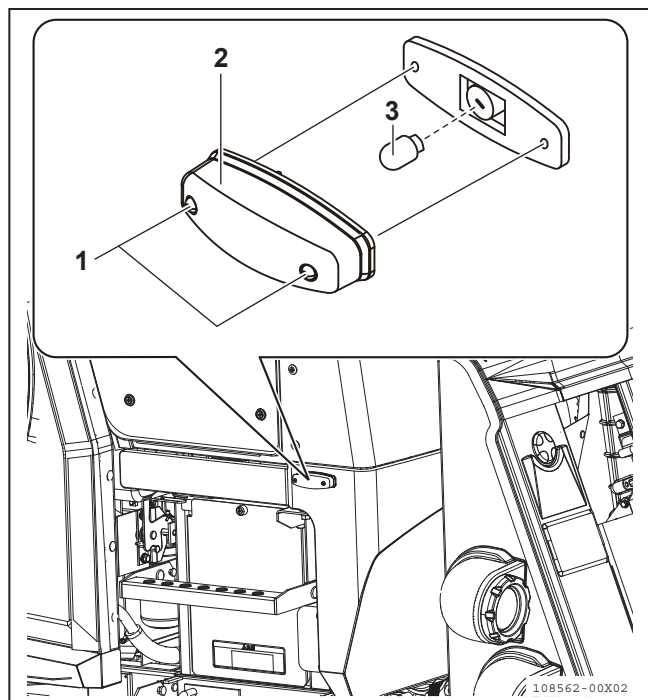


図 4-138

3. 交換後は、逆の手順で取り付けます。

パトライトの電球の交換のしかた

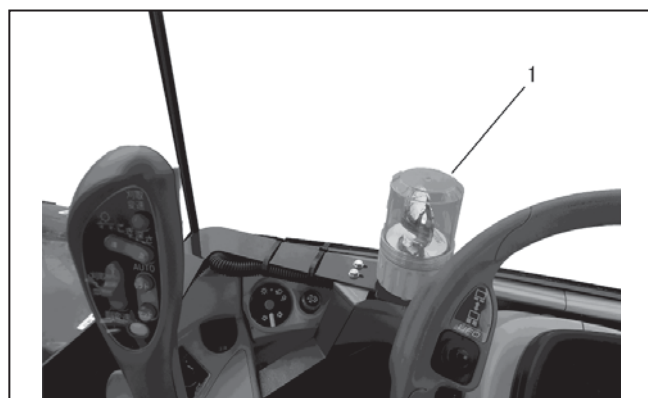


図 4-139

表 4-30 品名、品番

	品名	品番
1	バルブ (12V5W)	38105-9391-000

パトライトが点灯しなくなったら上記容量の電球と交換してください。

4.3.27 各部チェーンの点検・調節のしかた

引きしチェーン

刈取サイドカバー L・R を外して、つぎの点検・調節をしてください。

点検・調節後は、元通りに取り付けてください。

◆ 点検のしかた

引きしケースカバーの裏側上部にあるテンションピン (1) とテンションストッパ (2) の A すき間を図り、2 ~ 3 mm であることを確認します。

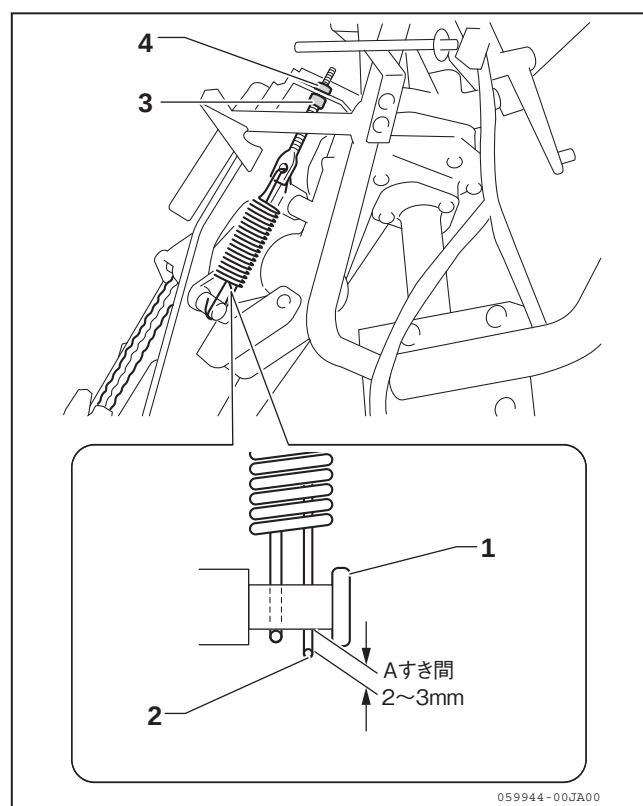


図 4-140

◆ 調節のしかた

1. ロックナット (3) をゆるめます。
2. 調節ナット (4) を回して、A すき間を調節します。
3. ロックナットを締め付けて固定します。

4. お手入れのしかた

上部搬送チェーン（左・右・中）

刈取サイドカバー L・R を外して、つぎの点検・調節をしてください。

点検・調節後は、元通りに取り付けてください。

◆ 点検のしかた

上部搬送チェーン（1）の A すき間を測り、2 ～ 3 mm であるか確認してください。

◆ 調節のしかた

1. 上部搬送カバーにある締付ナット（2）をゆるめます。
2. ロックナット（3）をゆるめます。
3. 調節ボルト（4）を締め込みながら、A すき間を調節します。
4. ロックナットと締付ナットを締め付けて固定します。

左側

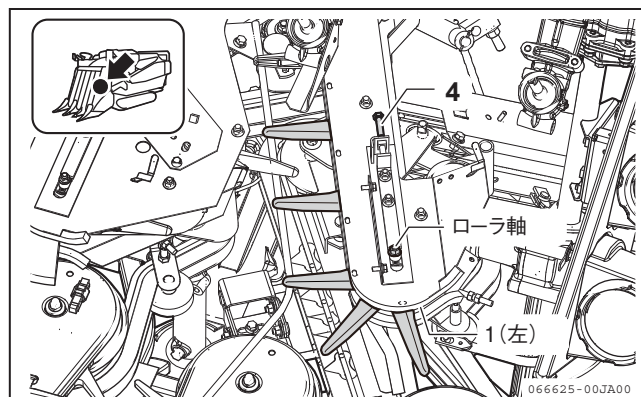


図 4-141

右側

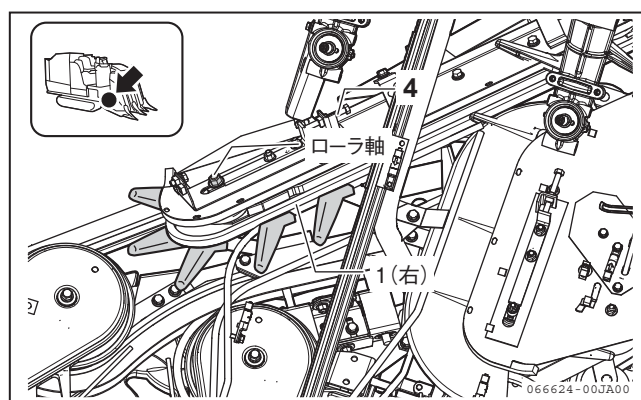


図 4-142

中側

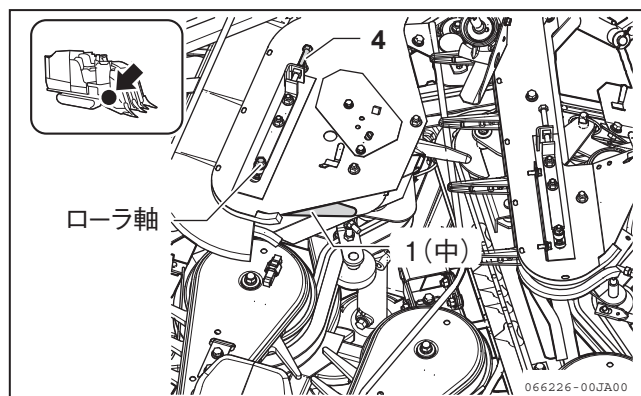


図 4-143

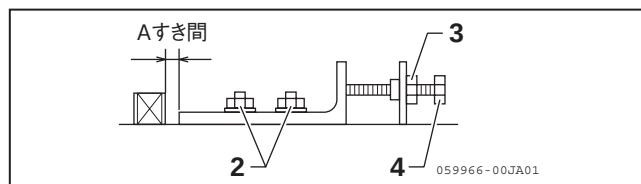


図 4-144

下部搬送チェン（右・左）

刈取サイドカバー L・R を外して、つぎの点検・調節をしてください。

点検・調節後は、元通りに取り付けてください。

◆ 点検のしかた

テンションバネフック長 (1) を測り、右側：100 ～ 103 mm、左側：95 ～ 98 mm であるか確認します。

左側

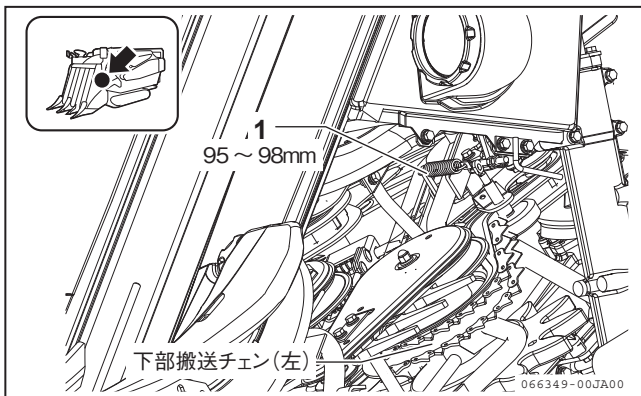


図 4-145

右側

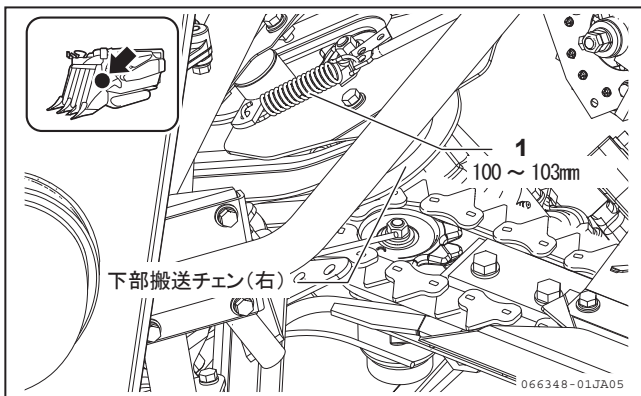


図 4-146

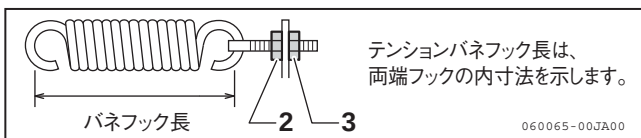


図 4-147

◆ 調節のしかた

1. ロックナット (2) をゆるめます。
2. 調節ナット (3) を回して、バネフック長を調節します。
3. ロックナットを締め付けて固定します。

下部搬送チェン（中）

◆ 点検のしかた

テンションバネ (1) のフック長 (2) を測り、95 ～ 98 mm であるか確認します。

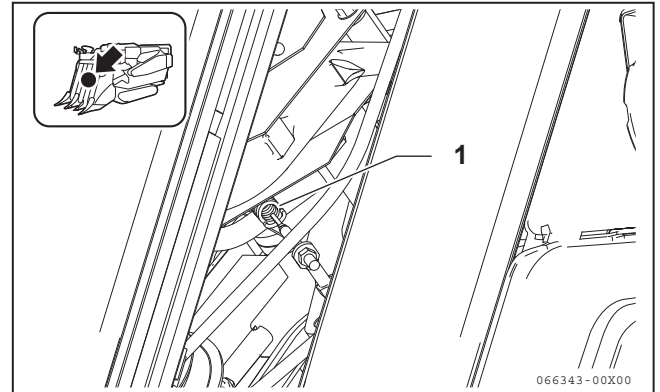


図 4-148

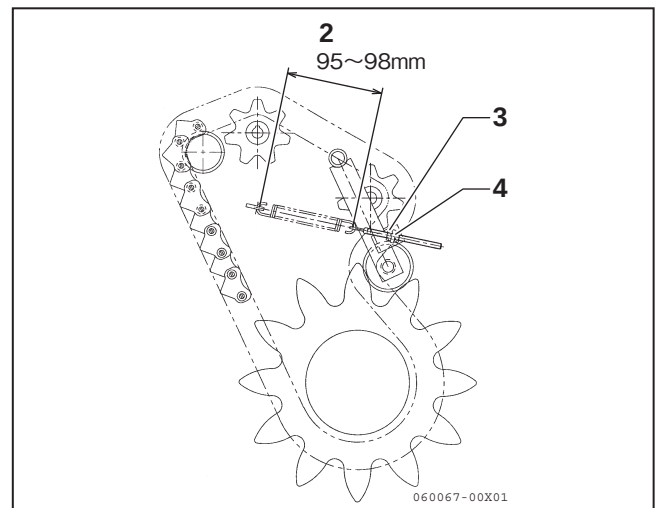


図 4-149

◆ 調節のしかた

1. ロックナット (3) をゆるめます。
2. 調節ナット (4) を回して、バネフック長を調節します。
3. ロックナットを締め付けて固定します。

4. お手入れのしかた

縦搬送チェーン

◆ 点検のしかた

縦搬送チェーン (1) の A すき間を測り、2 ～ 4 mm であるか確認してください。

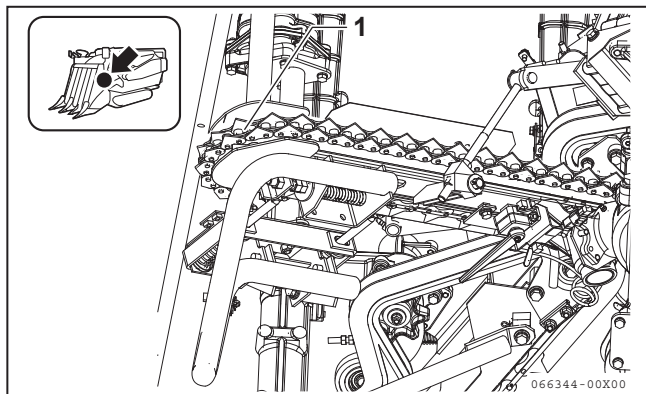


図 4-150

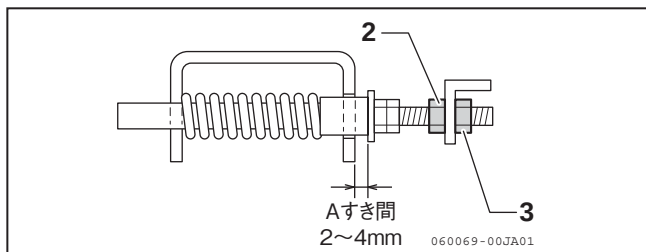


図 4-151

◆ 調節のしかた

1. ロックナット (2) をゆるめます。
2. 調節ナット (3) を締め込みながら、A すき間を調節します。
3. ロックナットを締め付けて固定します。

補助搬送チェーン

◆ 点検のしかた

テンションバネのフック長 (1) を測り、170 ～ 175 mm であるか確認します。

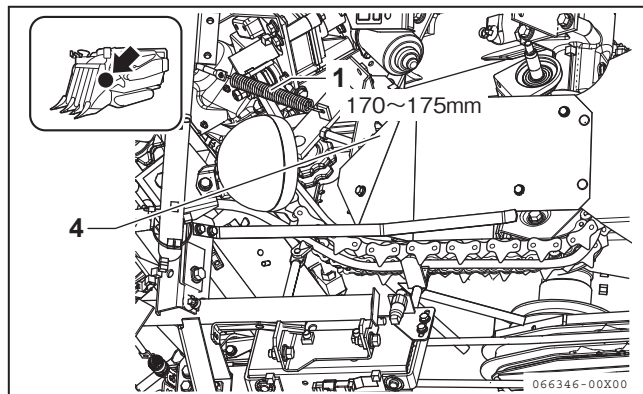


図 4-152

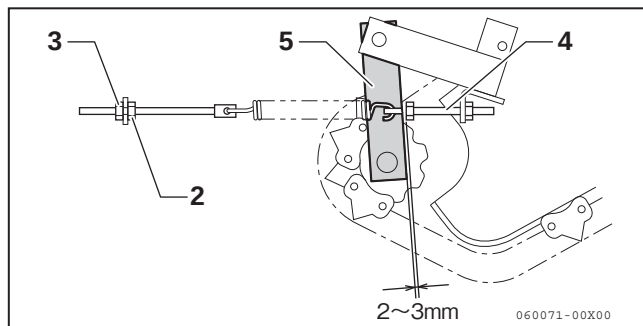


図 4-153

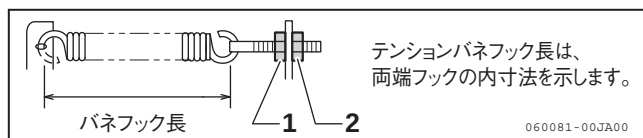


図 4-154

◆ 調節のしかた

1. ロックナット (2) をゆるめます。
2. 調節ナット (3) を回して、バネフック長を調節します。
3. ロックナットを締め付けて固定します。
4. ストップボルト (4) の先端が、テンションアーム (5) とのすき間を 2 ～ 3 mm にします。

4.3.28 ロールベアラ部のチェーンの点検・調節のしかた

タイトチェーン

◆ 調節のしかた

チェーンの張り調整は 161 ページを参照してください。

セカンドテンションの隙間とバネの長さは下図のようにセットされています。(工場出荷時)

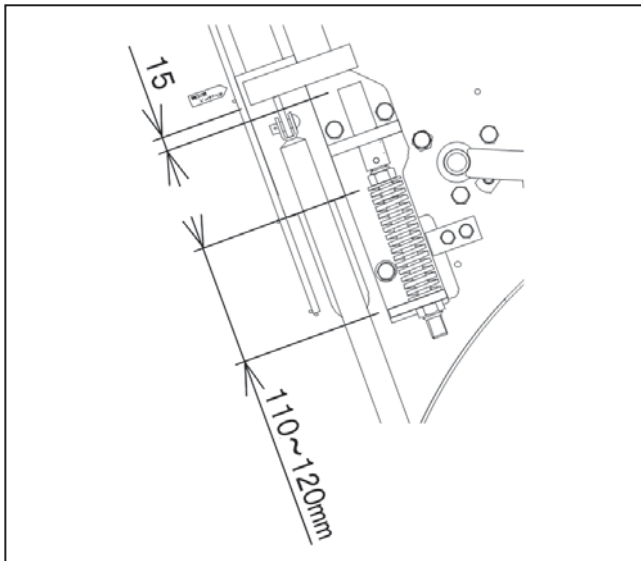


図 4-155

ロールベアラ、攪拌ディスク駆動チェーン

◆ 調節のしかた

チェーンが伸びたときは、バネの長さを下図のように調整してください。

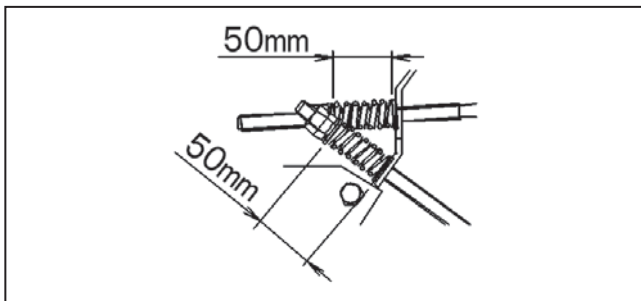


図 4-156

タイトチェーンの駆動チェーン

◆ 調節のしかた

チェーンが伸びたときは、バネの長さを 50 mm にしてください。

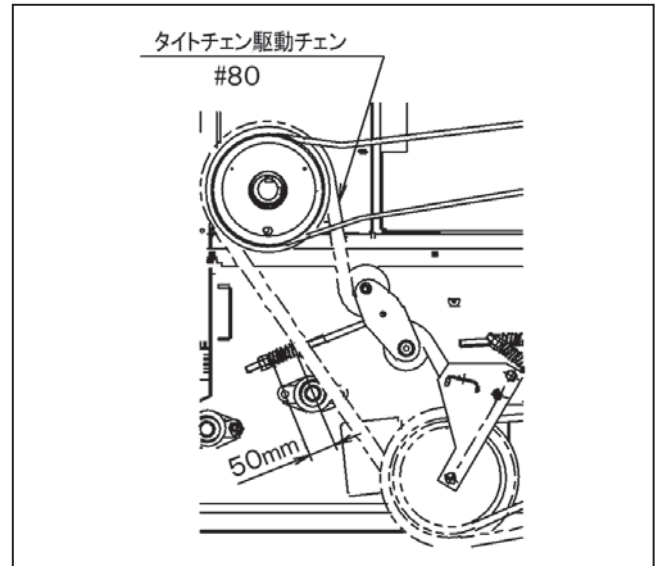


図 4-157

カッタ、フィードチェーンの駆動チェーン

◆ 調節のしかた

チェーンが伸びたときは、バネの長さを 50mm、150 mm にしてください。

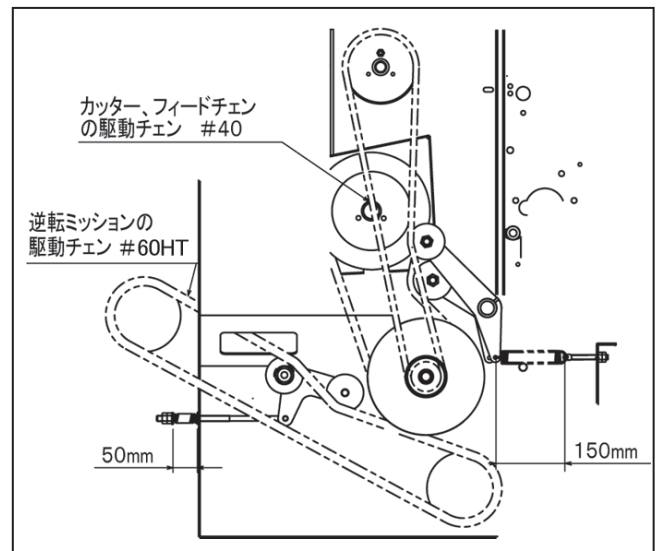


図 4-158

4. お手入れのしかた

コンベアベルト駆動チェーン

◆ 調節のしかた

チェーンが伸びたときは、たわみ量 10 ～ 15mm になるように調整してください。

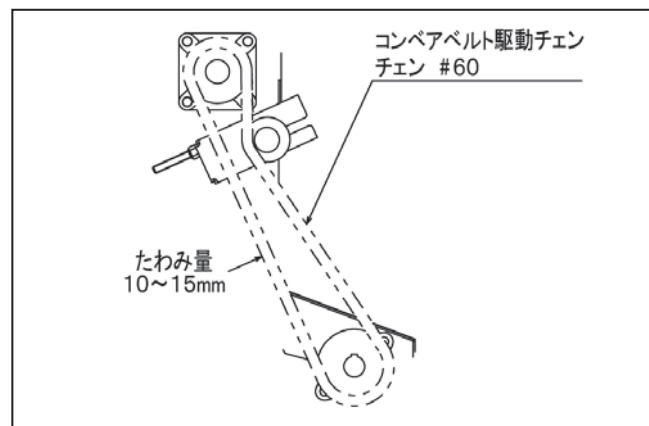


図 4-159

ギャザリングチェーン

◆ 調節のしかた

チェーンが伸びたときは、バネ A の長さを 60 mm になるようにバネ B 部で調整してください。

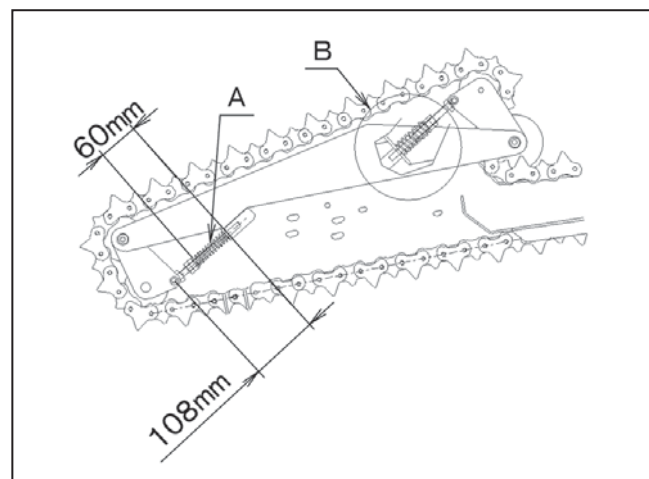


図 4-160

穂先チェーン

◆ 調節のしかた

チェーンが伸びたときは、バネの長さを 80 mm になるように調整してください。

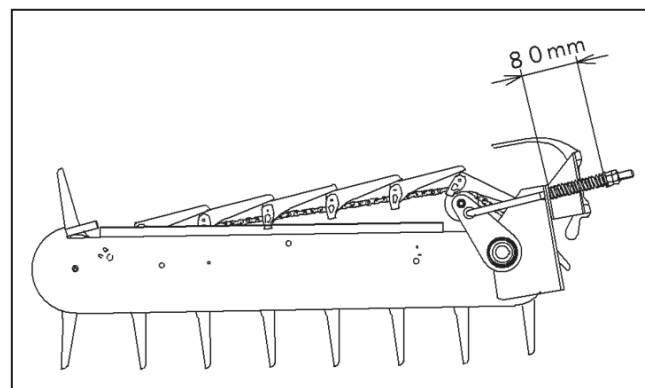


図 4-161

供給サポートチェーン

◆ 調節のしかた

チェーンが伸びたときは、バネの長さを 20 mm にしてください。

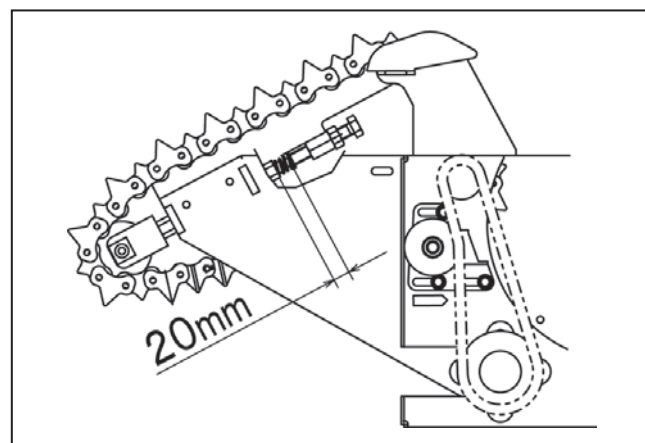


図 4-162

ベルトの基本的な点検・調節のしかた

テンションバネで調節されているベルトの点検・調節をするときは、各部の脱着・オープンをして、点検・調節をしてください。

点検・調節後は、元通りに装着・収納してください。

◆ 点検のしかた

テンションバネのバネフック長（コイル全長）を測り、図中に記載されている寸法になっているか確認します。

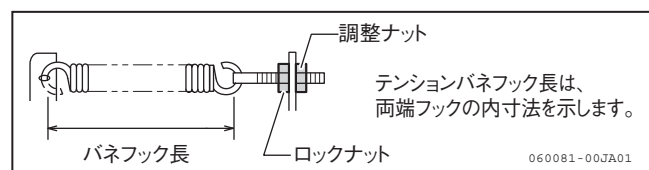


図 4-164

◆ 調節のしかた

1. ロックナットをゆるめます。
2. 調節ナットを回して、バネフック長（コイル全長）を調節します。
3. ロックナットを締め付けて固定します。

上記以外の点検・調節のしかたについては、そのつど説明しています。

ツナギカバーの外しかた

ボルト（1）（5本）取り外し、ツナギカバー（2）を取り外します。

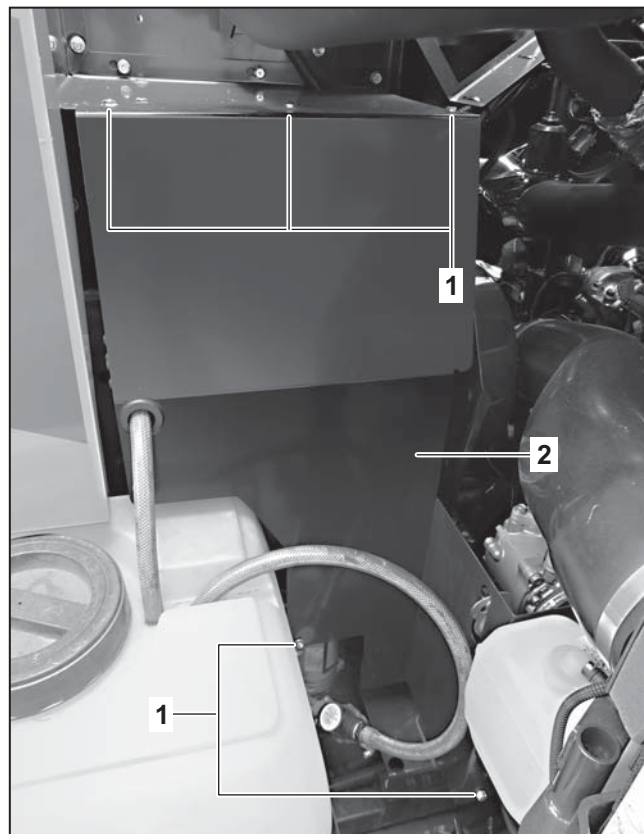


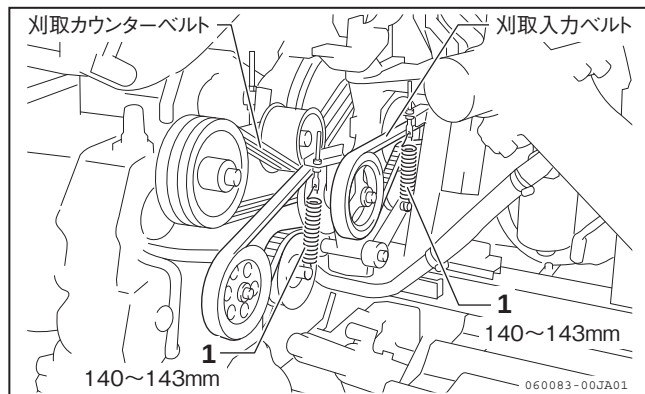
図 4-165

刈取カウンターベルト(刈取入力ベルト 1) 刈取入力ベルト (刈取入力ベルト 2)

刈取部ストッパをセットします。(151 ページ)

◆ 点検のしかた

テンションバネのフック長 (1) を測り、140 ~ 143 mm であるか確認します。



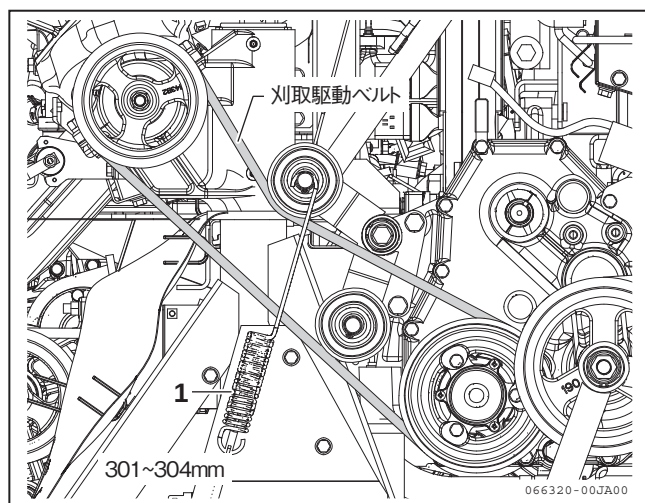
※ テンションバネの調節のしかたは、208 ページを参照してください。

図 4-166

刈取駆動ベルト

◆ 点検のしかた

テンションバネのフック長 (1) を測り、301 ~ 304 mm であるか確認します。



※ テンションバネの調節のしかたは、208 ページを参照してください。

図 4-167

コンプレッサ駆動ベルト

ツナギカバーを外して、つぎの点検・調節をしてください。点検・調節後は、元通りに収納してください。

◆ 点検のしかた

ベルト (1) の中央を指で押したとき、たわみ量 (2) が 6 ~ 8 mm であるか確認します。

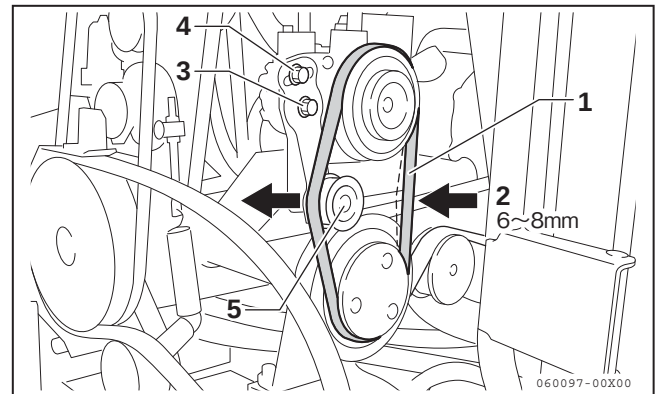


図 4-168

◆ 調節のしかた

1. 支点ボルト (3) と調節ボルト (4) をゆるめます。
2. テンションアーム (5) を矢印方向に引っ張って、ベルトのたわみ量を調節します。
3. 調節ボルトと支点ボルトを締め付けて固定します。

4. お手入れのしかた

ロータリースクリーン吸引ファン駆動ベルト

ツナギカバーを外して、つぎの点検・調節をしてください。点検・調節後は、元通りに収納してください。

◆ 点検のしかた

テンションバネのフック長 (1) を測り、93 ～ 97 mm であるか確認します。

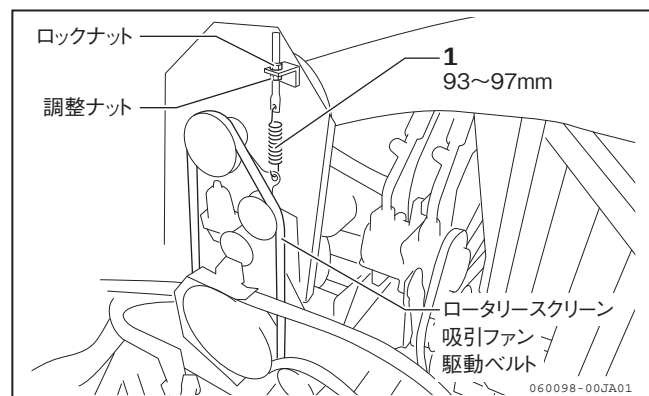


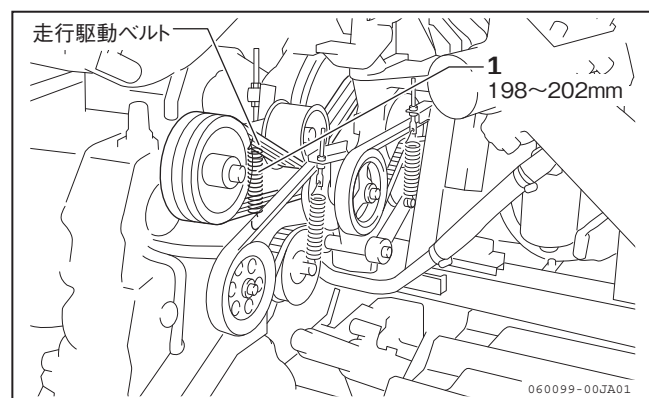
図 4-169

走行駆動ベルト

刈取部を開きます。(140 ページ)

◆ 点検のしかた

テンションバネのフック長 (1) を測り、198 ～ 202 mm であるか確認します。



※ 図は、刈取部を開いています。

図 4-170

ベアラ駆動ベルト

ツナギカバーを外して、キースイッチを「入」位置、作業クラッチレバーを「ベアラ」位置にして、つぎの点検・調節をしてください。点検・調節後は、元通りに収納してください。

◆ 点検のしかた

テンションバネのフック長 (1) を測り、235 ～ 240 mm であるか確認します。

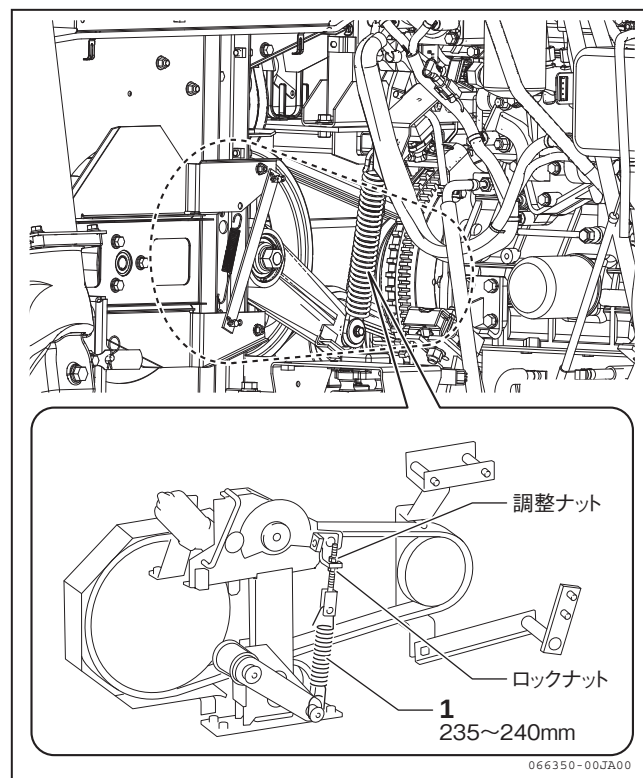


図 4-171

掻込みベルト

刈取サイドカバー L・R を外して、つぎの点検・調節をしてください。

点検・調節後は、元通りに取り付けてください。

◆ 点検のしかた

ベルトの中央を指で押したとき、たわみ量 (1) が 15 ~ 20 mm であるか確認します。

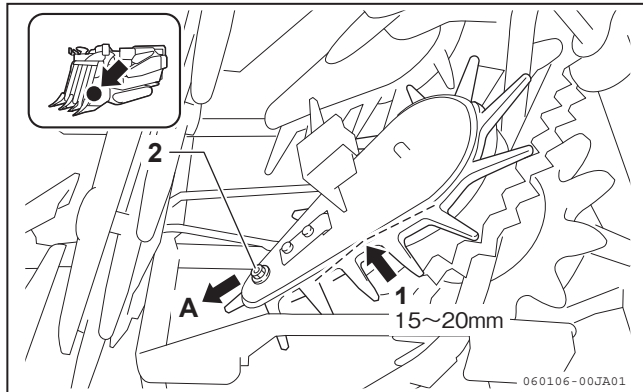


図 4-172

◆ 調節のしかた

1. テンションローラ取付ナット (2) をゆるめます。
2. テンションローラを矢印 A の方向に引っ張り、ベルトを張ります。
3. テンションローラ取付ナットを締め付けて固定します。

ジェネレータ駆動ベルト (ファンベルト)

ツナギカバーを外して、つぎの点検を行ってください。また、調節するときはキャビン (146 ページ) と刈取部 (140 ページ) を開いてください。

点検・調節後は、元通りに収納してください。

◆ 点検のしかた

ベルトの中央を指で押したときのたわみ量 (1) を確認します。

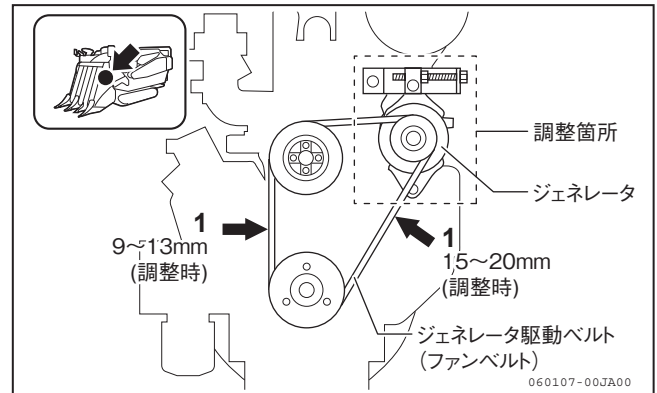


図 4-173

◆ 調節のしかた

1. 運転席の裏側に回って、ボルト (1) (5 本) を外して保護カバー (2) を外します。

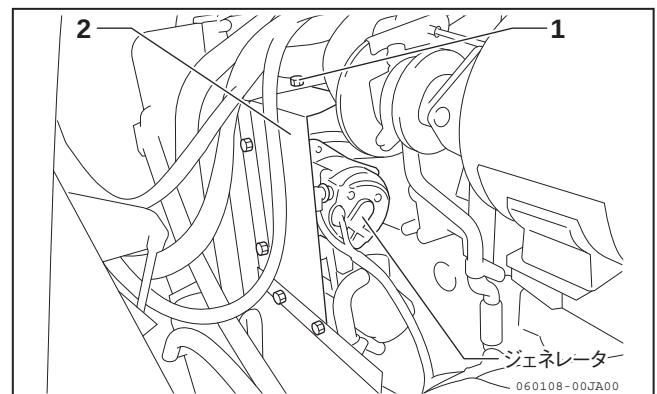


図 4-174

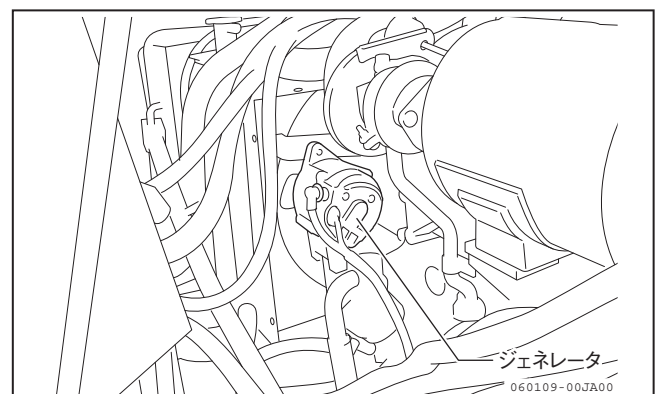


図 4-175

4. お手入れのしかた

2. 固定ボルト (1)、ジェネレータ固定ナット (2)、アジャスタ取付ボルト (3)、テンションボルト固定ナット (4) をゆるめ、テンションボルト (5) を回して、ベルトの張りを調整します。

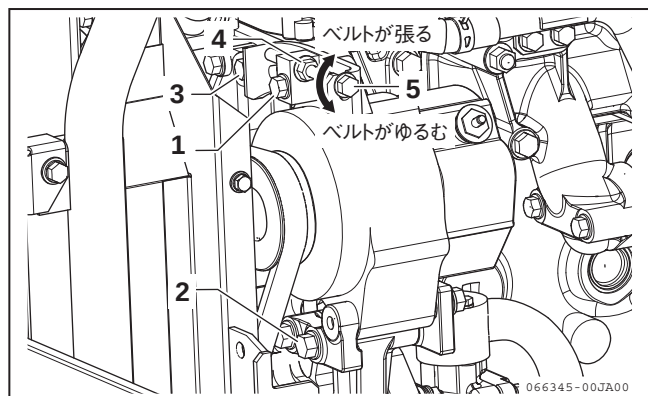


図 4-176

3. 調整後のボルト、ナットの締め付けは、固定ボルト (1) ⇒ ジェネレータ固定ナット (2) ⇒ アジャスタ取付ボルト (3) ⇒ テンションボルト固定ナット (4) の順に締め付けます。
4. 調整直後のベルトの張りは均一でないため、エンジンを一度かけてから再度確認します。

《 重要 》

- ジェネレータをいっばいに動かしてもベルトがスリップするときは、新しいファンベルトと交換してください。
- 新しいベルトは、交換後 50 時間目に必ず点検してください。

4.3.30 ロールベアラ部のベルトの調節のしかた

ネット駆動ベルト

◆ 調節のしかた

下図のように組み付けてください。

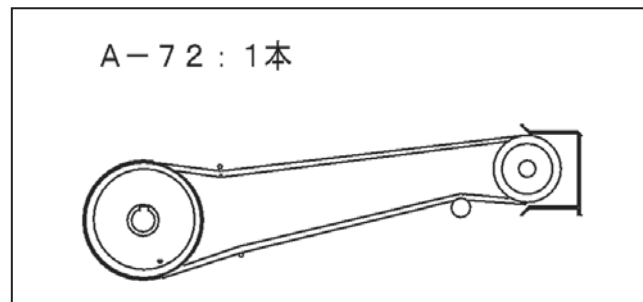


図 4-177

カッタ駆動ベルト

◆ 調節のしかた

バネの長さが 145mm、160mm になるように調整してください。

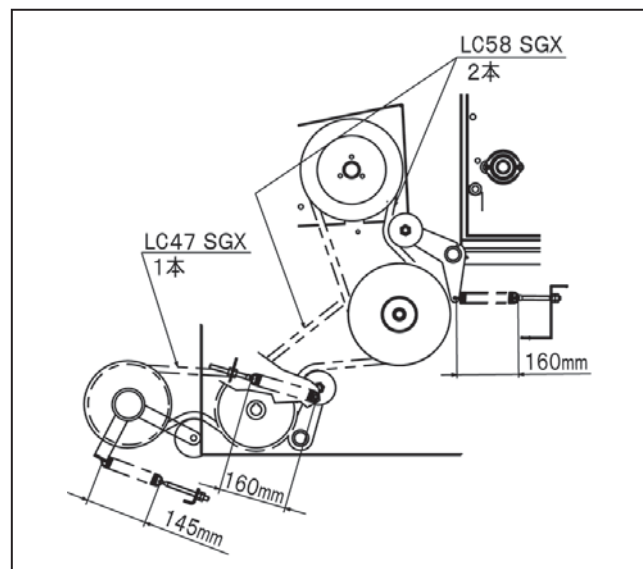


図 4-178

コンベアベルト

◆ 調節のしかた

バネ長を 22 mm に調整してください。

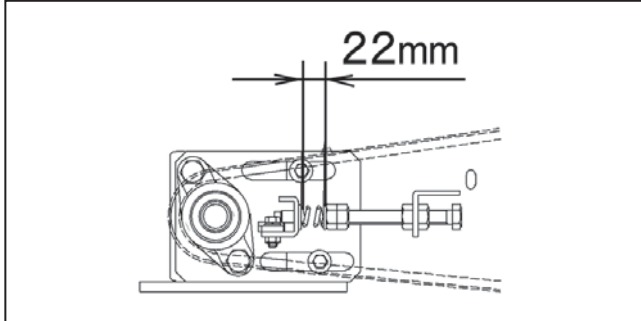


図 4-179

減速ミッションベルト

◆ 調節のしかた

バネ長を 50 mm に調整してください。

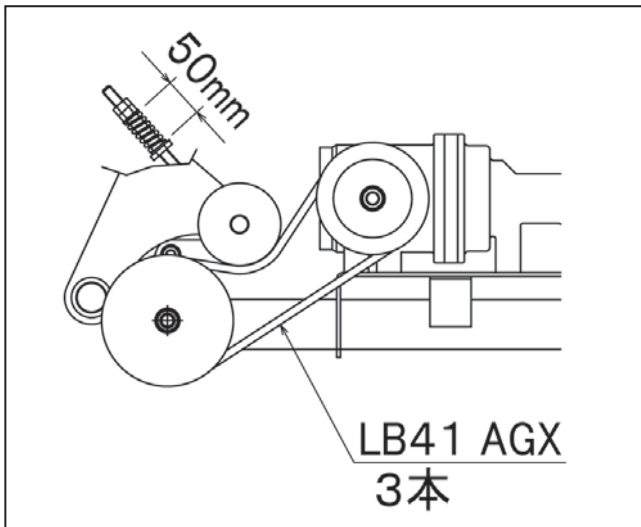


図 4-180

4.3.31 駐車ブレーキの点検・調節のしかた

刈取部を開き（140 ページ）、サイドコラムカバー中を外して、つぎの点検・調節をしてください。
点検・調節後は、元通りに取り付けてください。

点検のしかた

1. セフティペダルを踏み込み、駐車ブレーキロックレバーでペダルをロックします。
2. ペダルを上下に動かし、ガタがあるか確認します。
3. ガタがなければ、ブレーキワイヤのバネ長を 95 ～ 99 mm に調節します。

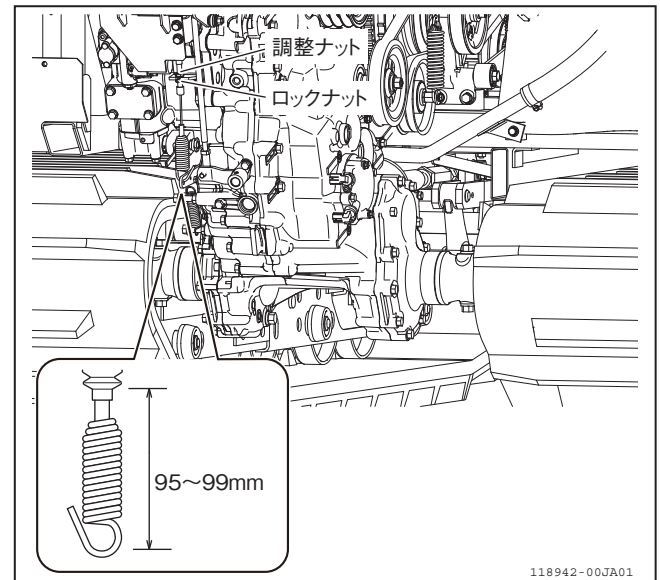


図 4-181

4. オールマイティシフトレバーを前後に動かし、ガタがあるか確認します。

4. お手入れのしかた

5. ガタがある場合は、N ブレーキロッド A (1)・B (2) のナット (3) を調節して、レバーのガタをなくします。

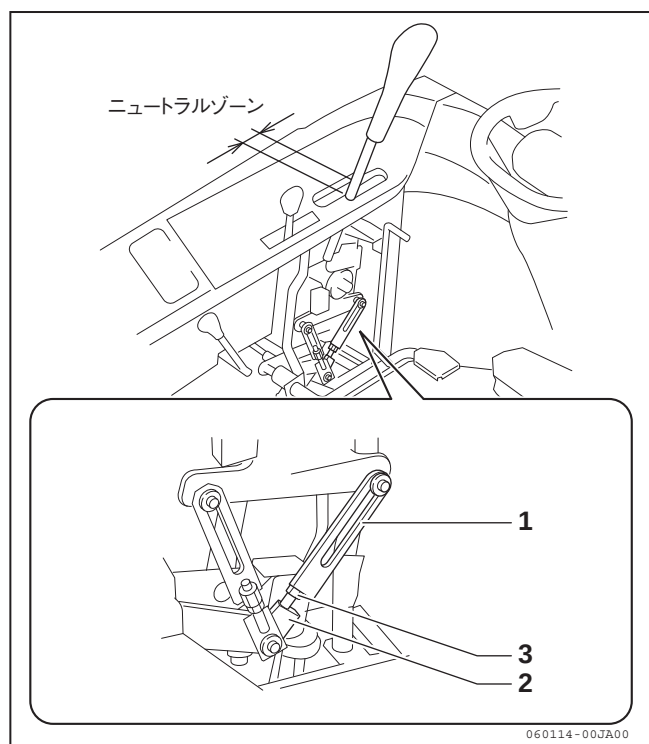


図 4-182

6. 駐車ブレーキロックレバーを解除して、オールマイティシフトレバーを「前進」側いっぱい、および「後進」側いっぱいにした状態から、セフティペダルを徐々に踏み込んだときに、オールマイティシフトレバーが「N」(中立) 位置に戻ることを確認します。
7. コンバインを走行させながら上記 6. の操作を行い、コンバインが完全に停止することを確認します。

4.3.32 クローラの点検・調節のしかた

⚠ 警告

- ジャッキアップをするときは、地面が固く、平たんな場所で、必ず 3 トン以上の容量のジャッキを使用して行ってください。

※ バランスをくずして転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ジャッキをかける位置

ミッション下部およびシャーシ左後・右後の 3 カ所を同時にジャッキアップし、クローラを浮かせた状態でつぎの点検・調節をしてください。

◆ ミッション下部

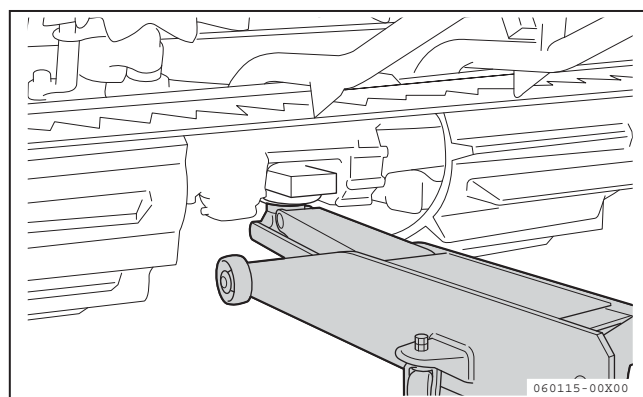


図 4-183

《 重要 》

トランスミッションケースは、アルミ製ですので、ジャッキとの間に木材などの緩衝材を入れてください。入れないと、ケースが破損するおそれがあります。

◆ シャーシ左後

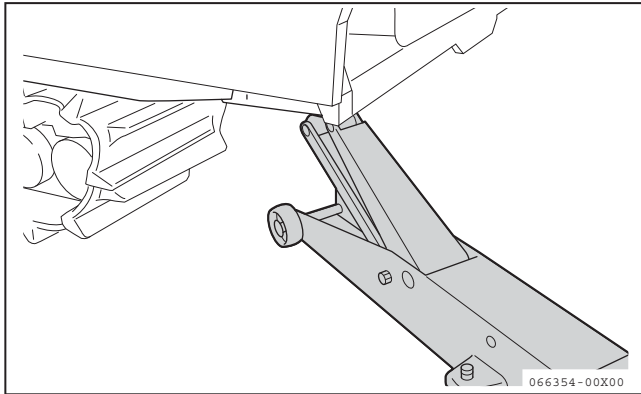


図 4-184

《 重要 》

ジャッキの座が、燃料タンクに当たらないようにセットしてください。

◆ シャーシ右後

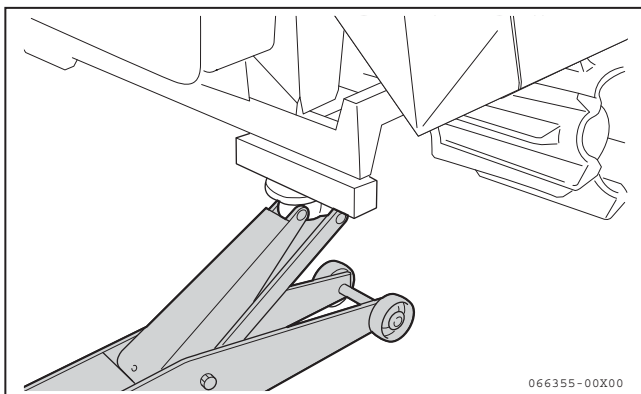


図 4-185

点検のしかた

第5 転輪 (1) とクローラとのすき間を測り、15 ～ 20 mm であるか確認します。

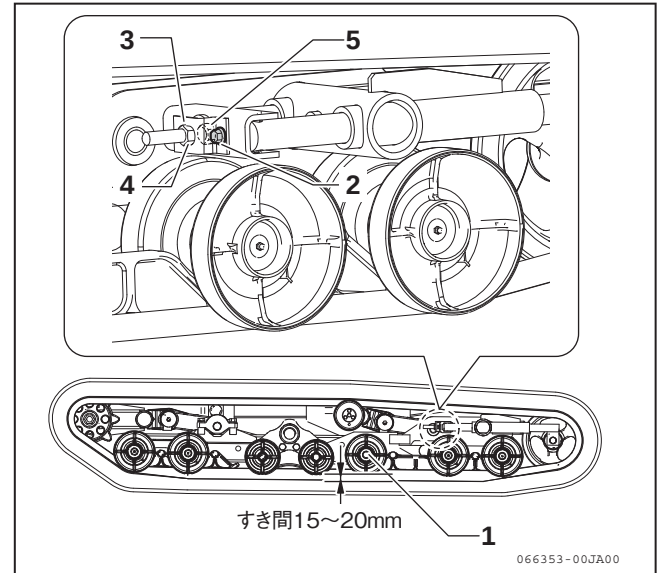


図 4-186

調節のしかた

1. ボルト M8 (2) を外します。
2. 回り止め金具 (4) を外します。
3. ロックナット (3) を外します。
4. 調節ナット (5) を回して、すき間を調節します。
5. ロックナットを締め付けて固定します。
6. 回り止め金具を取り付けてボルト M8 で固定します。

《 参考 》

テンションボルトを左へ回すと、アイドラが縮みクローラがゆるみます。
テンションボルトを右へ回すと、アイドラが伸びクローラが張られます。

4. お手入れのしかた

4.3.33 刈取下部搬送右の平行ピンの交換のしかた

下部搬送右が回らない場合は、平行ピン（1）を交換します。

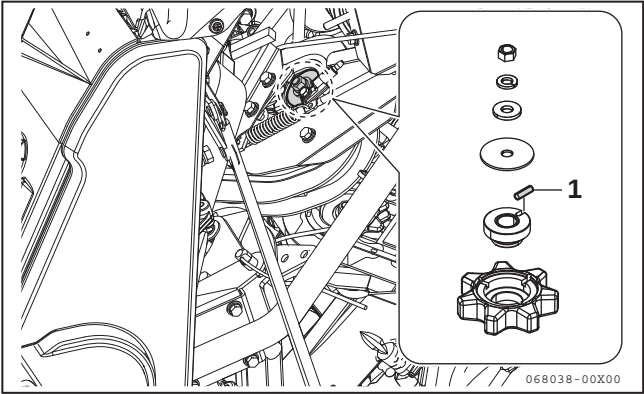


図 4-187

4.3.34 排出ガスの色について

気温が低い場合は、エンジン始動時に排気フィルターおよび排気管から白煙が出ることがあります。白煙は水蒸気のため問題ありません。構造上、排気フィルターを搭載していない従来機にくらべ排出ガス中の水蒸気が白煙として見えやすくなります。

4.3.35 クーラガス（冷媒）の点検のしかた

クーラガス（冷媒）が不足していると、冷房性能が低下します。
特販店、または JA で点検・補充を受けてください。

警告

- 冷媒回路の分解は絶対しないでください。
※ クーラガスの液が目に入ったり手にかかると、失明や凍傷にかかり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- エンジン回転中は、エンジンや回転部に手を触れないよう十分に注意してください。

《 重要 》

- クーラガスは R-134a を使用しています。これ以外のクーラガスは、絶対に使用しないでください。

表 4-31 冷媒（クーラ）ガス

使用冷媒（クーラガス）	フロン R-134a
充てん量	770 ± 50g

- 冷媒ガスをみだりに大気中に放出することは法令で禁じられています。絶対に行わないでください。

点検のしかた

1. エンジンを始動し、エンジン回転数を定格回転（グリーンゾーン）にします。
2. ファンスイッチ（1）を「H」位置（最大風量）にします。

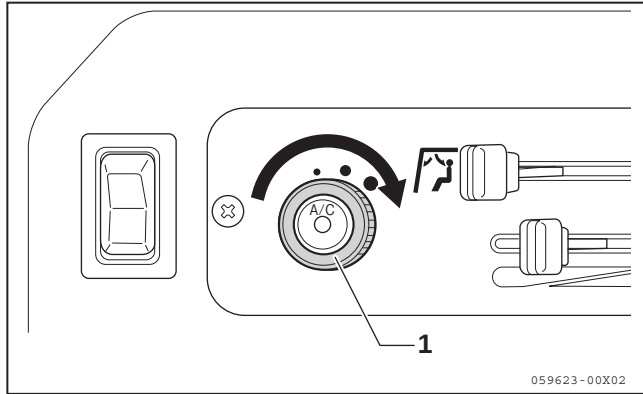


図 4-188

3. 温度コントロールレバー（1）を「COOL」位置（強冷）にします。

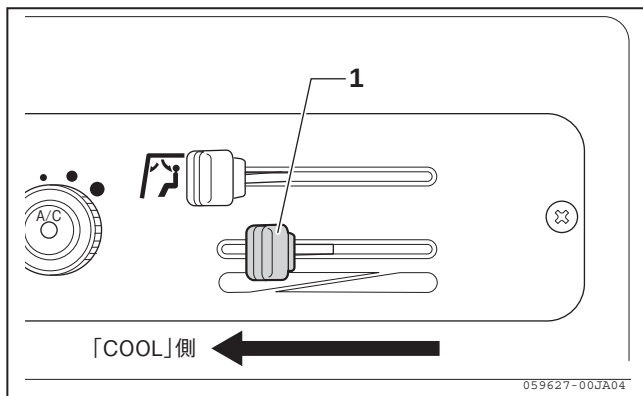


図 4-189

4. エアコンスイッチを「ON」（ランプ点灯）にします。
5. チョウナット（1）を外してエアコンカバー上部のカバー（2）を外します。

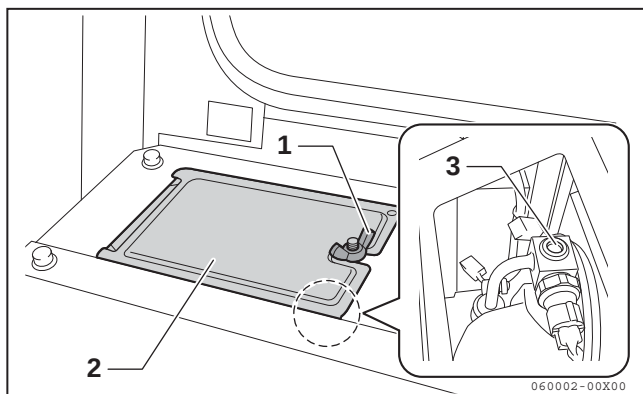
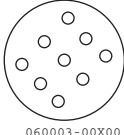
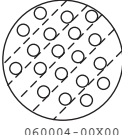
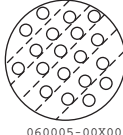
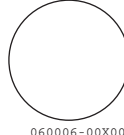


図 4-190

6. リアウインドウを開きます。
7. リキッドタンクのサイトグラス（点検窓）（3）から、クーラガスの気泡の流れを見て、ガス量の点検をします。（218 ページ）

4. お手入れのしかた

表 4-32 クーラガス量チェック表

クーラの状態	異常なし	異常あり		
高・低圧パイプの温度	高圧パイプは熱く、 低圧パイプは冷たい。 温度差がはっきりある。 ・コンプレッサ吐出側温度 70℃ ・コンプレッサ吸入側温度 5℃	高圧パイプは暖かく、 低圧パイプはやや冷たい。 温度差はあまりない。	高圧パイプ、低圧パイプにほとんど温度差が感じられない。	高圧パイプは熱く、 低圧パイプはやや暖かい。 温度差はあまりない。
サイトグラスの状態	ほとんど透明。気泡の流れが見えても、エンジン回転を上げたり下げたりすると透明になる。 ※ 1 	気泡の流れるのが見える。透明または白泡のときもある。 	霧のようなものが流れているのがわずかに見える。 	ドアを全開にして、ファンを最大風量にし、アイドリングで回しても気泡が見えない。 ※ 2 
パイプ接続部の状態	異常なし。	油が汚れているところがある。	油の汚れが著しいところがある。	異常なし。
このクーラの状態は	ガス量も不足なく異常はない。	少しガスが漏れているところがある。	ガスがほとんど漏れてなくなってしまった。	ガスが過充てんになっている。

※ 1 外気温度が低いときには、ガス充てん量が適正でも気泡が見えることがあります。

※ 2 クーラガスがない場合があるので、高・低圧パイプの温度差がないことを確認してください。
この場合、全く冷えない状態にあります。

《 重要 》

- 連続した気泡が見えるときは、冷媒が不足していますので、特販店、または JA ですぐに補充を受けてください。冷媒不足の状態で運転を続けると、コンプレッサの破損の原因になります。
- 点検窓に全く冷媒が確認できず、エアコンスイッチを「ON」（ランプ点灯）にしても冷えないときは、冷媒が空の状態です。特販店、または JA にご連絡ください。
- 冷媒漏れによって、サイクル内のオイルが不足していると、そのまま冷媒だけを追加してもコンプレッサロックの原因になります。

冷媒ガス（フロン類）の処理について

- 冷媒ガスをみだりに大気中に放出することは法令で禁じられています。絶対に行わないでください。
- 冷媒ガス（フロン類）の充填・回収・廃棄は都道府県に登録された第一種フロン類充填回収業者のみが行うことができます。
廃棄する場合は、登録された充填回収業者に依頼してください。

エアコン機器の簡易点検

当機搭載のエアコン機器は、フロン排出抑制法により3ヶ月に1回以上の簡易点検が義務付けられています。点検を行い、その記録を残してください。当機を譲渡する場合は、譲渡先に点検記録を渡してください。冷媒ガスの漏えいを発見した場合は、速やかに購入先に漏えい個所の修理を依頼してください。

4.3.36 感知装置の点検・調節のしかた

満了感知装置の装備位置

進行方向左側のカバーの内側に装備しています。

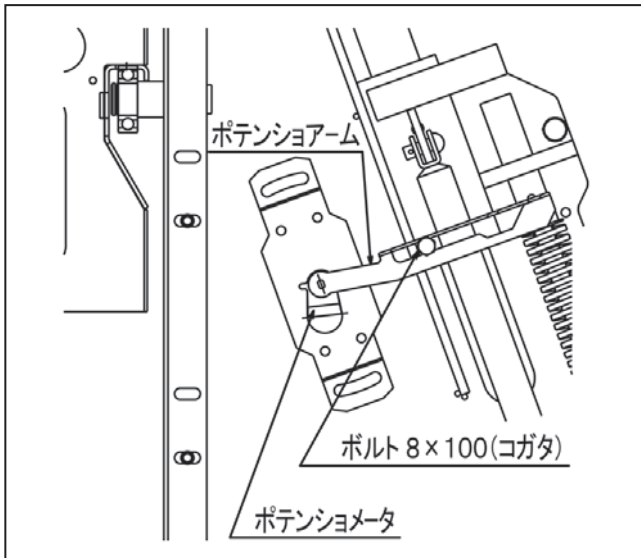


図 4-191

満了感知装置の調整方法

1. 感知に使用しているボルト 8 × 100(コガタ)を外し、図の位置で固定しポテンシオアームをボルト 8 × 100 の上に乗せます。(図 4-191)
2. コントロールボックスの入力チェックモードに入り、感知ポテンシオメータの電圧値が 2.4V ~ 2.6V になるようにポテンシオベースの長穴を調整します。2.4V ~ 2.6V に入っているとブザーが鳴ります。調整後コントロールボックスで感知の初期位置合わせを行います。(70 ページ)

4.3.37 チャンバ閉センサの点検・調節のしかた

チャンバ閉センサの装備位置

進行方向右側のチャンバロック部に装備しています。

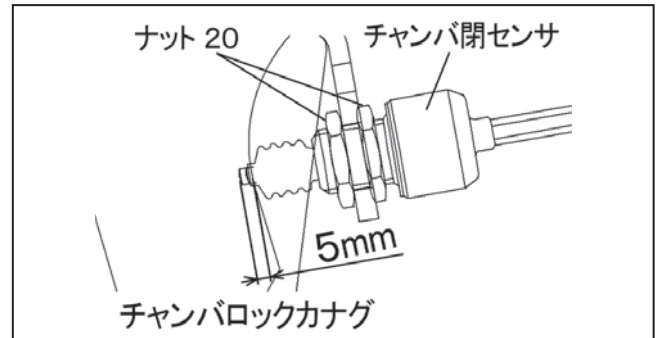


図 4-192

チャンバ閉センサの調整方法

1. チャンバを完全に閉じます。
2. ナット 20 を緩めます。
3. チャンバ閉センサの先端がチャンバロックカナグに 5mm 押された位置にし、ナット 20 で固定します。

4. お手入れのしかた

4.3.38 カッタツマリセンサの点検・調節のしかた

カッタツマリセンサの装備位置

進行方向左側のカッタの上方に装備しています。

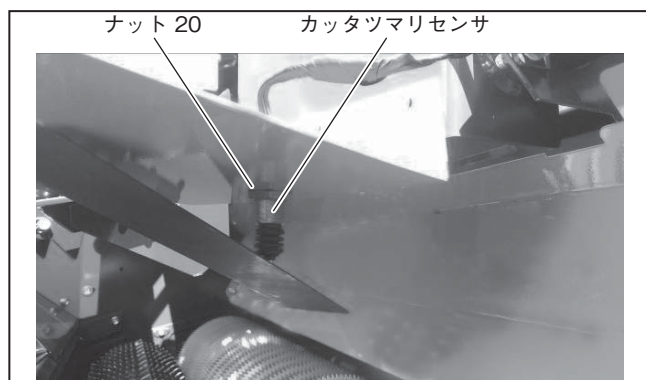


図 4-193

カッタツマリセンサの調整

カッタツマリセンサを一番下に下げた位置にし、ナット 20 で固定してください。

4.3.39 添加器残量センサの取付け方向

タンク内に取り付ける際に取り付けボルトの欠き取りがタンク外から見て左になるように取り付けてください。

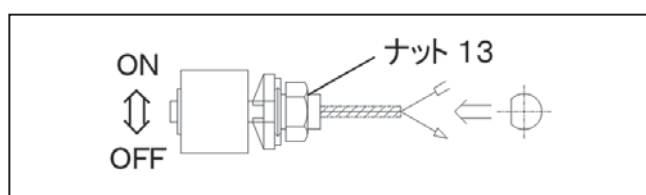


図 4-194 残量センサを水平方向から見た図

4.3.40 ネットカムセンサ 1・2、ネットカウンタセンサの点検・調節のしかた

各近接センサは反応させるボルトとの距離が 1.6 mm になるように調節してください。

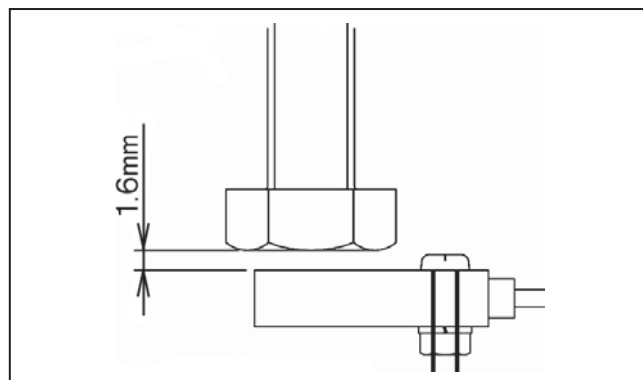


図 4-195

4.3.41 ブザー音量の調節のしかた

コントロールボックス内部にブザー音量の調節ダイヤルを装備しています。

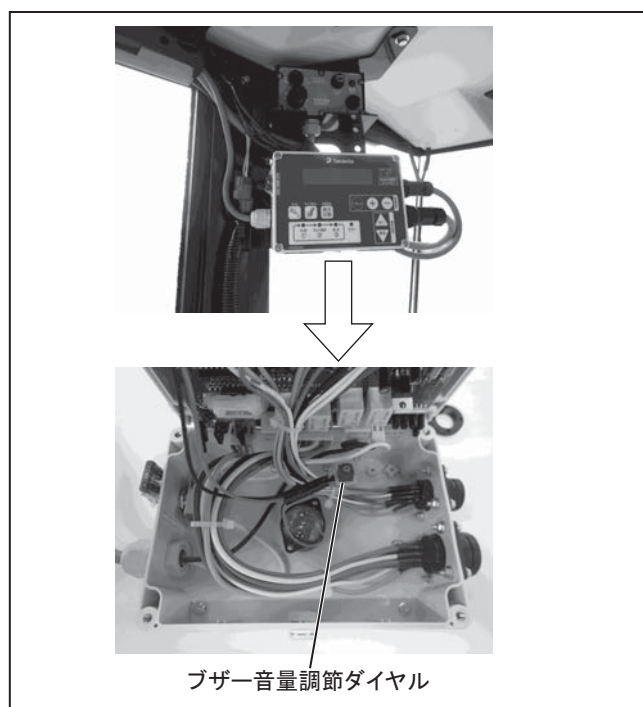


図 4-196

プラスドライバーでダイヤルを調節してください。時計回りにダイヤルを回すと音量が大きくなります。出荷時は時計回りに回しきった位置になっているため音量は最大となっています。

4.3.42 カッタ部の点検・調節のしかた

⚠ 警告

- 平坦な場所でエンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いて行ってください。
- 手袋をし、直接カッタの刃に触れないでください。

《 参考 》

- ・わらくずなどは取り除いてください。

カッタの駆動ベルトを外し、プーリーを手で回転させ刃先の磨耗状態を確認します。

刃先が磨耗したり、欠けているときは交換してください。

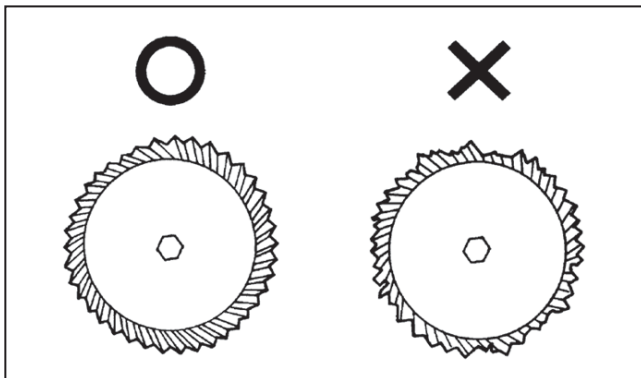


図 4-197

カッタの刃の交換、調整はカッタをロールベアラから引き抜いて行ってください。

⚠ 注意

- カッタの引き出しはクレーンのあるところで行ってください。
- 人手で行う時は 4 人で作業してください。
- 必ず手袋をし、直接カッタの刃に触れないでください。

カッタの外し方

1. カッタカバー外を外しサイドカバー R を開いてください。
2. ロールベアラ右の下図のボルト 4 本はずしてください。

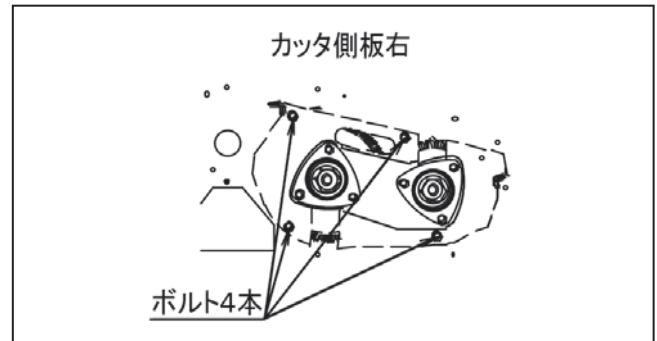


図 4-198

3. 駆動チェーンと駆動ベルトのテンションを緩め、チェーンとベルトを外してからボルト 4 本を外し、カッタを引きだしてください。

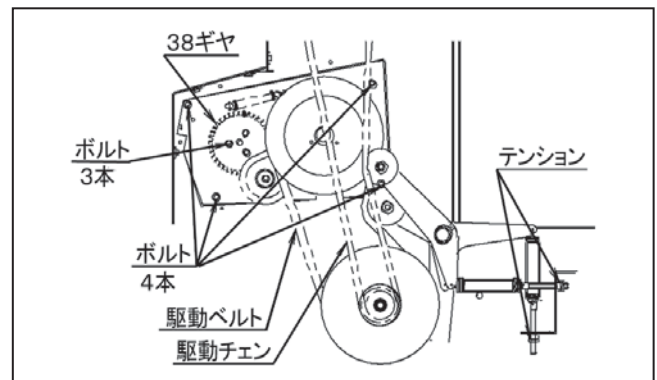


図 4-199

4. お手入れのしかた

点検のしかた

1. 両端部の切断刃と供給刃のすき間を確認し、4.5～8.0 mm の範囲から外れているときは調整を行います。

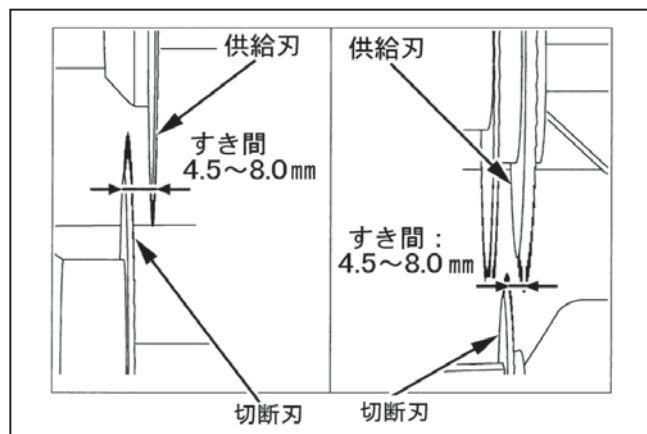


図 4-200

調整のしかた

1. 38ギヤのボルトを3本はずします。
2. 38ギヤを左または、右に回して切断刃と供給刃のすき間を調整します。すき間は左に回すと大きくなり右に回すと小さくなります。
 - この調整はカッタをロールベアラに固定した状態で行ってください。

《 重要 》

- 38ギヤを左に回した場合（すき間を大きくした場合）は、38ギヤとボス部にすき間ができるため、必ず38ギヤを軸方向に押込んだ状態ですき間を調整してください。
- すき間は、株元側と穂先側の両端部で測定してください。

切断軸と供給軸の増締め

2人作業で株元側から切断軸と供給軸をそれぞれ増締めをします。

《 重要 》

- 軸の締付けトルクは98.0～117.6N・m (1000～1200kgf・cm)です。確実に締付けてください。組付け時、刃物・パイプ端面に砂など異物が付着しますと、刃物間寸法が出ない場合がありますので注意してください。

- 1) カッタフレーム内側から切断軸または、供給軸の終端部の六角部にそれぞれスパナを掛けて固定します。
- 2) カッタフレーム外側から切断軸または、供給軸の六角部にそれぞれスパナを掛けて増締めします。このとき、供給軸は時計方向、切断軸は反時計方向に締付けます。

カッタ刃の交換

！ 警告

- カッタ刃を交換するときはエンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いて行ってください。
- 手袋をし、直接カッタ刃に触れないでください。
- 切断軸アッシを外すときは、二人でカッタ刃のない両端を持って脱着作業をしてください。
- 切断軸アッシの分解・組立は二人作業で行ってください。

1. カッタをロールベアラから外したら上下さかさまに台に置いてください。

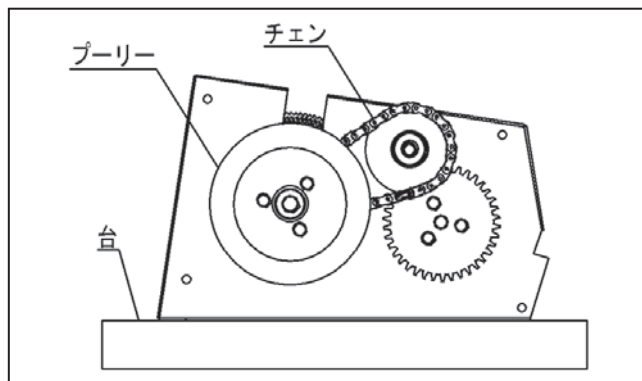


図 4-201

2. プーリー、チェン、スプロケット、カラーを外します。

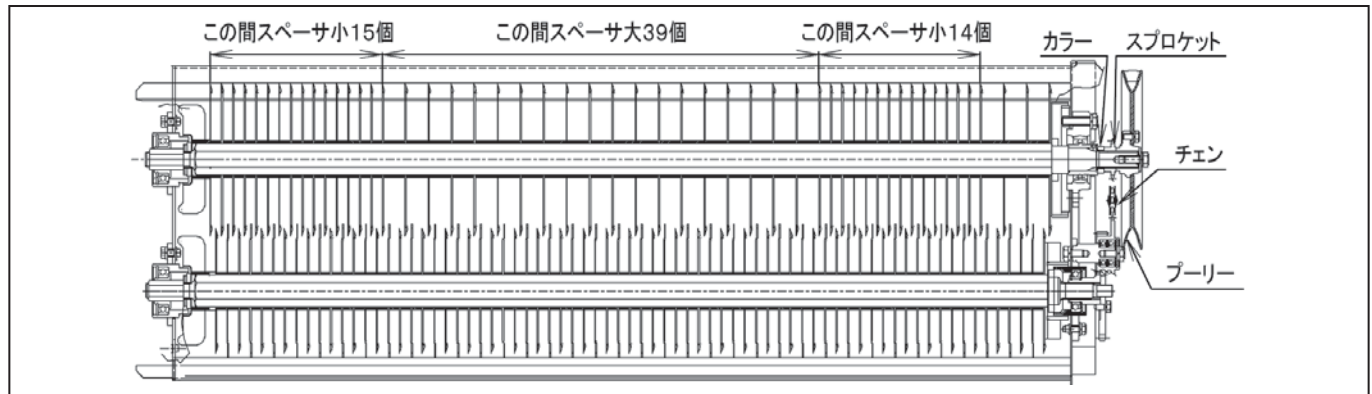


図 4-202

3. 切断軸アッシをとり外します。
4. カッタ刃（切断刃）の交換を行ないます。交換作業を行なうときは、必ず補助者と共に2人作業で行なってください。

- 1) 切断軸アッシを安定した場所に置き、穂先側のロックナット、調整ナットと順番に取外して分解します。
- 2) 切断軸の穂先側を上向きにして垂直に立てた状態でカッタ刃の取付け方向（刃先の向き）や大きさ（大、小）に注意しながら交換を行ないます。

《 重要 》

- 組付け後にカッタ刃が切断軸の垂直方向に対して傾いていると、切断軸が軸振れを起こして異音が発生したり破損する原因となります。
- 組付け時にカッタ刃やパイプの端面に砂などの異物が付着すると、カッタ刃と供給刃のすき間及びカッタ刃両端の寸法が規定値の範囲から外れ、上記の軸振れを起こすことやわらの切断性能が悪くなるおそれがあります。

5. 切断軸アッシをカッタフレームに組付けます。
6. 切断軸ナットを増締め要領で締め付けます。（222 ページ）

《 重要 》

- 軸の締め付けトルクは $98.0 \sim 117.6 \text{ N} \cdot \text{m}$ ($1000 \sim 1200 \text{ kgf} \cdot \text{cm}$) です。確実に締め付けてください。
- カッタ刃と供給刃が接触していないかを手で切断軸を軽く回して確かめてください。

7. 取り外した逆の手順で各部品の取り付けを行います。
8. カッタを本体に組み付けます。

《 参考 》

- 取付方向（刃先やローターの向き）を間違えると切断性能や送り性能が悪くなります。
- サラバネ 2 枚は下図のように組みつけてください。

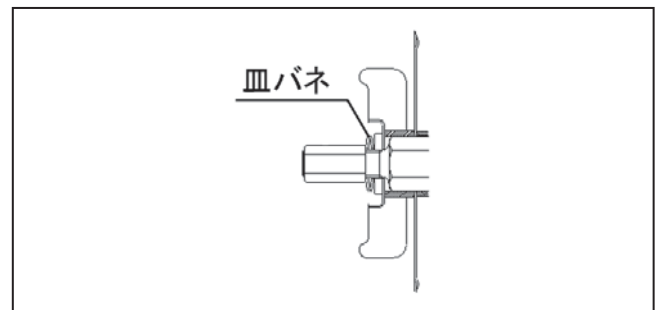


図 4-203

- 刃、ローターの向きと回転方向は下図のようになります。

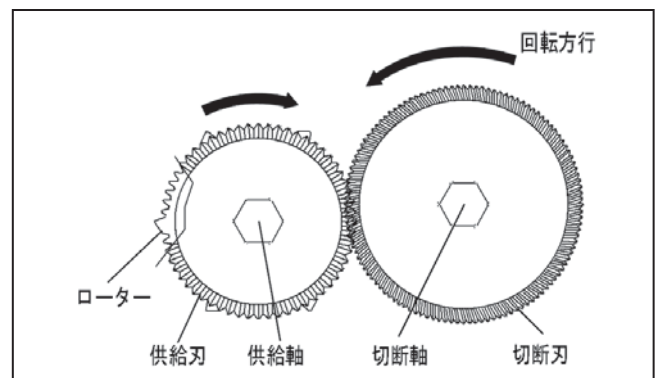


図 4-204

4. お手入れのしかた

4.3.43 スピンナー部の点検・調節のしかた

スピンナー部アッシを本体から引き抜いて点検調整してください。

1. サイドカバー L 内のボルトを2本外します。

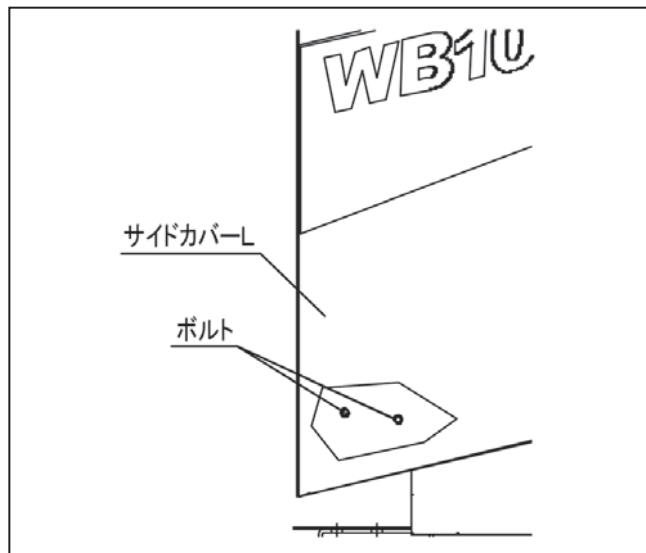


図 4-205

2. サイドカバー R を開き、チェンカバーを外します。
3. タンクベースは、固定されているハーネスを外してからポリタンク 50、消火器、ポンプごと外します。

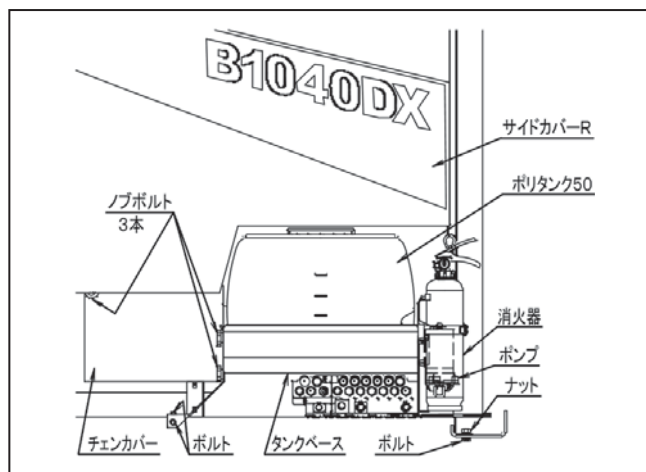


図 4-206

4. 駆動チェンを2本外します。
5. カバーのボルト2本、ディスク側板のボルト6本とディスクを外し、スピンナー部アッシを本体から引き抜きます。

6. スピンナーやスピンナー根が磨耗したり変形すると攪拌性能が悪くなることがあります。そのときは交換してください。

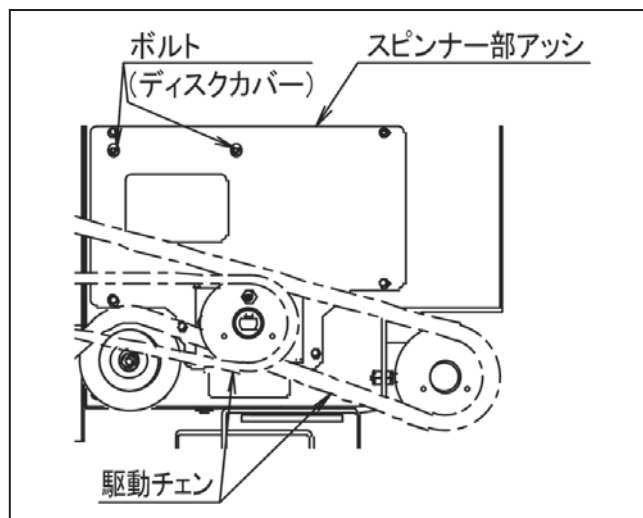


図 4-207

4.4 不調診断のしかた

⚠ 注意

- コンバインの調子が悪いときは、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてから診断してください。
※ 回転物にはさまれてけがをするおそれがあります。

つぎの処置をしても改善されないときは、お買い上げいただいた特販店、または JA に連絡してください。

4.4.1 センターディスプレイの注意画面について

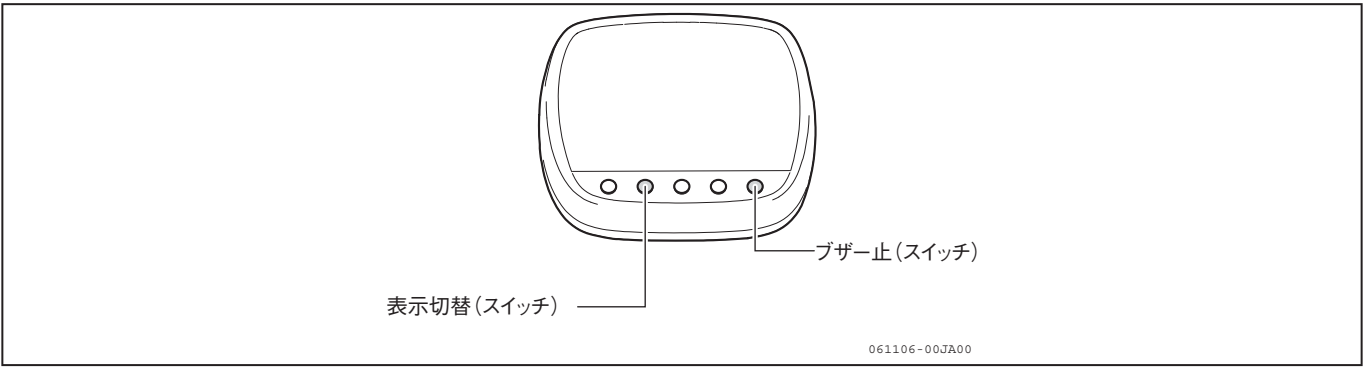


図 4-208 操作スイッチ

エンジン始動時に表示された画面

キースイッチを「始動」位置にしても、つぎの条件の場合はエンジンの始動ができません。
表示された注意画面に従って再度エンジンを始動させてください。

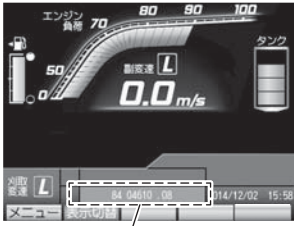
表 4-33 エンジン始動時に表示された画面

表示画面	警報の種類	処置	参照ページ
	—	セフティペダルを踏まずにキーを回した場合は、セフティペダルをしっかりと踏み込んでから再度キーを回してください。	95
	—	作業クラッチレバーが「べーラ」、または「刈取」位置になっている場合は、作業クラッチレバーを「OFF」位置にしてから、再度キーを回してください。	95

エラーの表示

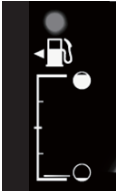
エラーが発生した場合は、画面下部に「エラーコード」が表示します。「表示切替」(スイッチ)を押すと画面表示が切り替わり、エラーコードの詳細画面が表示されます。「戻る」(スイッチ)を押すと元の画面表示に戻ります。

表 4-34 エラーの表示

表示画面	画面表示切り替え後 (「表示切替」(スイッチ) 押す)	警報の 種類	備考・処置	参照ページ
 エラー表示 064865-00JA03	 1 エラーコード 060793-00JA00	—	各コントローラに接続されている、スイッチ・センサ・ランプ・モータ・電磁弁などのチェックを行ってください。	—

その他の注意

表 4-35 その他の注意

表示画面	警報の種類	備考・処置	参照ページ
燃料残量表示 	○ 「ブザー止」	燃料の残量が少なくなったときに、「●」マークが点灯、⛽マークが点滅し、ブザーが断続で鳴ります。(燃料の残量はおよそ 15L です。)「ブザー止」(スイッチ)を押すとブザーが鳴り止みます。燃料を補給してください。満量近くになると、ブレーキランプが点滅し、ブザーが鳴り続けます。「ブザー止」(スイッチ)を押すと、ブザーは鳴り止みます。	164

○はブザーが鳴ります。
「ブザー止」は、「ブザー止」(スイッチ)を押すとブザーが鳴り止みます。

4.4.2 センターディスプレイの異常表示と処置のしかた

警告

- 移動走行中に、警報画面が表示された場合は、安全な場所に停止してから点検・処置を行ってください。

警報が発生した場合はセンターディスプレイ下部に警報表示され「表示切替」（スイッチ）を押すと警報詳細画面が表示されます。

異常が発生したときのスイッチ操作

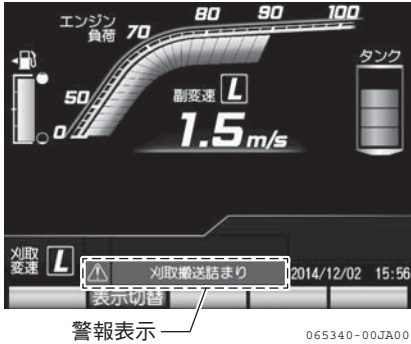


図 4-209 警報表示

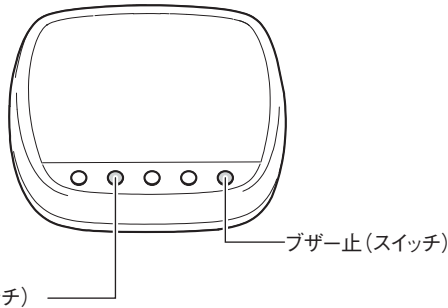


図 4-210 操作スイッチ

表 4-36 センターディスプレイの異常表示と処置のしかた

表示画面	点検または処置画面 （「表示切替」(スイッチ)を押す) 点検箇所	警報の 種類	備考・処置	参照 ページ
チャージ異常		○	エンジン回転中にバッテリーに充電されません。 「ブザー止」（スイッチ）ではブザーは停止できません。	192
	ジェネレータ駆動ベルトがゆるんだり、破損していませんか。		ベルトの張り調節、または交換してください。	211
	ジェネレータが故障していませんか。		ジェネレータが故障している場合は、特販店、または JA に修理を依頼してください。	—

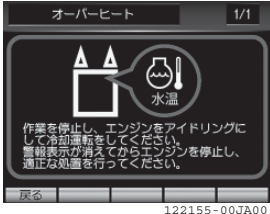
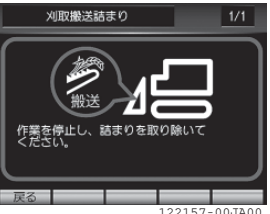
○はブザーが鳴ります。
「ブザー止」は、「ブザー止」（スイッチ）を押すとブザーが鳴り止みます。

4. お手入れのしかた

表示画面	点検または処置画面 （「表示切替」(スイッチ)を押す) 点検箇所	警報の 種類	備考・処置	参照 ページ
エンジン油圧異常  122616-00JA00	 122149-00JA00	○	エンジン潤滑油の油圧が低下しています。 「ブザー止」(スイッチ)ではブザーは停止できません。	166
	エンジンオイル量が少なくなっていますか。		オイルを規定量まで補給してください。	166
	エンジンオイルの粘度が低くありませんか。		適正粘度のオイルと交換してください。	159
	油圧スイッチ（プレッシャスイッチ）が故障していませんか。		油圧スイッチが故障の場合は、特販店、または JA に修理を依頼してください。	—
	オイルポンプが故障していませんか。		オイルポンプが故障の場合は、特販店、または JA に修理を依頼してください。	—
燃料温度異常  122617-00JA00	 122151-00JA00	○	燃料温度が上昇しています。 「ブザー止」(スイッチ)ではブザーは停止できません。	—
	燃料クーラのフィンが目詰まりしていませんか		掃除してください。	—
ウォーターセパレータ  122601-00JA01	 122153-00JA00	○	ウォーターセパレータに水がたまっています。 水を抜いてください。 「ブザー止」(スイッチ)ではブザーは停止できません。	176

○はブザーが鳴ります。

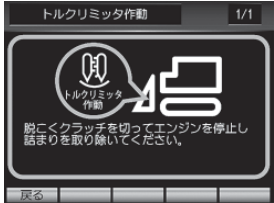
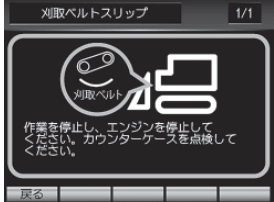
「ブザー止」は、「ブザー止」(スイッチ)を押すとブザーが鳴り止みます。

表示画面	点検または処置画面 （「表示切替」(スイッチ)を押す) 点検箇所	警報の 種類	備考・処置	参照 ページ
オーバーヒート 		○	エンジンのオーバーヒート（冷却水温が異常）です。すみやかに停止し、作業クラッチを「OFF」、エコモードスイッチを「切」（エコランプ消灯）にして、エンジン回転をローアイドルング（低回転）に下げ、冷却運転をしてください。「警報表示」が消えてからエンジンを停止し、エンジンが十分に冷えてから適正な処置を行ってください。「ブザー止」（スイッチ）ではブザーは停止できません。	172
	冷却水が不足していませんか。		冷却水を補給してください。	172
	水漏れしていませんか。		水漏れの場合は、特販店、または JA に修理を依頼してください。	—
	冷却ファンベルト（ジェネレータ駆動ベルト）がゆるんだり、折損していませんか。		ベルトの張り調節、または交換してください。	211
	吸気口・ロータリースクリーン・ラジエータ冷却ファンが目詰まりしていませんか。		掃除してください。	188
	作業中、ロータリースクリーンは作動（回転）していますか。		ロータリースクリーンが不具合の場合は、特販店、または JA に修理を依頼してください。	—
	エンジンオイル量が少なくなっていますか。		オイルを補給してください。	166
	過負荷運転をしていませんか		負荷を軽くしてください。（作物の状態に応じて、適切な作業速度を選んでください。）	124
刈取搬送詰まり 		○ (エンジン停止)	刈取部の搬送部に詰まりが発生しました。 「ベアラ」位置にしてもブザーは停止しますが、警報表示画面のままです。 処置画面に従って点検・処置をしてください。 ブザーは停止できません。 エンジンを再始動する場合は、作業クラッチレバーを「OFF」位置にして、キースwitchを「切」にしてから「始動」してください。	—

○はブザーが鳴ります。

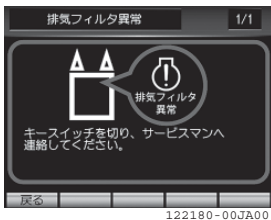
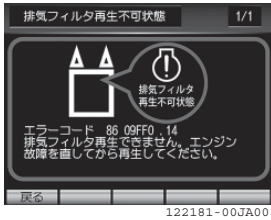
「ブザー止」は、「ブザー止」（スイッチ）を押すとブザーが鳴り止みます。

4. お手入れのしかた

表示画面	点検または処置画面 (「表示切替」(スイッチ)を押す) 点検箇所	警報の 種類	備考・処置	参照 ページ
トルクリミッタ作動  122744-00JA00	トルクリミッタ作動  122166-00JA00	○	刈取駆動のトルクリミッタが作動しました。 処置画面に従って点検・処置をしてください。 「ベアラ」位置にしてもブザーは停止しますが、警報表示画面のままです。 「ブザー止」(スイッチ)ではブザーは停止できません。	—
刈取ベルトスリップ  122745-00JA00	刈取ベルトスリップ  122167-00JA00	○	ミッションとカウンタケース間の刈取入力ベルトがスリップしています。 処置画面に従って点検・処置をしてください。 「ベアラ」位置にしてもブザーは停止しますが、警報表示画面のままです。 「ブザー止」(スイッチ)ではブザーは停止できません。	—
エンジン停止スイッチ	エンジン停止スイッチ  122176-00JA00	○ (エンジン停止)	エンジン緊急停止スイッチが押されました。一度キースイッチを「切」位置にして、安全を確認した後、エンジンを始動してください。	50

○はブザーが鳴ります。

「ブザー止」は、「ブザー止」(スイッチ)を押すとブザーが鳴り止みます。

表示画面	点検または処置画面 ('表示切替')(スイッチ)を押す) 点検箇所	警報の 種類	備考・処置	参照 ページ
FDS 異常		○ 「ブザー止」 (エンジン 停止)	FDS 関連センサ、駆動機器に関する故障です。特販店、または JA に修理を依頼してください。ただし、つぎの場合には FDS 異常の警報画面が表示されることがあります。 ・エンジン回転数をローアイドルにして急な坂道を走行した場合。(エンジン回転数を定格にして走行してください。) ・副変速レバーを「N」(中立)位置にして坂道を走行した場合。 ・走行中に副変速ギヤが抜け「N」(中立)に入った場合。 いずれの場合もキースイッチをいったん「切」位置にすると、エラーは解除されます。	—
排気フィルター異常 (リカバリ再生)		—	駐車再生が正常に終了しませんでした。作業を中止し、安全な場所に移動してエンジンを停止してください。ただちにお買い上げいただいた特販店、または JA へご連絡ください。	—
排気フィルター再生不可状態		—	エンジンの異常により排気フィルターの再生ができません。作業を中止し、安全な場所に移動してエンジンを停止してください。ただちにお買い上げいただいた特販店、または JA へご連絡ください。	—

○はブザーが鳴ります。

「ブザー止」は、「ブザー止」(スイッチ)を押すとブザーが鳴り止みます。

4. お手入れのしかた

◆ エラーコード一覧表

つぎの表のエラーが表示された場合は、特販店、または JA にご相談ください。

00：エンジン
28：メータ（センターディスプレイ）
84：刈取コントローラ
85：走行前コントローラ
86：脱こく前コントローラ
87：脱こく後コントローラ
88：走行後コントローラ
8B：収穫情報コントローラ

表 4-37 エラーコード一覧表

エラーコード (表示内容)	原因	異常時の動作
00 08004 **	エンジンコントローラへの CAN 通信系統の異常です。	セーフモードでエンジンが回転します。 (1800min ⁻¹)
00 08B00 **	エンジンコントローラの内部の異常です。	一部機能が限定されます。
28 03B00 **	燃料センサの異常です。	燃料計の表示ができません。
28 05A00 **	メータ内部温度センサの異常です。	画面の輝度が低下します。
28 08100 **	メータへの CAN 通信系統の異常です。	エンジン関係の情報が更新されません。
28 08102 **	メータへの CAN 通信系統の異常です。	作業、走行の表示切替ができないことがあります。
28 08103 **	メータへの CAN 通信系統の異常です。	車速表示が正常に出ません。
28 08106 **	メータへの CAN 通信系統の異常です。	車高等の表示が正常に出ません。
28 08610 **	メータへの CAN 通信系統の異常です。	センターディスプレイが正常に表示しません。
28 08B10 **	CAN 通信系統の異常です。	エラー判定条件が成立したデータのみ初期値を使用します。
28 08E80 **	FLASHROM 異常（メータ）です。	収穫情報の管理機能を失います。
28 08E90 **	時計 IC 異常（システム異常）です。	時計・カレンダー表示機能を失います。 収穫情報の作業日時管理機能を失います。
28 09000 **	ディスプレイの初期（構成）設定データが書き込まれていません。	出力停止
84 03140 **	主変速レバー位置センサ 2 の異常です。	走行コントローラ異常が同時発生していない場合のみ。 ・走行旋回停止 (同時発生時：走行旋回停止させないで、走行コントローラ異常でエンジン停止させます)
84 03160 **	ステアリング位置センサ 2 の異常です。	走行コントローラ異常が同時発生していない場合のみ。 ・走行旋回停止 (同時発生時：走行旋回停止させないで、走行コントローラ異常でエンジン停止させます)
84 03500 **	刈取ポジションセンサ系統の異常です。	オートリフト・オートセット・OK リフト動作しません。(刈取オートクラッチも動作しません) 手動動作可能です。
84 04400 **	刈取出力回転センサ系統の異常です。	トルクリミッタ作動警報を検出しません。

エラーコード (表示内容)	原因	異常時の動作
84 04610 **	刈取入力回転センサ系統の異常です。	トルクリミッタ作動警報および刈取ベルトスリップ警報の検出しません。 「刈取入力回転数」による作業クラッチの制御は、車速から算出した「代替刈取入力回転数」を使用します。ただし、車速センサエラーも同時に発生した場合は、刈取変速を〔高速〕の場合は〔標準〕にし、〔標準〕の場合はスイッチ操作しても〔高速〕にしません。 なお、副変速制御の仕様として、刈取入力軸回転センサエラー時は副変速〔標準〕⇒〔走行〕の切替を禁止します。
84 06225 **	刈取昇降スイッチ系統の異常です。 スイッチが同時に ON になっています。	手動のみ操作できます。
84 06840 **	脱刈スイッチ系統の異常です。 スイッチが異常状態になっています。	作業クラッチ動作が停止します。
84 06F00 **	ステアリング右スイッチ系統の異常です。スイッチが ON 状態になったまま、あるいはスイッチが背反状態になっています。	該当部位の手動操作および自動動作が停止します。
84 06F10 **	こぎ深さスイッチ系統の異常です。 スイッチが ON 状態になったまま、あるいはスイッチが背反状態になっています。	手動・自動・収納制御を禁止します。
84 06FF0 **	キースイッチ系統の異常です。作業機 ECU 側で認識しているキースイッチ状態とエンジン ECU 側で認識しているキースイッチ状態が一致していません。	エラー発報のみ。
84 07710 **	ベークラッチモータまたはベークラッチ切りミットスイッチ系統の異常です。	動作制限は行いません。
84 08243 **	刈取コントローラへの CAN 通信系統の異常です。	刈取、こぎ深さの機能を一部失います。
84 08246 **	刈取コントローラへの CAN 通信系統の異常です。	刈取、こぎ深さの機能を一部失います。
84 08310 **	無線リモコンからの CAN 通信系統の異常です。	無線リモコンが使用できません。
84 08400 **	ドライバ（刈取昇降 からの CAN 通信系統の異常です。	刈取昇降機能を失います。
84 08740 **	CAN 通信系統の異常です。	各制御の機能が一部限定されます。
84 08B60 **	CAN 通信系統の異常です。	各機能が手動などに限定されます。
84 08D40 **	刈取コントローラの異常です。	出力停止
84 08E40 **	刈取コントローラの異常です。	出力停止
84 08F00 **	走行前コントローラ送信データ受信異常です。	走行旋回停止
84 09050 **	刈取コントローラの初期（構成）設定データが書き込まれていません。	出力停止

4. お手入れのしかた

エラーコード (表示内容)	原因	異常時の動作
85 02800 **	最高速度設定ダイヤル系統の異常です。	最高速度設定値は、前回正常時 0.5 秒前の設定値を維持します。
85 03130 **	主変速レバー位置センサ 1 の異常です。	走行旋回停止
85 03150 **	ステアリング位置センサ 1 の異常です。	走行旋回停止
85 03310 **	副主変速レバー位置センサ系統の異常です。	オートクラッチ（刈取・FC）が作動しません。（停止しません）
85 04500 **	直進車速センサの異常です。	走行旋回停止
85 04510 **	旋回車速センサの異常です。	走行旋回停止
85 06210	ステアリング右スイッチ系統の異常です。スイッチが ON 状態になったまま、あるいはスイッチが背反状態になっています。	該当部位の手動操作および自動動作が停止します。
85 069A0 **	コントローラ電源電圧の異常です。	走行旋回停止
85 06E30 **	旋回モード切替スイッチの異常です。	旋回モードを「標準」にします。
85 06FF1 **	電源保持リレー系統の異常です。	メータに FDS 異常が表示され走行旋回できません。
85 07F00 **	前進比例弁の異常です。	走行旋回停止
85 07F01 **	後進比例弁の異常です。	走行旋回停止
85 07F02 **	右旋回比例弁の異常です。	走行旋回停止
85 07F03 **	左旋回比例弁の異常です。	走行旋回停止
85 07F11 **	直進 HST の異常です。	エンジン停止
85 07F12 **	旋回 HST の異常です。	エンジン停止
85 08252 **	走行前コントローラへの CAN 通信系統の異常です。	走行機能が限定されます。
85 08256 **	走行前コントローラへの CAN 通信系統の異常です。	走行機能が限定されます。
85 08320 **	ドライバ（コラム中からの CAN 通信系統の異常です。	刈取、こぎ深さの機能を失います。
85 08500 **	ドライバ（走行からの CAN 通信系統の異常です。	走行機能を失います。
85 08750 **	CAN 通信系統の異常です。	各制御の機能が一部限定されます。
85 08B70 **	CAN 通信系統の異常です。	各機能が手動などに限定されます。
85 08D50 **	走行前コントローラの異常です。	出力停止
85 08E50 **	走行前コントローラの異常です。	出力停止
85 08F10 **	FDS ソフトウェア異常です。	エンジン停止
85 09060 **	走行前コントローラの初期（構成）設定データが書き込まれていません。	出力停止
85 09200 **	FDS 制御データの通信異常です。 ドライバ（走行からの不定値受信または CAN 受信異常です。	走行できません。
85 09201 **	FDS 制御データの通信異常です。 ドライバ（コラム中からの不定値受信または CAN 受信異常です。	走行できません。
85 09202 **	FDS 制御データの通信異常です。 コントローラ（刈取からの不定値受信または CAN 受信異常です。	走行できません。

エラーコード (表示内容)	原因	異常時の動作
86 02200 **	アクセルダイヤル系統の異常です。	起動時にエラーの場合は、エンジン定格回転数相当、判定中およびエラー確定後は最終の正常値をAD変換値とします。
86 08760 **	CAN 通信系統の異常です。	各制御の機能が一部限定されます。
86 08B80 **	CAN 通信系統の異常です。	各機能が手動などに限定されます。
86 09FF0 **	エンジンコントローラが異常を検出しています。	排気フィルター再生できない、そのまま作業するとエンジン回転が上がらなくなります。
87 08330 **	ドライバ（コラム前からのCAN通信系統の異常です。	走行の機能を失います。
87 08410 **	ドライバ（ピッチング制御からのCAN通信系統の異常です。	ピッチング機能を失います。
87 08770 **	CAN 通信系統の異常です。	各制御の機能が一部限定されます。
87 08910 **	CAN 通信系統の異常です。	ピッチング機能を失います。
87 08B90 **	CAN 通信系統の異常です。	各機能が手動などに限定されます。
88 02200	アクセルダイヤル系統の異常です。	起動時にエラーの場合はエンジン定格回転数相当で固定。起動後にエラーの場合は最終の正常状態のエンジン回転数で固定されます。
88 02300 **	傾斜角調節ダイヤル系統の異常です。	ダイヤル中央値にて継続運転します。
88 03200	チャンバ開閉連動機能の異常です。	チャンバ開閉に連動してクラッチの入／切を行う機能が働きません。
88 03900 **	傾斜センサ系統の異常です。	UFO 自動停止で継続運転します。
88 03D00 **	車高センサ（左 系統の異常です。	UFO 自動停止で継続運転します。
88 03E00 **	車高センサ（右 系統の異常です。	UFO 自動停止で継続運転します。
88 06210 **	ステアリング右スイッチ（左右）の異常です。スイッチがON状態になったまま、あるいは左右両方のスイッチがONになっています。	フィットステアリングが作動しません。
88 06710 **	車高調節スイッチ系統の異常です。	手動中立として動作継続します。
88 06F00 **	ステアリング右スイッチ（上下）の異常です。スイッチがON状態になったまま、あるいは上下両方のスイッチがONになっています。	刈取フィット昇降が作動しません。
88 08200	走行後コントローラへのCAN通信系統の異常です。	エンジンの制御機能が限定されます
88 08201	走行後コントローラへのCAN通信系統の異常です。	センターディスプレイ表示が動きません。
88 08202 **	走行後コントローラへのCAN通信系統の異常です。	車体水平、前後・左右が動きません。
88 08203 **	走行後コントローラへのCAN通信系統の異常です。	車体水平、前後・左右が動きません。
88 08281	CAN 通信系統の異常です。	エンジンの制御機能が限定されます。
88 08330	CAN 通信系統の異常です。	走行の機能を失います。
88 08420	CAN 通信系統の異常です。	チャンバ開閉機能および一部ランプ・ブザーの機能を失います。
88 08700 **	CAN 通信系統の異常です。	各制御の機能が一部限定されます。

4. お手入れのしかた

エラーコード (表示内容)	原因	異常時の動作
88 08B20 * *	CAN 通信システムの異常です。	各機能が手動などに限定されます。
88 08D00 * *	走行後コントローラの異常です。	出力停止
88 08E00 * *	走行後コントローラの異常です。	出力停止
88 09010 * *	走行後コントローラの初期（構成）設定データが書き込まれていません。	出力停止

表 4-38 エンジンエラーコード一覧表

エラーコード (表示内容)	部位	エラー内容
00 0001C 00	アクセルセンサ 3	センサ異常 (フットペダル開位置)
00 0001C 01	アクセルセンサ 3	センサ異常 (フットペダル閉位置)
00 0001D 03	アクセルセンサ 3	アクセルセンサ 3 異常 (電圧高)
00 0001D 04	アクセルセンサ 3	アクセルセンサ 3 異常 (電圧低)
00 0001D 08	パルスアクセル	センサ異常 (パルス通信)
00 00033 03	吸気スロットル開度センサ	吸気スロットル開度センサ (電圧高)
00 00033 04	吸気スロットル開度センサ	吸気スロットル開度センサ (電圧低)
00 0005B 03	アクセルセンサ 1	アクセルセンサ 1 異常 (電圧高)
00 0005B 04	アクセルセンサ 1	アクセルセンサ 1 異常 (電圧低)
00 00064 01	油圧スイッチ	油圧低下警報
00 00064 04	油圧スイッチ	油圧スイッチ断線
00 00066 03	EGR 低圧側センサ	EGR 低圧側センサ異常 (電圧高)
00 00066 04	EGR 低圧側センサ	EGR 低圧側センサ異常 (電圧低)
00 00066 13	EGR 低圧側センサ	学習値異常
00 00069 03	吸マニ温度センサ	吸マニ温度センサ異常 (電圧高)
00 00069 04	吸マニ温度センサ	吸マニ温度センサ異常 (電圧低)
00 0006C 03	大気圧センサ	大気圧センサ異常 (電圧高)
00 0006C 04	大気圧センサ	大気圧センサ異常 (電圧低)
00 0006C 10	大気圧センサ	大気圧センサ異常 (特性異常)
00 0006E 00	冷却水温センサ	冷却水温上昇 (オーバーヒート)
00 0006E 03	冷却水温センサ	冷却水温センサ異常 (電圧高)
00 0006E 04	冷却水温センサ	冷却水温センサ異常 (電圧低)
00 0009D 00	レール圧異常	レール圧異常高圧
00 0009D 03	レール圧センサ	レール圧センサ異常 (電圧高)
00 0009D 04	レール圧センサ	レール圧センサ異常 (電圧低)
00 0009D 15	レール圧異常	レール圧偏差異常 (レール圧過大)
00 0009D 16	レール圧異常	PLV 開弁
00 0009D 18	レール圧異常	レール圧偏差異常 (レール圧減少)
00 000A7 01	チャージスイッチ	チャージ警報
00 000A7 05	チャージスイッチ	チャージスイッチ断線
00 000AC 03	新気温度センサ	新気温度センサ異常 (電圧高)
00 000AC 04	新気温度センサ	新気温度センサ異常 (電圧低)
00 000AD 03	排マニ温度センサ	排マニ温度センサ異常 (電圧高)
00 000AD 04	排マニ温度センサ	排マニ温度センサ異常 (電圧低)
00 000AE 00	燃料温度センサ	燃料温度上昇
00 000AE 03	燃料温度センサ	燃料温度センサ異常 (電圧高)
00 000AE 04	燃料温度センサ	燃料温度センサ異常 (電圧低)
00 000BE 00	過回転	回転数超過
00 000ED 13	VI (CAN メッセージ)	VI の受信データ異常
00 000ED 31	VI (CAN メッセージ)	VI の受信タイムアウト
00 0019C 03	EGR ガス温度センサ	EGR ガス温度センサ異常 (電圧高)
00 0019C 04	EGR ガス温度センサ	EGR ガス温度センサ異常 (電圧低)

4. お手入れのしかた

エラーコード (表示内容)	部位	エラー内容
00 00276 02	EEPROM	EEPROM 異常
00 00276 12	EEPROM	EEPROM メモリ消去エラー
00 00279 03	SCV (MPROP)	SCV (MPROP) H/L サイド VB 短絡
00 00279 05	SCV (MPROP)	SCV (MPROP) H サイド GND 短絡 / 断線
00 00279 06	高圧ポンプ駆動回路	ハイサイド GND ショート
00 00279 07	SCV (MPROP)	駆動回路異常 (SCV 固着)
00 0028B 03	4TNV : CYLNO.4	短絡
00 0028B 05	インジェクタ 1 4TNV : Cyl No. 4	インジェクタ 1 断線異常 (インジェクタ固有箇所)
00 0028B 06	4TNV : CYLNO.4	コイルショート
00 0028C 03	4TNV : CYLNO.3	短絡
00 0028C 05	インジェクタ 4 4TNV : Cyl No. 3	インジェクタ 4 断線異常 (インジェクタ固有箇所)
00 0028C 06	4TNV : CYLNO.3	コイルショート
00 0028D 03	4TNV : CYLNO.2	短絡
00 0028D 05	インジェクタ 2 4TNV : Cyl No. 2	インジェクタ 2 断線異常 (インジェクタ固有箇所)
00 0028D 06	4TNV : CYLNO.2	コイルショート
00 0028E 03	4TNV : CYLNO.1	短絡
00 0028E 05	インジェクタ 3 4TNV : Cyl No. 1	インジェクタ 3 断線異常 (インジェクタ固有箇所)
00 0028E 06	4TNV : CYLNO.1	コイルショート
00 004B9 03	EGR 高圧側センサ EGR	高圧側センサ異常 (電圧高)
00 004B9 04	EGR 高圧側センサ EGR	高圧側センサ異常 (電圧低)
00 004B9 13	EGR 高圧側センサ	学習値異常
00 00543 00	高圧ポンプ	ポンプ保護フェール
00 00543 15	高圧ポンプ	ポンプ保護フェール
00 005CD 02	メインリレー	自己保持なしで電源オフ
00 005CD 07	メインリレー	メインリレー固着
00 00AE7 00	EGR	EGR 過電圧異常
00 00AE7 01	EGR	EGR 低電圧異常
00 00AE7 07	EGR	EGR フィードバック異常
00 00AE7 09	EGR	EGR ECM データ異常
00 00AE7 12	EGR	モータコイル間断線
00 00AED 03	インジェクタ共通	インジェクタバンク 1 + B ショート
00 00AED 05	インジェクタ共通	インジェクタバンク 1 断線異常
00 00AED 06	インジェクタ共通	インジェクタバンク 1 GND ショート
00 00AEE 03	インジェクタ共通	インジェクタバンク 2 + B ショート
00 00AEE 05	インジェクタ共通	インジェクタバンク 2 断線異常
00 00AEE 06	インジェクタ共通	インジェクタバンク 2 GND ショート
00 00B86 03	吸気スロットル駆動回路	スロットルバルブ駆動 H ブリッジ出力 1 の VB ショート
00 00B86 04	吸気スロットル駆動回路	スロットルバルブ駆動 H ブリッジ出力 1 の GND ショート

エラーコード (表示内容)	部位	エラー内容
00 00B86 05	吸気スロットル駆動回路	吸気スロットル駆動回路断線
00 00B86 06	吸気スロットル駆動回路	スロットルバルブ駆動 H ブリッジ回路の過負荷
00 00B87 03	吸気スロットル駆動回路	スロットルバルブ駆動 H ブリッジ出力 2 の VB ショート
00 00B87 04	吸気スロットル駆動回路	スロットルバルブ駆動 H ブリッジ出力 2 の GND ショート
00 00B9B 12	EGR	EGR モータコイル間断線
00 00CAA 00	DPF 入口温度センサ	温度異常 (高)
00 00CAA 03	DPF 入口温度センサ	DPF 入口温度センサ異常 (電圧高)
00 00CAA 04	DPF 入口温度センサ	DPF 入口温度センサ異常 (電圧低)
00 00CB2 00	DPF 中間温度センサ	DPF 中間温度センサ温度異常上昇 (ポスト噴射不良)
00 00CB2 01	DPF 中間温度センサ	DPF 中間温度センサ温度異常低温
00 00CB2 03	DPF 中間温度センサ	DPF 中間温度センサ異常 (電圧高)
00 00CB2 04	DPF 中間温度センサ	DPF 中間温度センサ異常 (電圧低)
00 00CB3 00	DPF 差圧センサ	DPF 差圧センサ差圧異常上昇
00 00CB3 03	DPF 差圧センサ	DPF 差圧センサ (電圧高)
00 00CB3 04	DPF 差圧センサ	DPF 差圧センサ (電圧低)
00 00CB3 13	DPF 差圧センサ	学習値異常
00 00E19 03	DPF 高圧側センサ	DPF 高圧側センサ (電圧高)
00 00E19 04	DPF 高圧側センサ	DPF 高圧側センサ (電圧低)
00 00E6F 14	DPF OP インターフェース	リセット再生禁止
00 00E87 00	DPF OP インターフェース	バックアップモード
00 00E87 07	DPF OP インターフェース	リカバリ再生失敗
00 00E87 09	DPF OP インターフェース	リカバリ再生禁止
00 00E87 16	DPF OP インターフェース	ステーションナリ再生スタンバイ
00 00E88 00	DPF OP インターフェース	Ash クリーニング要求 2
00 00E88 16	DPF OP インターフェース	Ash クリーニング要求 1
00 010A1 12	インジェクタ駆動回路	駆動 IC エラー
00 7F803 05	始動補助リレー	始動補助リレー断線・VB 短絡
00 7F803 06	始動補助リレー	始動補助リレー GND 短絡
00 7F853 00	エアクリーナースイッチ	エアクリーナー詰まり警報
00 7F859 00	油水分離器スイッチ	油水分離警報
00 7F8A0 02	クランク速度センサ	クランク信号異常です。
00 7F8A0 05	クランク速度センサ	クランク信号なし
00 7F8A1 02	カム速度センサ	カム信号異常
00 7F8A1 05	カム速度センサ	カム信号なし
00 7F94B 03	高圧ポンプ駆動回路	ローサイド VB ショート
00 7F94B 06	高圧ポンプ駆動回路	ローサイド GND ショート
00 7F94C 06	高圧ポンプ駆動回路	駆動電流 (ハイレベル異常)
00 7F94C 11	高圧ポンプ駆動回路	ポンプ過負荷エラー
00 7F94D 00	DPF	過堆積 (C 法)
00 7F94E 00	DPF	過堆積 (P 法)

4. お手入れのしかた

エラーコード (表示内容)	部位	エラー内容
00 7F94F 07	DPF	再生不良 (ステーションナリ再生失敗)
00 7F950 12	EEPROM	EEPROM メモリ読み出しエラー
00 7F951 11	DPF	再生不良 (ステーションナリ再生未実施)
00 7F952 12	EEPROM	EEPROM メモリ書き込みエラー
00 7F953 12	EGR	EGR モータコイル間ショート
00 7F954 12	EGR	EGR ポジションセンサ異常
00 7F955 07	EGR	EGR 開弁固着異常
00 7F956 07	EGR	EGR イニシャライズ異常
00 7F957 01	EGR	EGR 高温サーミスタ異常
00 7F958 01	EGR	EGR 低温サーミスタ異常
00 7F959 12	ECU 内部異常	CY146 SPI 通信エラー
00 7F95C 12	ECU 内部異常	サプライ 1 電圧過大エラー
00 7F95D 12	ECU 内部異常	サプライ 1 電圧過大エラー
00 7F95E 12	ECU 内部異常	センササプライ電圧エラー 1
00 7F95F 12	ECU 内部異常	センササプライ電圧エラー 2
00 7F960 12	ECU 内部異常	センササプライ電圧エラー 3
00 7F964 09	TSC1 (CAN メッセージ)	TSC1 の受信タイムアウト (SA1)
00 7F965 09	TSC1 (CAN メッセージ)	TSC1 の受信タイムアウト (SA2)
00 7F967 09	Y_ECR1 (CAN メッセージ)	Y_ECR1 の受信タイムアウトエラー
00 7F968 09	Y_EC (CAN メッセージ)	Y_EC の受信タイムアウト
00 7F969 09	Y_RSS (CAN メッセージ)	Y_RSS の受信タイムアウトエラー
00 7F971 09	Y_ETCP1 (CAN メッセージ)	Y_ETCP1 の受信タイムアウト
00 7F972 09	EGR	EGR バルブからの CAN 受信タイムアウト
00 7F973 09	排気スロットル	排気スロットルからの CAN 受信タイムアウト
00 7F979 12	EGR	EGR 目標値レンジ外れ
00 7F97A 09	EBC1 (CAN メッセージ)	EBC1 の受信タイムアウト
00 7F97B 09	Y_DPFIF (CAN メッセージ)	Y_DPFIF の受信タイムアウト
00 7F9F8 04	ECU 内部異常	アクチュエータ駆動回路 1GND ショート
00 7F9FA 12	排気スロットル	電圧異常
00 7F9FB 12	排気スロットル	モーター異常
00 7F9FC 12	排気スロットル	センサ系異常
00 7F9FD 12	排気スロットル	MPU 異常
00 7F9FE 12	排気スロットル	PCB 異常
00 7F9FF 19	排気スロットル	CAN 異常
00 7FA33 13	高圧ポンプ	ポンプ学習未実施警報
00 7FAF1 12	コントローラ内部異常	CPU 監視用 IC 異常
00 7FAF2 04	ECU 内部異常	アクチュエータ駆動回路 2GND ショート
00 7FAF2 12	コントローラ内部異常	CPU 異常
00 7FAF3 12	QR データ	QR データ補正入力異常
00 7FAF4 04	インジェクタ駆動回路	ローチャージ異常
00 7FAF5 03	インジェクタ駆動回路	オーバーチャージ異常
00 7FAF6 12	コントローラ内部異常	Flash ROM 異常 (チェックサム)
00 7FB42 00	コントローラ内部異常	センサ 5V 回路 1 異常 (電圧高)

エラーコード (表示内容)	部位	エラー内容
00 7FB42 01	コントローラ内部異常	センサ 5V 回路 1 異常 (電圧低)
00 7FB43 00	コントローラ内部異常	センサ 5V 回路 2 異常 (電圧高)
00 7FB43 01	コントローラ内部異常	センサ 5V 回路 2 異常 (電圧低)
00 7FBD5 12	QR データ	QR データ未書き込み
00 7FBD5 13	QR データ	QR データ異常
00 7FBF1 05	クランク・カム速度センサ	クランク・カム両センサ同時未入力
00 7FCC4 07	レール圧異常	RPS リンプホーム中の運転時間エラー
00 7FCC6 13	QR データ	CYLN01 用 IQA 補正噴射量エラー
00 7FCC7 13	QR データ	CYLN02 用 IQA 補正噴射量エラー
00 7FCC8 13	QR データ	CYLN03 用 IQA 補正噴射量エラー
00 7FCC9 13	QR データ	CYLN04 用 IQA 補正噴射量エラー
00 7FCCC 09	レール圧異常	PLV 開弁後の制御レール圧エラー
00 7FCCD 00	レール圧異常	PLV 開弁回数エラー
00 7FCCE 00	レール圧異常	PLV 開弁時間エラー
00 7FCCF 06	ECU 内部異常	アクチュエータ駆動回路 3GND ショート
00 7FCD1 12	ECU 内部異常	AD コンバータ異常 1
00 7FCD2 12	ECU 内部異常	AD コンバータ異常 2
00 7FCD3 12	ECU 内部異常	外部監視 IC と CPU 異常 1
00 7FCD4 12	ECU 内部異常	外部監視 IC と CPU 異常 2
00 7FCD5 12	ECU 内部異常	ROM 異常
00 7FCD6 12	ECU 内部異常	シャットオフパス異常 1
00 7FCD7 12	ECU 内部異常	シャットオフパス異常 2
00 7FCD8 12	ECU 内部異常	シャットオフパス異常 3
00 7FCD9 12	ECU 内部異常	シャットオフパス異常 4
00 7FCDA 12	ECU 内部異常	シャットオフパス異常 5
00 7FCDB 12	ECU 内部異常	シャットオフパス異常 6
00 7FCDC 12	ECU 内部異常	シャットオフパス異常 7
00 7FCDD 12	ECU 内部異常	シャットオフパス異常 8
00 7FCDE 12	ECU 内部異常	シャットオフパス異常 9
00 7FCDF 12	ECU 内部異常	シャットオフパス異常 10
00 7FCE0 00	ECU 内部異常	エンジン回転数認識異常
00 7FCE1 00	レール圧異常	PRV リンプホーム中の実レール圧過大エラー
00 7FCE3 00	レール圧異常	PLV4 リンプホーム中のインジェクタ B/F 温度エラー

4.4.3 センターディスプレイに表示されない不調について

表 4-39 センターディスプレイに表示されない不調について

状況	点検箇所	処置	参照ページ
キースイッチを回してもスタータが回らない。	バッテリー液は規定量入っていますか、また放電してはいませんか。	バッテリー液を規定量補給し、満充電にしてください。	192
	バッテリー端子部のゆるみ外れ、腐食はありませんか。	端子部を清掃し、確実に締め付けてください。 ※ バッテリー端子を外す場合はまずキースイッチを必ず「切」にして、マイナス端子を外し、その後にプラス端子を外してください。締め付ける場合はプラス端子を締め付け、つぎにマイナス端子を締め付けてください。	192
	ヒューズが切れていませんか。 ● ジェネレータ（充電回路）スローブローヒューズ 100A（ステップ前カバー内） ● 電源 -3 スローブローヒューズ 40A（ステップ前カバー内） ● キースイッチヒューズ 10A（ステップ下） ● エンジン ECU 20A（ステップ下）	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	197
スタータは回るがエンジンが始動しない。	燃料タンクに燃料が入っていますか。	燃料を満タンまでに給油し、エア抜きをしてください。	164
	ウォーターセパレータのコックが「OFF」（閉）位置になっていませんか。	ウォーターセパレータのコックを「ON」（開）位置にしてください。	95
	燃料に水が入っていませんか。	ウォーターセパレータに水がたまっていれば、水を抜いてください。	176
	ヒューズが切れていませんか。 ● エンジン ECU 20A（ステップ下）	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	197
刈取が昇降できない。	カウンターケースオイルが規定量入っていますか。	カウンターケースオイルを規定量補給してください。	170
	ヒューズが切れていませんか。 ● 油圧電磁弁ヒューズ 15A（ステップ下）	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	197
車高調節・傾斜調節できない。	カウンターケースオイルが規定量入っていますか。	カウンターケースオイルを規定量補給してください。	170
	ヒューズが切れていませんか。 ● コントローラ（走行後 ヒューズ 15A（ステップ下） ● 油圧電磁弁ヒューズ 15A（ステップ下）	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	197

状況	点検箇所	処置	参照ページ
ベークラッチが入らない。	ヒューズが切れていませんか。 ● ベークラッチモータヒューズ 20A (ステップ下) ● 刈取昇降ヒューズ 5A (ステップ下) ● ドライバ (中 ヒューズ 5A (ステップ下))	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	197
刈取クラッチが入らない。	ヒューズが切れていませんか。 ● コントローラ (刈取 ヒューズ 30A (ステップ下))	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	197
フィードチェンが回らない。	ヒューズが切れていませんか。 ● 電源-1 スローブローヒューズ 60A (ステップ前カバー内) ● ドライバ (中 ヒューズ 5A (ステップ下))	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	197
フィットステアリングがはたらかない。	ヒューズが切れていませんか。 ● ドライバ (走行 5A (ステップ下))	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	197
刈取オートセット・オートリフト装置が作動しない。	わらくず、泥がたまっていますか。 ● 刈取位置センサ	わらくず、泥を取り除いてください。	—
その他のエラー表示		上記以外のエラーが表示された場合は修理を依頼してください。	—

4.4.4 不調診断（ロールベアラ部電装関係）

表 4-40 不調診断

不調内容	診断	処置	参照ページ
コントロールボックスの電源が入らない。	ヒューズが切れている。	• ネット装置部のカムが回りづらくなっていないか確認してください。 • 配線がショートしていないか確認してください。 • ヒューズを交換してください。	198 199
満了感知しない。	満了感知の設定値が高すぎる。	• 満了感知の設定値を下げてください。	70
	感知のポテンショメータの初期位置合わせがされていない。	• 感知のポテンショメータの初期位置合わせをしてください。	
パトライトが回転するが点灯しない。	電球が切れている。	• 電球を交換してください。	201
カムの初期位置エラーが表示される。	コントロールボックスのコネクタが外れている。	• コネクタがロックする位置まで挿し込んでください。 • 挿し込みにくい場合は接合部のゴムにオイルを塗布してください。	—
	カムセンサが反応していない。	• ネットカムセンサ1、ネットカムセンサ2に金属を近づけて、LED が赤く光るか確認してください。 • 光る場合はセンサとボルトとの距離を近づけてください。 • 光らない場合は断線が考えられるので配線を確認してください。	220
チャンバが開いているとエラーが表示される。	チャンバロックがかかっていない。	• チャンバを開けて、チャンバの接合部を掃除してください。	162
	コントロールボックスのコネクタが外れている。	• コネクタがロックする位置まで挿し込んでください。 • 挿し込みにくい場合は接合部のゴムにオイルを塗布してください。	—
	チャンバ閉センサが壊れている。	• ギボシを抜いて直結し、入力チェックモードでチャンバヘイスイッチがONになることを確認してください。 • チャンバ閉センサを交換してください。	72 219
ネットが頻繁に巻き付く。	ゴムローラに材料が付着しているまたは静電気を帯びている。	• ゴムローラ全体の付着した材料を取った後、濡れタオルでゴムローラを拭き、乾いたタオルで水分を取ってください。	
	ゴムローラ下のスクレーパに材料が付着している。	• スクレーパの上を乾いたタオルで掃除してください。	67
	ゴムローラへのネットの巻き付きを取る際にカッタナイフでゴムローラを傷つけてしまった。	• ゴムローラを交換するまたは引っぱりそうな部分を削ってください。	
作業クラッチを入れるとエンジンが止まる。	緊急停止スイッチが利いている。	• 緊急停止スイッチを解除してください。	50
	カッタツマリセンサにわらが詰まり、押されている。	• カッタツマリセンサを掃除してください。	220

4.4.5 油圧が作動しない場合

表 4-41 油圧が作動しない場合

この確認をしてください	処 置
油圧バルブを操作する各操作レバーと、電磁弁のカブラの接続を確認してください。	各カブラを確実に差し込んでください。
	作動しない場合の応急処置 油圧バルブをつぎの要領で手動操作してください。 印部は各電磁弁のつまみです。 強く押したり、引いたり操作してください。 ●刈取部を上げるとき、①と②を引いてください。 ●刈取部を下げるとき、①を引いて②を押してください。 ●UFO左を上げるとき、①を押して③を引いてください。 ●UFO左を下げるとき、①と③を押してください。 ●UFO右を上げるとき、①を押して④を引いてください。 ●UFO右を下げるとき、①と④を押してください。 ●チャンバを上げるとき、①を押して⑤を引いてください。 ●チャンバを下げるとき、①と⑤を押してください。

5. 保管のしかた

5.1 短期保管するときは（2カ月以内）

《 重要 》

- 各部にこく粒やわらくずが残っていると、ネズミの巣になったり、配線部をかじられて、つぎの年の作業に差し支えますので、きれいに掃除してください。
- 無線リモコンのアンテナを外して保管する場合は、アンテナ基部に雨などが入らない場所で保管するか、シートをかけてください。

《 参考 》

床が汚れないように、コンバインの下に板を敷いてください。

5.1.1 保管のしかた

コンバインを保管する場合は、つぎの要領で整備し、保管してください。

〈用意するもの〉

- 防錆油
- グリス
- バッテリー充電器

1. コンバインを水洗いし、水洗い後は水分をよくふき取ります。

《 重要 》

さびの発生を防ぐため、電装品やコネクタなどに水が入り込まないように注意してください。

2. 「運転前の点検」（77 ページ）に従って点検を行い、不具合箇所は整備します。
3. 外部のさびやすい部分に、防錆油または、エンジンオイル・グリスを塗ります。
4. 「グリスアップの箇所」（155 ページ）に従ってグリスアップします。
5. サイドデバイダを収納します。
6. 直射日光や雨水の当たらない、風通しのよい平たんな屋内に置きます。

《 重要 》

やむをえず屋根のない場所に保管する場合は、カバーなどをかけてください。

7. 分草板に分草板カバーを取り付けて刈取部をいっぱいまで下げます。
8. 各操作レバー・スイッチを「切」位置、または「N」位置にします。
9. バッテリーの（－）側ケーブルを外します。

《 重要 》

バッテリーは、使わなくても自然放電します。
1 カ月に 1 度は充電器で完全充電してください。
(194 ページ)

10. 必ずキーを抜き取って保管します。

5.2 長期保管するときは（2カ月以上）

！ 警告

- 長期保管するときは、バッテリーを外し、キーを抜き取ってから保管してください。

※ 電気配線被覆の劣化による漏電で火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

《 重要 》

- 各部にこく粒（もみ）やわらくずが残っていると、ネズミの巣になったり、配線部をかじられて、つぎの年の作業に差し支えますので、きれいに掃除してください。
- 無線リモコンのアンテナを外して保管する場合は、アンテナ基部に雨などが入らない場所で保管するか、シートをかけてください。

《 参考 》

床が汚れないように、コンバインの下に板を敷いてください。

5.2.1 保管のしかた

コンバインを長期間使用しない場合は、つぎの要領で整備し、格納してください。

〈用意するもの〉

- 防錆油
- グリス
- バッテリー充電器
- ポリエチレンなどの袋

1. コンバインを水洗いし、水洗い後は水分をよくふき取ります。

《 重要 》

さびの発生を防ぐため、電装品やコネクタなどに水が入り込まないように注意してください。

2. 「運転前の点検」（77 ページ）に従って点検を行い、不具合箇所は整備します。

《 重要 》

メンテナンス時期を確認し、必要に応じてメンテナンスをしてください。（157 ページ）

3. 外部のさびやすい部分に、防錆油または、エンジンオイル・グリスを塗ります。
4. 「グリスアップの箇所」（155 ページ）に従って、グリスアップします。
5. サイドデバイダを収納します。
6. 直射日光や雨水の当たらない、風通しのよい平たんな屋内に置きます。

《 重要 》

やむをえず屋根のない場所に保管する場合は、カバーなどをかけてください。

7. 分草板に分草板カバーを取り付けて刈取部をいっぱいまで下げます。
8. さびを防ぐため、燃料タンクの燃料を満タンにします。
9. ウォーターセパレータは OFF（閉の状態）にします。

《 重要 》

整備等でエンジンを運転する場合は、規定量の冷却水を給水して行ってください。エンジンが破損します。

《 参考 》

- ヤンマー不凍液を入れた冷却水でも、
- 10℃以下になると凍ることがあります。
(159 ページ)
- 冷却水は抜かずに保管してください。

10. 各操作レバー・スイッチを「OFF」、「切」位置、または「N」位置にします。

11. バッテリーを完全充電し、コンバインから外し、風通しのよい冷暗所に保管します。

警告

- バッテリーを、外すときは（－）側のケーブルから外し、取り付けるときは（＋）側のケーブルを（＋）側の端子に取り付けてください。

※ ショートによるヤケドや火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

《 重要 》

バッテリーは、使わなくても自然放電します。
1 カ月に1度は充電器で完全充電してください。
(194 ページ)

12. エアクリーナー・排出ガス出口・エンジンオイル給油口などから湿気が入らないよう、ポリエチレンなどの袋で密閉します。

13. 必ずキーを抜き取って保管します。

《 参考 》

長期間使用されない間に、保守整備契約制度による、点検整備をお受けになりますと、次期使用時に最良の状態でご使用いただけます。

運転を再開するときは

長期間保管後、初めて運転をするときは、つぎの要領で準備してください。

1. 塗布した防錆油をふき取ります。
2. さびや部品などの劣化がないか確認します。
3. メンテナンス時期を確認し、必要に応じてメンテナンスをします。(157 ページ)
冷却水は、純正または純正相当品でないものを使用の場合は必ず交換してください。
4. ウォーターセパレータを「ON」（開）位置にします。
5. 燃料、冷却水の量の確認、漏れ、ホース、パイプ類の損傷がないかを点検します。
6. バッテリーをコンバインに取り付けます。
7. エンジンを始動し、異常がないことを確認します。

《 重要 》

- エンジン始動後は、暖機運転を長く行い、各部を十分になじませてください。
- オイル・冷却水は指定の交換時期または寿命を過ぎている場合は交換してください。

5.2.2 保管中の整備のしかた

保管中は、つぎのような整備を行ってください。
また、作業装置を作動させるときは油圧シリンダロッドに塗った防錆油をふき取ってください。

- 1 カ月に 1 度はエンジンをかけて、コンバインを動かしてください。各潤滑部に新たな油膜ができ、格納中の油膜切れが防げます。
- バッテリーは、使用しなくても自然に放電します。1 カ月に 1 度は、充電してください。(194 ページ)
- 2 ～ 3 週間ごとに 1 ～ 2 回は、エンジンをローアイドリング（低回転）で、エアコンを 10 分以上作動させてください。

6. 輸送のしかた

6.1 トラックへの積み・降ろしのしかた

⚠ 警告

- 移動走行時およびトラックなどへの積み・降ろしの場合は、必ず作業クラッチ、および自動スイッチを「切」にしてください。
※ 自動ランプが消えていることを、確認してください。急に刈取部が上下に動き、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- ほ場間の移動でトラックを使用される場合は、十分な強度のあるトラックを使用してください。
- コンバイン重量以上の積載トン数のトラックを使用してください。
- 積み込むトラックは、車止めなどで動かないように処置してください。
※ 傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- アユミ板は、基準に合ったものを使用してください。
※ 転落により、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 積み・降ろしのコンバイン方向は、「コンバインの積み込みかた」(254 ページ) の表 6-1 に従って行ってください。
※ バランスをくずし、転倒による傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- コンバインが不意に動いたときに危険なので、コンバインの直前・直後には、絶対に立たないでください。
- コンバインがアユミ板とトラックの継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わるので、十分に注意してください。特に、スピードが速いときは、転倒のおそれがありますので、必ず遅いスピードで行ってください。
- トラックの荷台に積み込んだコンバインは、エンジンを停止して、駐車ブレーキをかけてください。コンバインは荷締機で確実に固定してください。
※ 転落により、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- 長距離の移動などでトラックを使用されるときは、安全のため、必ずお買い上げいただいた特販店、または JA までご連絡ください。
- 積み・降ろしをする場所は、平たんで安定した、交通などの危険がない場所を選んでください。
※ けがをするおそれがあります。
- アユミ板の上では、進路変更を絶対に行わないでください。
※ クローラがアユミ板から外れて、転倒し、けがをするおそれがあります。
- アユミ板の上では、副変速の操作をしないでください。
※ コンバインが不意に動き出し、事故の原因になります。また、バランスをくずして転倒し、けがをするおそれがあります。
- 移動走行時およびトラックなどへの積み・降ろしの場合は、必ず作業クラッチレバーを「OFF」位置にし、エコモードスイッチを「切」（エコランプ消灯）にしてください。
※ 車速がかってに変化することがあり危険です。

6.1.1 アユミ板について

アユミ板は、つぎの基準に合ったものを使用してください。

- 長さ……トラックの荷台高さの 4 倍以上
- 幅……60 cm 以上
- 強度……1 枚がコンバインの重量に十分耐えられるもの。
- 表面……滑らないよう処理してあるもの
- トラックの荷台に引っかけるためのフックが付いているもの

6.1.2 トラックの準備

⚠ 警告

- トラックは、平たんで安定した場所で、交通などの危険がなく、作業が十分に行える広さの場所に停車し、エンジンを停止してください。

《 重要 》

荷台からコンバインがはみださないトラックを準備してください。やむをえず、コンバインが荷台からはみだす場合は、道路交通法規を守って積み込んでください。

1. トラックの変速は、オートマチック車は「P」、マニュアル車は「1 速」または「R」位置に入れ、駐車ブレーキをかけます。
2. トラックのタイヤに車止めをします。
3. トラックの荷台にアユミ板（1）のフックを、段差（2）がでないように確実にかけます。

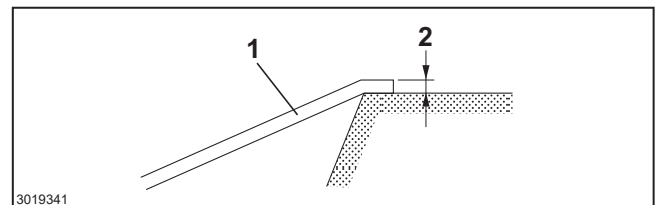


図 6-1

6. 輸送のしかた

6.1.3 コンバインの積み込みかた

1. コンバインを走行姿勢と同じ状態にします。
(108 ページ)

《 重要 》

- 乗降ステップは、必ず収納してください。セットしたまま行くと、ステップの破損・変形の原因になります。
- プレクリーナーは、必ず下げた状態にしてください。(108 ページ) 上げたままの状態では輸送すると、道路運送車両法違反となり、刑罰の対象になるおそれがあります。

2. エコモードスイッチ (1) を「切」(エコランプ (2) 消灯) にします。

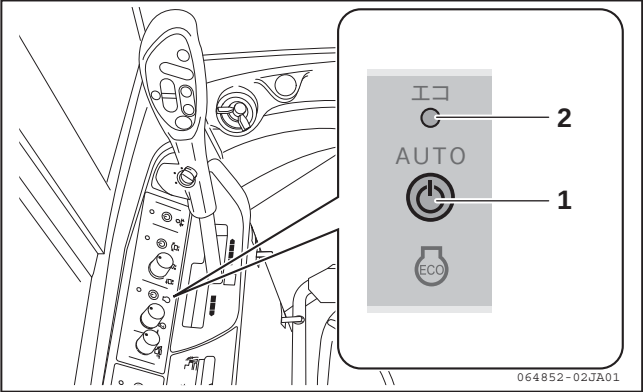


図 6-2

3. UFO 昇降スイッチ (1) を前方に倒して、車高を最下位置にします。

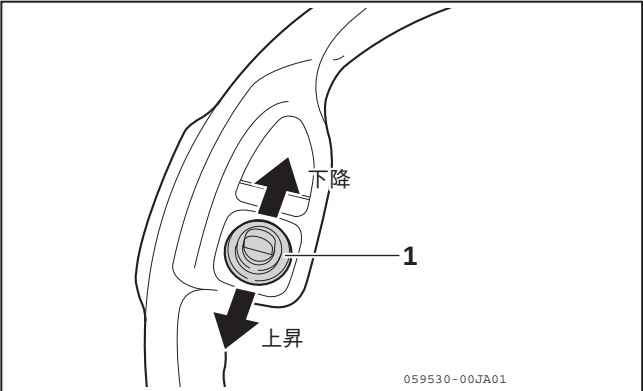


図 6-3

4. コンバインは、アユミ板の上で進路変更をしないように、アユミ板に対してまっすぐに方向を定めます。

5. ステアリング右スイッチ (1) を「上」側、またはオールマイティシフトレバーの刈取昇降スイッチ (2) を「上」側にして、刈取部がアユミ板に接触しないようにできるだけ上げます。

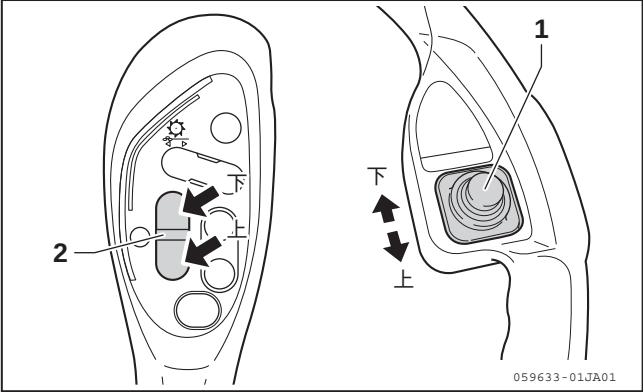


図 6-4

6. コンバインの積み・降ろし方向は、表 6-1 を参照してください。

表 6-1 積み・降ろし方向

作業	進行方向
積み込み	前 進
降ろし	後 進

7. 副変速レバー(1)を「畦越」位置、オールマイティシフトレバー(2)をゆっくり「前進」側に倒します。コンバインはゆっくり動きはじめます。

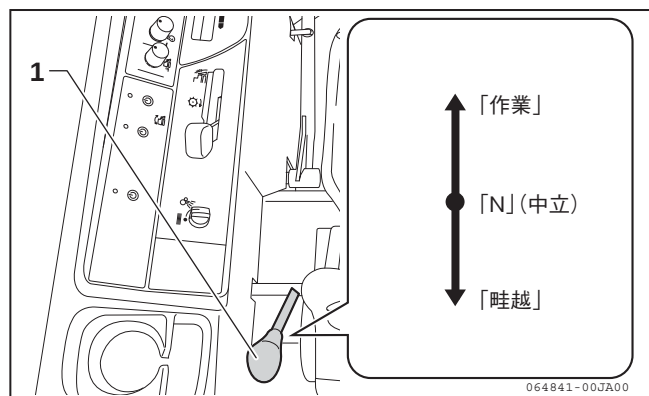


図 6-5

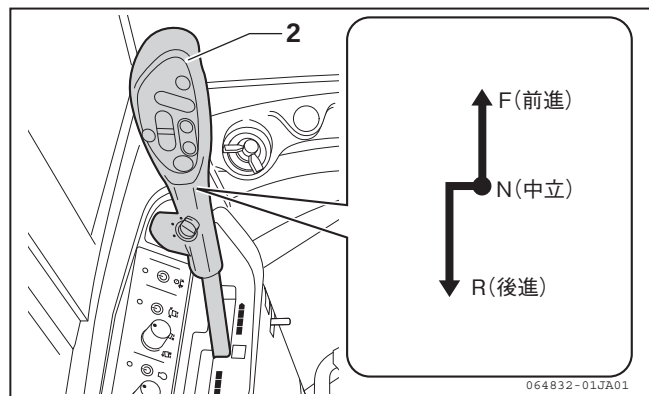


図 6-6

警告

- アユミ板の上では、ハンドルを持たずにアシストバー(1)を持ってください。

※ ハンドルを持っていると、コンバインの重心が変わったときに思わずハンドルを切ってしまい、思わぬ方向に旋回し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

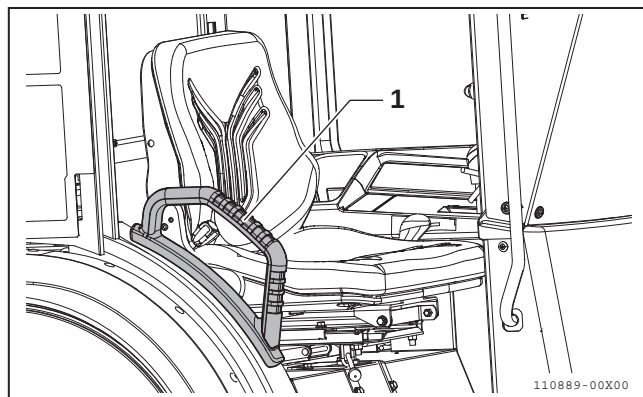


図 6-7

8. コンバインをトラックに積み込んだら、オールマイティシフトレバーを「N」(中立)位置にして停止します。
9. セフティペダル(1)をいっぱいまで踏み込み、駐車ブレーキロックレバー(2)を手前に引いて、セフティペダルにフック部(3)をかけ、駐車ブレーキをかけます。

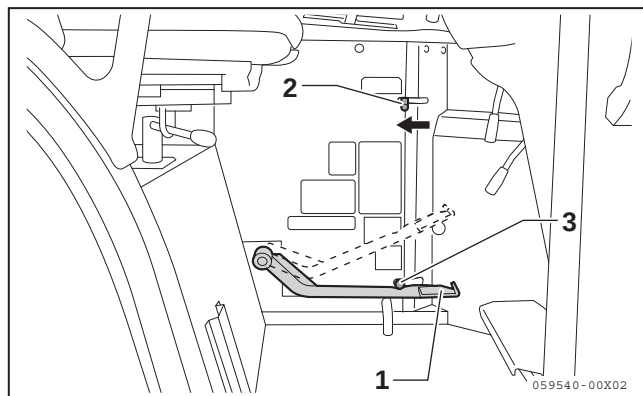


図 6-8

6.1.4 トラックに積み込んだら

1. ステアリング右スイッチ (1) を「下」側、またはオールマイティシフトレバーの刈取昇降スイッチ (2) を「下」側にします。刈取部をトラックの荷台に接地させます。

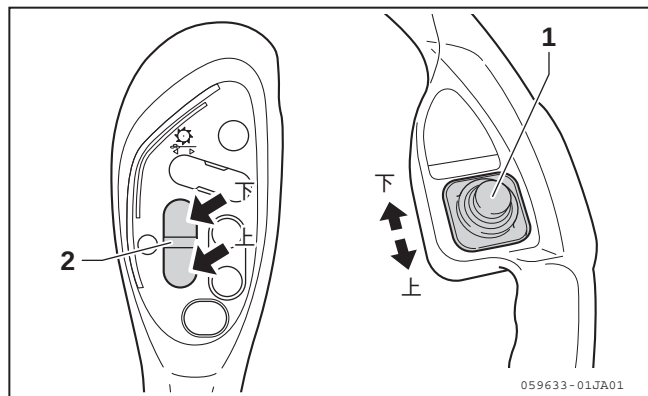


図 6-9

2. エンジンを停止します。(99 ページ)
3. コンバイン左右のフック (1) (4 か所) に、十分強度のある荷締機をかけて、コンバインを確実に固定します。

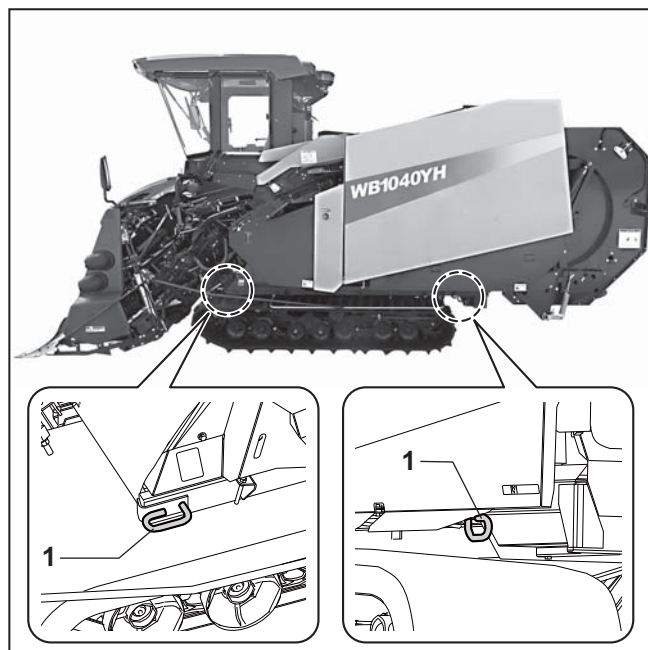


図 6-10

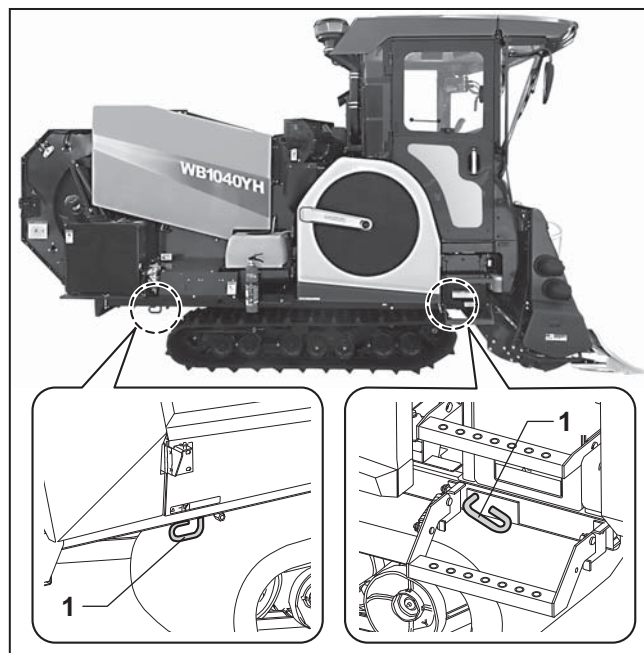


図 6-11

《 重要 》

- フック以外には、荷締機をかけないでください。破損するおそれがあります。
- 荷締機を強く締めすぎないでください。変形などのおそれがあります。
- フックに荷締機をかけるときは、クローラに当たらないように固定してください。

6.1.5 コンバインの降ろしかた

警告

- トラックは、平たんで安定した場所で、交通などの危険がなく、作業が十分に行える広さの場所に停車し、エンジンを停止してください。

1. コンバインを固定している荷締機を外します。
2. コンバインに破損、または欠落している部品がないかを確認します。
3. エンジンを始動します。(95 ページ)
4. エコモードスイッチ (1) を「切」(エコランプ (2) 消灯) にします。

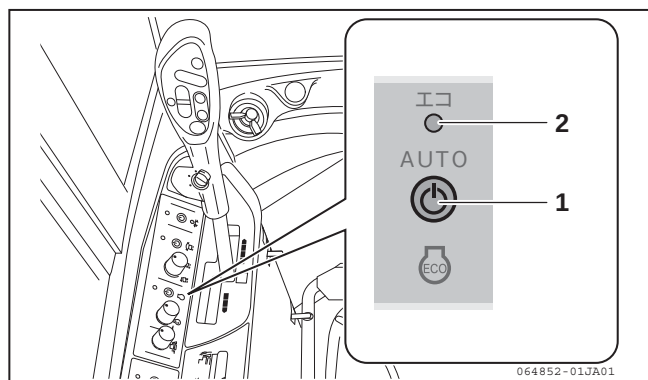


図 6-12

《 参考 》

エコモードスイッチが「入」(エコランプ点灯)のときに、オールマイティシフトレバーを操作すると、エコモードがはたらき、瞬時にエンジン回転が定格回転(グリーンゾーン)になります。そのとき、アクセルダイヤルでのエンジン回転の調節はできなくなります。

5. ステアリング右スイッチ (1) を「上」側、またはオールマイティシフトレバーの刈取昇降スイッチ (2) を「上」側にします。刈取部が上昇します。

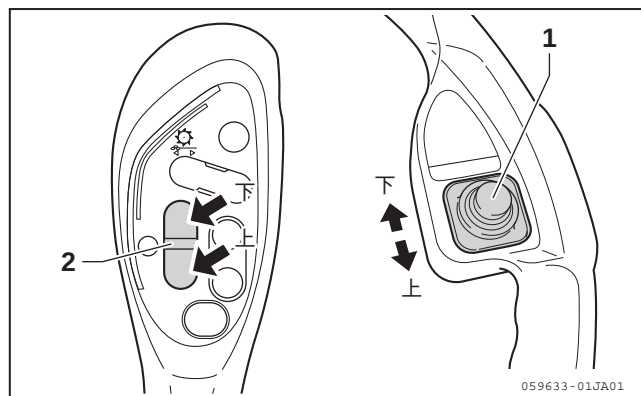


図 6-13

6. セフティペダルを踏み込んで、駐車ブレーキを解除します。

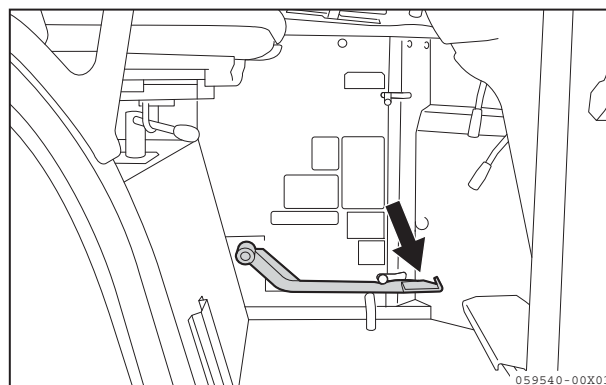


図 6-14

7. コンバインはアユミ板の上で進路変更をしないように、アユミ板に対してまっすぐな方向を定めます。

6. 輸送のしかた

8. 副変速レバー (1) を「畦越」位置にして、オールマイティシフトレバー (2) をゆっくり「後進」側に倒します。コンバインがゆっくりと動きはじめます。

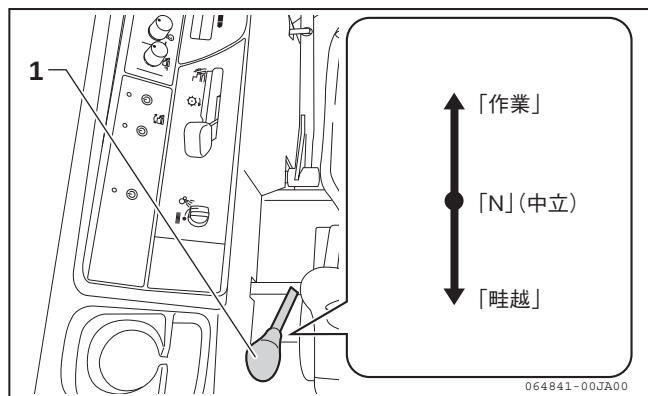


図 6-15

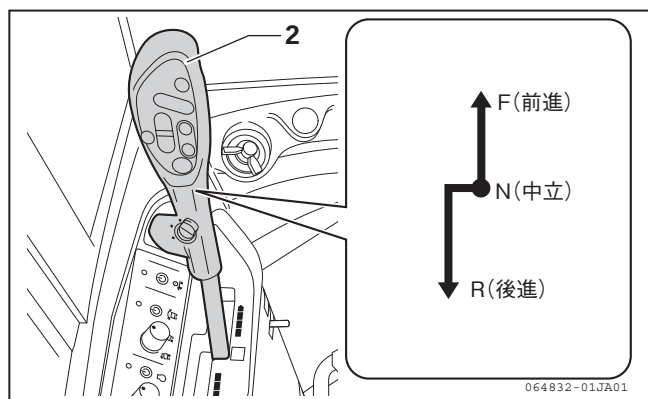


図 6-16

9. コンバインを完全にトラックから降ろしたら、オールマイティシフトレバーを「N」(中立)位置にして停止し、駐車ブレーキをかけます。
10. エンジンを停止します。(99 ページ)

6.1.6 積み・降ろし中のコンバインの停止・発進のしかた

1. オールマイティシフトレバー (1) を「N」(中立)位置にして、コンバインを停止します。

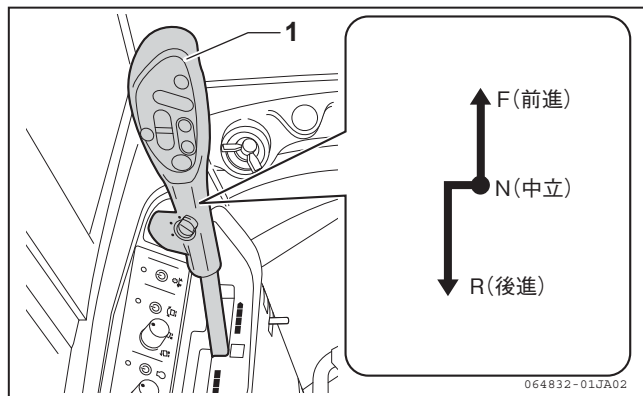


図 6-17

2. 再度動かすときは、オールマイティシフトレバーを操作して、コンバインをゆっくりと動かします。

7. 付表

7.1 主要諸元

表 7-1 主要諸元

品名		自走ホールクropp収穫機	
型式		WB1040YH	
機体の大きさ	全長 (mm)	5350	
	全幅 (mm)	2200	
	全高 (mm)	2540	
	質量 (kg)	4320	
エンジン	型式	4TNV98C – MRC	
	種類	水冷 4 サイクル 4 気筒立形 (CR+DPF)	
	出力 / 回転速度 (kw {PS} / rpm)	51.9 {70.6} / 2600	
	始動方式	セルモーター式	
走行部	クローラ	中心距離 (mm)	1135
		幅×接地長 (mm)	550 × 1750
	平均接地圧 Kpa (kg/cm ²)		22.5 (0.23)
	変速方式		油圧サーボ付 HST 無段変速
	走行速度 (m/s)	前進 (後進)	低速：0～0.98 (0～0.98) 標準：0～1.6 (0～1.45) 走行：0～3.07 (0～2.64)
	旋回方式		電子制御 FDS
刈取部	刈幅 (mm)		1720
	刈取条数 (条)		5
	変速段数		車速同調×引起し 2 段
切断・形成部	切断方式		ディスクカッタ方式
	切断長		理論切断長 3cm
	ベール方式		定径式 (チェン・バー式)
	ベール寸法 (cm)		Φ 100 × 幅 85
	ベール重量 (kg)		約 300 (水分 60%)
	使用ネット幅 (cm)		123, 103
	混合方式		ダブルディスク
	作業能率 (分 / 10a)		20 ～ 30

注) 作業能率はほ場条件、面積によって変わりますのであくまでも参考値としてください。

燃費：約 10L / H

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

7.2 主要部品の耐久性と点検・交換時期の目安表

※コンバインの使用状況やほ場の状態により、交換時期などは変化します。表 7-2 は、点検・交換の目安時間です。
 運転・作業中に異常を感じた場合は、すみやかに点検を実施し、特販店、または JA に相談してください。

表 7-2 主要部品の耐久性と点検・交換時期の目安表

○：点検と調整・掃除・締結 ●：初期運転後の点検と調整 ▲：交換

点検箇所	点 検 ・ 交 換 時 期																			それ以降 (時間 : h)		
	ア ワ メ ー タ 表 示 時 間 (時 間)																			点検	交換	
	2 0	5 0	1 0 0	1 5 0	2 0 0	2 5 0	3 0 0	3 5 0	4 0 0	4 5 0	5 0 0	5 5 0	6 0 0	6 5 0	7 0 0	7 5 0	8 0 0	8 5 0	9 0 0	9 5 0	1 0 0	
エンジン	ジェネレータ駆動ベルト	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100h ごと	500h ごと
	エアクリーナーエレメント		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50h ごと	300h ごと
	燃料フィルター (交換部品 : カートリッジ)						▲						▲						▲		—	300h ごと
	油水分離器 (交換部品 : エレメント)	●	○	○			▲		○		○		▲		○		○		▲	○	100h ごと	300h ごと
	オイルフィルター	▲					▲						▲						▲		—	300h ごと
	燃料ホース			○			▲			○			▲				○		▲		150h ごと	300h ごと
	ラジエータホース					○					▲					○				▲	250h ごと	500h ごと
	エンジンオイルドレンホース			○			▲		○				▲			○			▲		150h ごと	300h ごと
	インタークーラホース					○					▲					○				▲	250h ごと	500h ごと
	インタークーラ・燃料クーラ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100h ごと	—
	オイルクーラ、ラジエータフィン		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50h ごと	—
	防振ゴム		○	○			▲		○		○		▲		○		○		▲	○	100h ごと	300h ごと
	テールパイプ断熱材						○						○						○		300h ごと	—
	排気フィルターリセット再生	●	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100h ごと	—
ミッション	スートフィルター (排気フィルター)																				6000h ごと	9000h ごと
	駐車ブレーキワイヤ	●	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	○	▲	○	50h ごと	300h ごと
	ブレーキシュー										▲									▲	—	500h ごと
	サクショフィルター								○								▲				400h ごと	800h ごと
	HST オイルフィルター (交換部品 : カートリッジ)	▲							▲								▲				—	400h ごと
走行	車軸オイルシール								○								▲				400h ごと	800h ごと
	クローラ				○				○				○				▲			○	200h ごと	800h ごと
	スプロケット							▲									▲				—	400h ごと
	転輪			○			○						○				▲			○	200h ごと	800h ごと
	転輪ベアリング			○			○						○				▲			○	200h ごと	800h ごと
	転輪オイルシール			○			▲						○				▲			○	200h ごと	400h ごと
	転輪スリーブ			○			▲						○				▲			○	200h ごと	400h ごと
	アイドラ			○			○						○				▲			○	200h ごと	800h ごと
	アイドラベアリング			○			○						○				▲			○	200h ごと	800h ごと
	アイドラオイルシール			○			▲						○				▲			○	200h ごと	400h ごと
	アイドラスリーブ			○			▲						○				▲			○	200h ごと	400h ごと
	クローラガイド			○			○						○				▲			○	200h ごと	800h ごと
	イコライザ			○			○						○				▲			○	200h ごと	800h ごと
	イコライザベアリング			○			○						○				▲			○	200h ごと	800h ごと
	イコライザオイルシール			○			▲						○				▲			○	200h ごと	400h ごと
	キャリアローラ			○			○						○				▲			○	200h ごと	800h ごと
	キャリアローラベアリング			○			▲						○				▲			○	200h ごと	400h ごと
	キャリアローラオイルシール			○			▲						○				▲			○	200h ごと	400h ごと
	キャリアローラスリーブ			○			▲						○				▲			○	200h ごと	400h ごと
	カウンターケースオイルフィルター (交換部品 : カートリッジ)	▲							▲								▲				—	400h ごと
	トルクリミッターゲージ CMP																		▲		—	1000h ごと
	トルクリミッターインナーディスク																		▲		—	1000h ごと
	トルクリミッターアウターディスク																		▲		—	1000h ごと
	クラッチスライダー																		▲		—	1000h ごと
	爪付きギヤ 23T, 25T, 28T, 29T																			▲	—	1000h ごと
その他	ロータリースクリーン吸引ファンベルト	●	○	○	○	○	○			▲	●	○	○	○	○	○	○	○	○	▲	100h ごと	500h ごと
	走行駆動ベルト	●	○	○	○	○	○			▲	●	○	○	○	○	○	○	○	○	▲	100h ごと	500h ごと
	刈取カウンターベルト (T/M ~ 刈取カウンター)	●	○	○	○	○	○			▲	●	○	○	○	○	○	○	○	○	▲	100h ごと	500h ごと
	刈取入力ベルト	●	○	○	○	○	○			▲	●	○	○	○	○	○	○	○	○	▲	100h ごと	500h ごと
	(刈取カウンター~カウンターケース)	●	○	○	○	○	○			▲	●	○	○	○	○	○	○	○	○	▲	100h ごと	500h ごと

点検箇所		点 検 ・ 交 換 時 期																			それ以降（時間：h）			
		ア ワ メ ー タ 表 示 時 間 （ 時 間 ）																						
		2 0	5 0	1 0 0	1 5 0	2 0 0	2 5 0	3 0 0	3 5 0	4 0 0	4 5 0	5 0 0	5 5 0	6 0 0	6 5 0	7 0 0	7 5 0	8 0 0	8 5 0	9 0 0	9 5 0	1 0 0 0	点検	交換
キャビン	コンプレッサ駆動ベルト	●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		○	▲	100h ごと	500h ごと
	外気フィルター	50 時間ごとに掃除																			—	—		
	内気フィルター	50 時間ごとに掃除																			—	—		
	コンデンサフィン（キャビン右後防塵網含む）		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	100h ごと	—	
	エバポレータ掃除		○				○						○							○		300h ごと	—	
電装	バッテリー		○		○		○		○		○		○		○		▲		○		○	100h ごと	800h ごと	
	ジェネレータ				○				○				○				○				○	200h ごと	—	
	ワイヤハーネス	1 年ごとに点検																			1 年ごと	—		
	ヒューズ・スローブローヒューズ		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	100h ごと	—	
	ランプ（電球）	毎日点検																			毎日点検	—		
	ホーンスイッチ	毎日点検																			毎日点検	—		
	無線リモコン電池	ランプが点灯しない、または暗くなってきたら 2 個同時に交換																			毎日点検	—		
	刈取	刈取駆動ベルト	●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		○	▲	100h ごと
掻込みベルト		●	○		○		○		▲	●	○		○		○		▲	●	○		○	100h ごと	400h ごと	
引きしチェン			●	○		○		▲	●	○		○		▲	●	○		○		▲	●	○	100h ごと	300h ごと
引きしタイン				○		○		▲		○		○		▲		○		○		▲		100h ごと	300h ごと	
上搬送チェン			●	○		○		▲	●	○		○		▲	●	○		○		▲	●	○	100h ごと	300h ごと
上搬送タイン				○		○		▲		○		○		▲		○		○		▲		100h ごと	300h ごと	
下部搬送チェン			●	○		○		○		○		○		▲	●	○		○		○		100h ごと	600h ごと	
スターホイール					○				▲				○				▲				○	200h ごと	400h ごと	
縦搬送チェン			●	○		○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○	100h ごと	600h ごと
補助搬送チェン			●	○		○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○	100h ごと	600h ごと
補助搬送レール													▲									—	600h ごと	
刈刃				○		▲		○		▲		○		▲		○		▲		○		▲	100h ごと	200h ごと
刈刃クランク部ベアリング、シール									▲								▲					—	400h ごと	
各チェンローラ部ブッシュ、ベアリング												▲										▲	—	500h ごと
スターホイール軸ベアリング											▲										▲	—	500h ごと	
穂先ガイドゴム A			○		○		○		▲		○		○		○		▲		○		○	100h ごと	400h ごと	
ロールベアラ部	ロールベアラ駆動ベルト	●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		○	▲	100h ごと	500h ごと
	ロールベアラ駆動チェン	●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		○	▲	100h ごと	500h ごと
	タイトバー駆動チェン	●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		○	▲	100h ごと	500h ごと
	タイトチェン	●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		○	▲	100h ごと	500h ごと
	リアコンベア駆動チェン	●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		○	▲	100h ごと	500h ごと
	スピナー駆動チェン	●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		○	▲	100h ごと	500h ごと
	供給駆動チェン	●		○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100h ごと	500h ごと
	供給チェン	●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		○	▲	100h ごと	500h ごと
カッタ駆動ベルト	●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		○	▲	100h ごと	500h ごと	
カッタ部	カッタ刃	200 時間ごとに点検、400 時間ごとに交換																			—	—		
	供給軸と切断軸のナット（増締め）	初回または交換後 50 時間、以降 200 時間ごと																			—	—		

7.3 付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

表 7-3 付属部品

	品名	付属個数	備考
1	保証書	1	
2	取り扱い説明書	1	
3	パーツリスト	1	
4	本機カバー	1	
5	タイン (ハンソウ 70)	2	1E6A80-49450
6	ピン (ヘイコウ 4.56×15)	2	1E6C30-11350
7	ピン (ヘイコウ 6×21)	2	1E9570-13170
8	タイン (129.5)	4	1E8940-14290
9	ピン (40)	15	1E8540-25290
10	タイン (115.5)	7	1E8540-25341
11	ピン (キョウリョク 6.5)	2	1E6102-34420
12	ピン (35)	2	1E9060-49530
13	シャーボルト 6×25 (8T)	10	
14	シャーボルト 8×35 (8T)	20	
15	シャーボルト 6×30 (8T)	10	
16	ナイロンナット 6	20	
17	ナイロンナット 8	20	
18	ナットオサエ (特殊スパナ)	1	
19	塩ビカラー (ネット用)	1	
20	左用カラー (ネット用)	1	
21	123cm用カラー (ネット用)	1	
22	大量用ノズルチップ	1	
23	大量用ノズルキャップ	1	

◆ ロールベアラ駆動ベルト

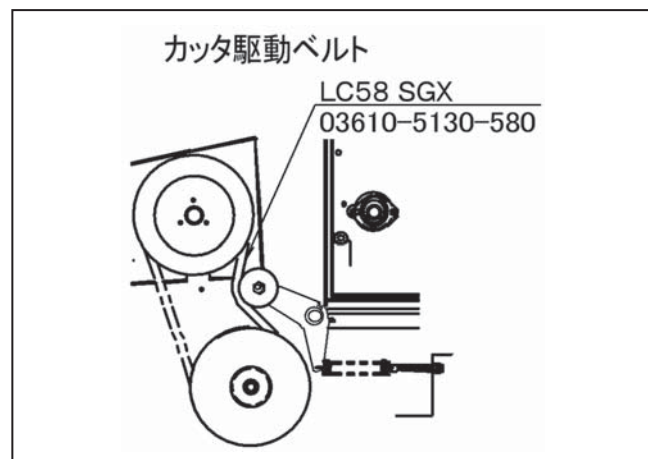


図 7-1

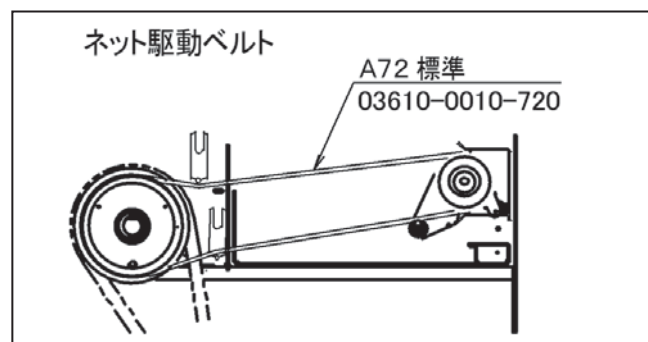


図 7-2

◆ ロールベアラ部コンベアベルト

37107-6420-001

◆ フィードチェーン部

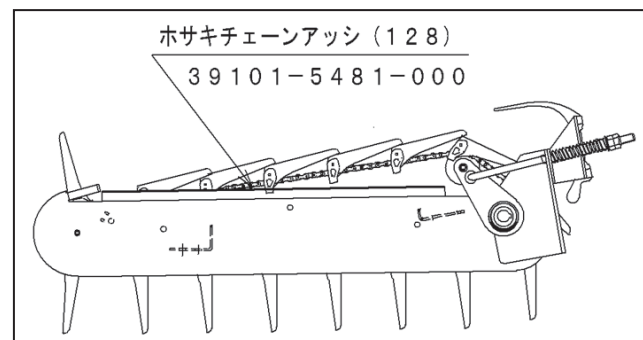


図 7-3

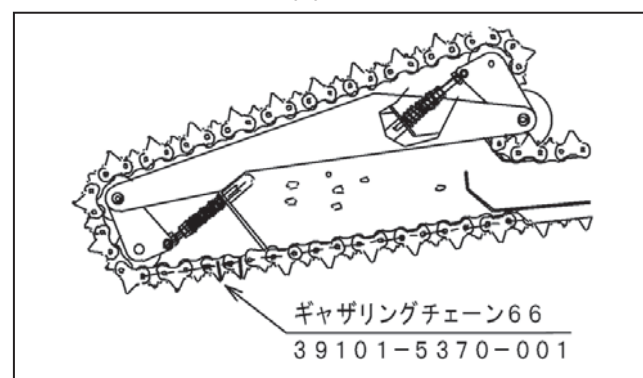


図 7-4

◆ タイトチェーン

46101-3740-000

180 リンク (ツギテ含む)

◆ タイトバー部シャーボルトセット

M8 × 35 (8T 全ネジ)

部品コード 01358-5080-35A

◆ 引き込み搬送部シャーボルトセット

M6 × 25 (8T 全ネジ)

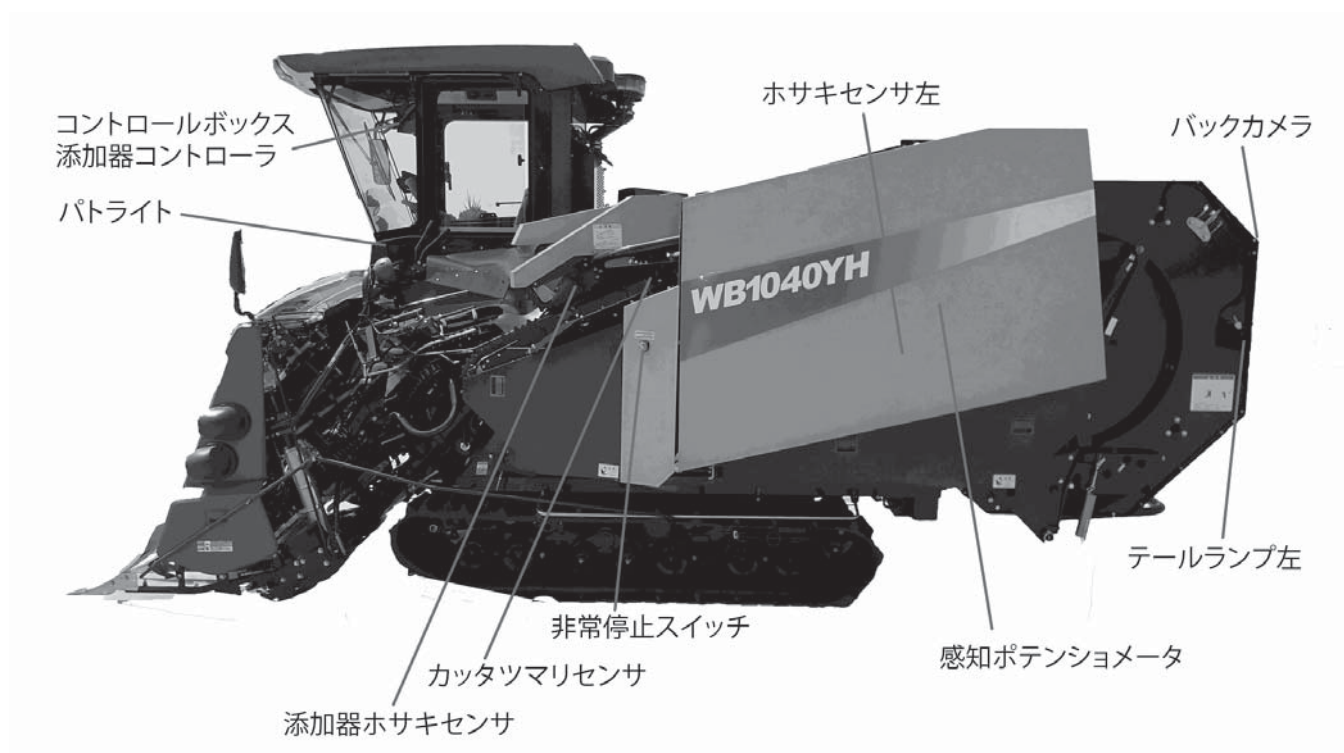
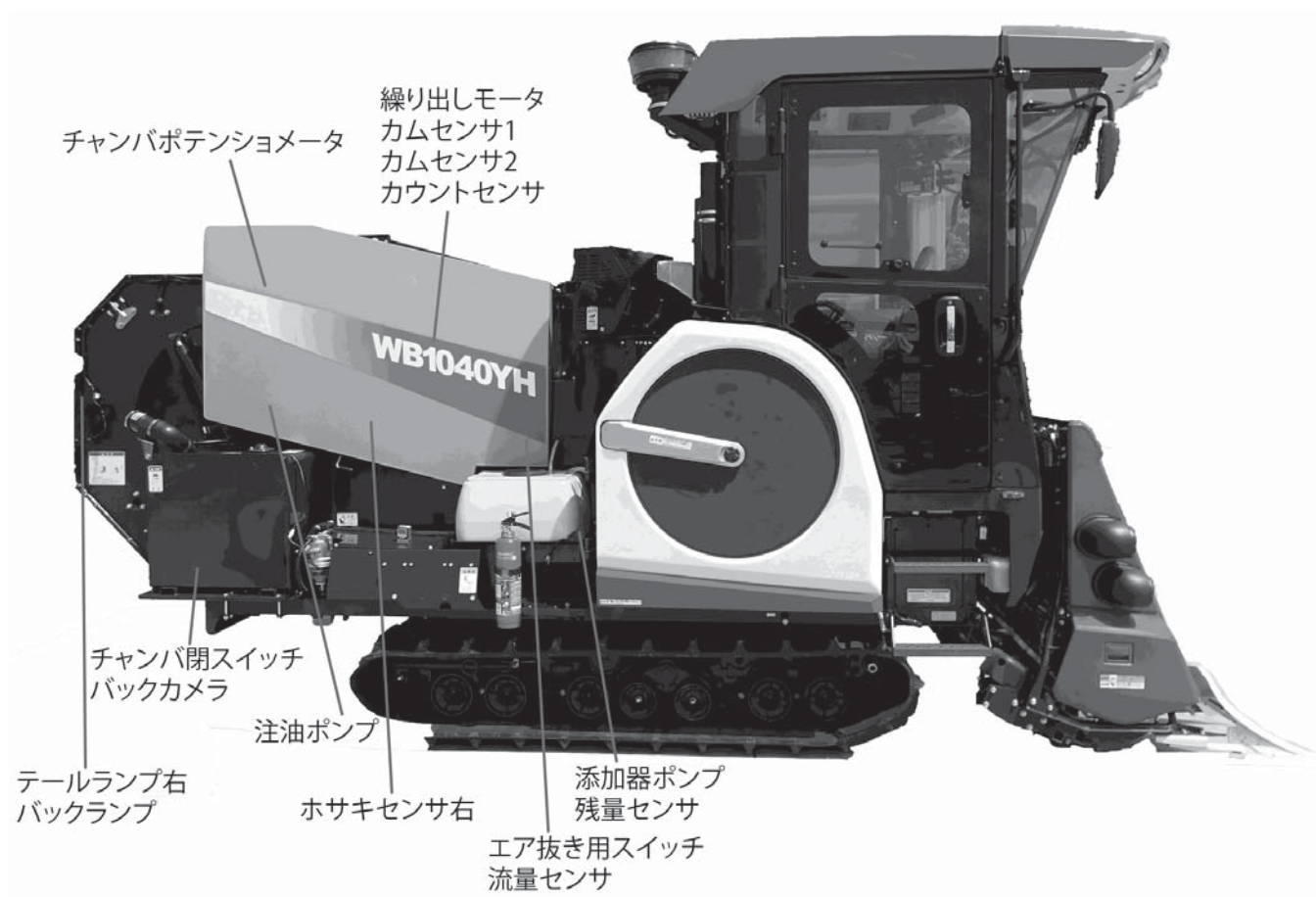
部品コード 01158-5060-25A

◆ カクハンディスク部シャーボルトセット

M6 × 30 (8T 全ネジ)

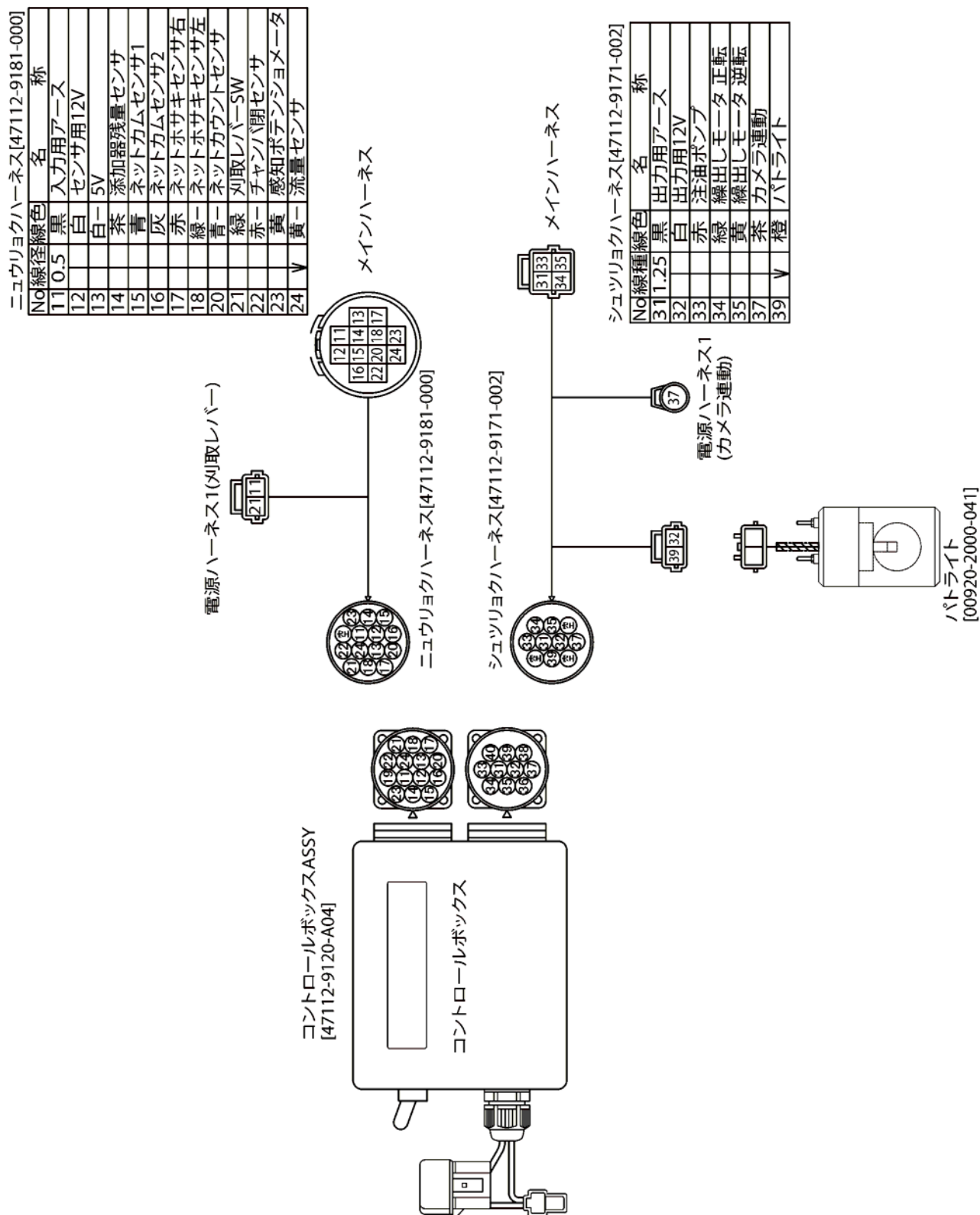
部品コード 01158-5060-30A

7.4 電装部品の位置

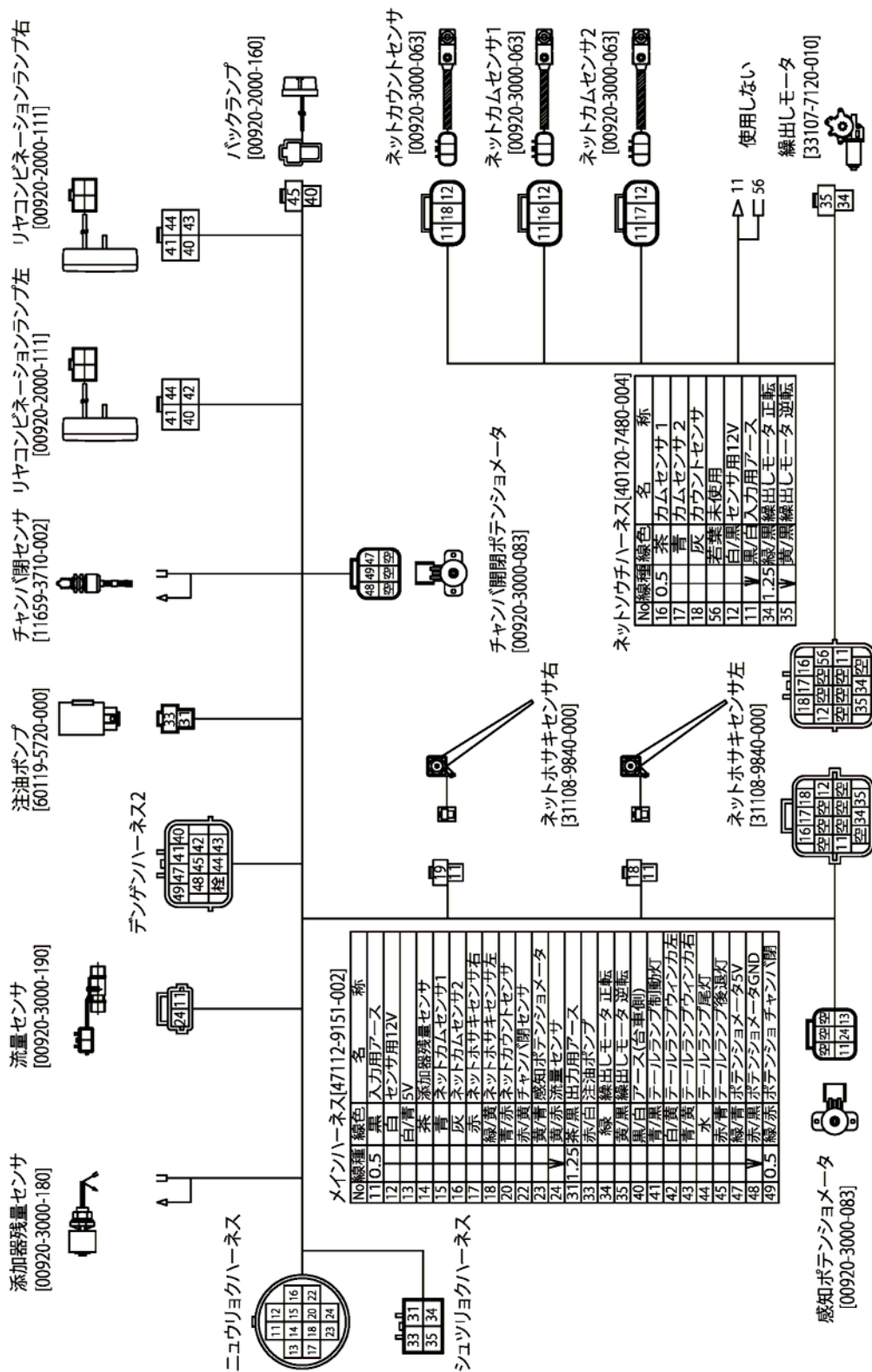


7.5 配線図

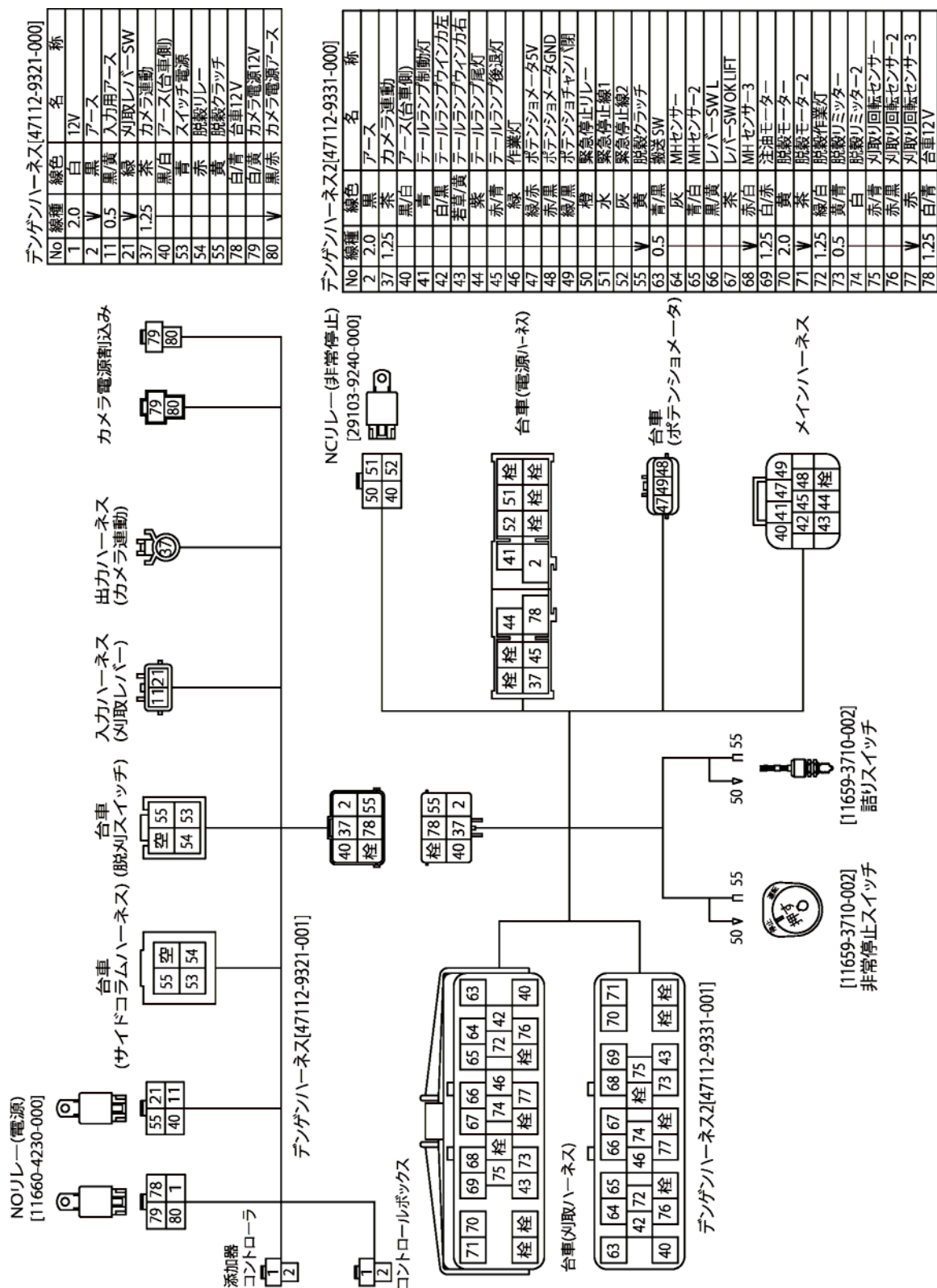
◆ キャビン内部



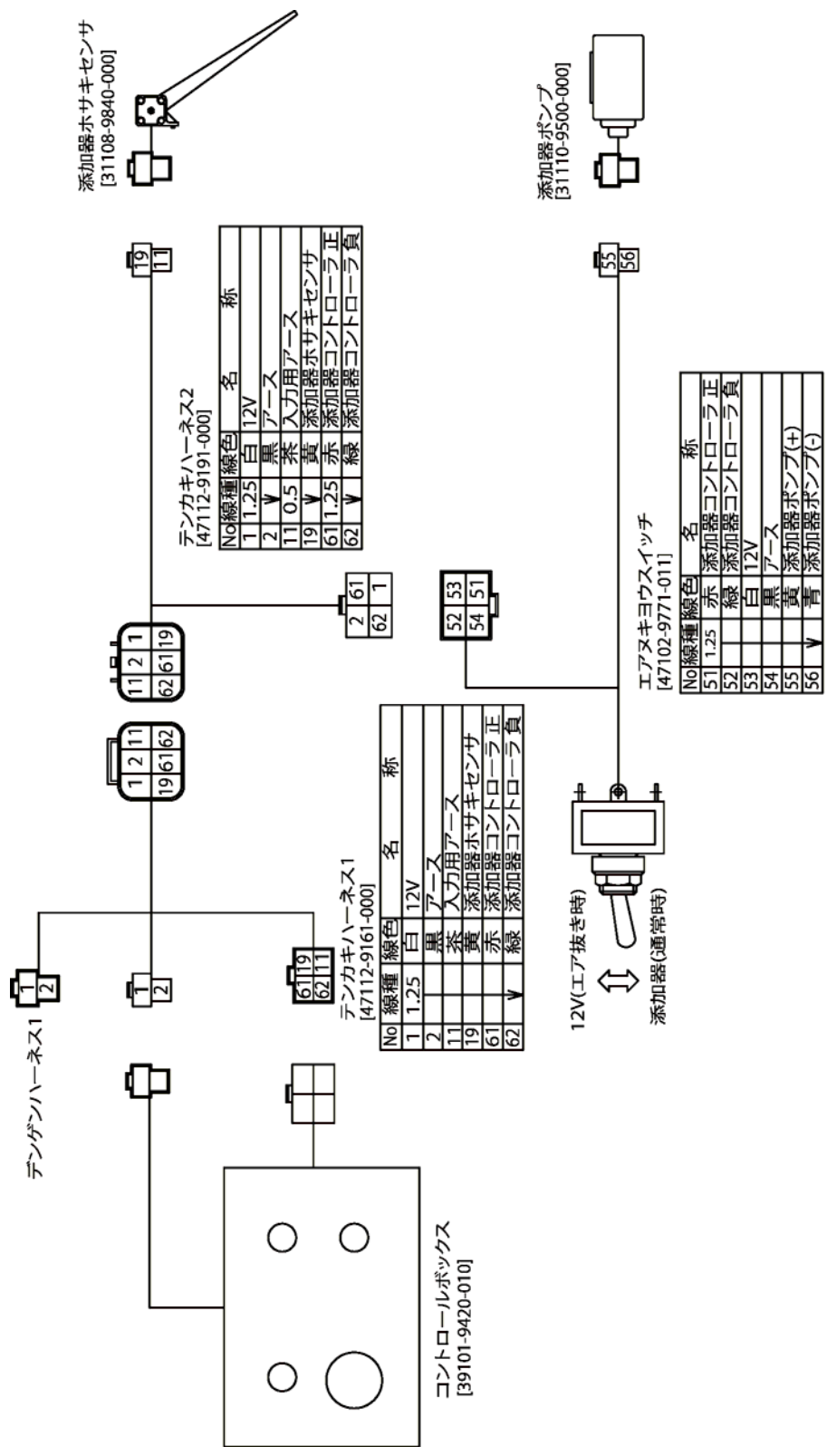
◆ ロールベアラ部



◆ 配線部



◆ 添加器部



8. 廃棄物の処理について

8.1 廃棄するときは

廃棄物を間違った方法で処分すると、環境汚染につながります。このコンバインに使用されている、燃料・オイル・冷却水・フィルター・バッテリー・ファンベルト・油圧ホース・燃料ホースなどは、正しく処分してください。

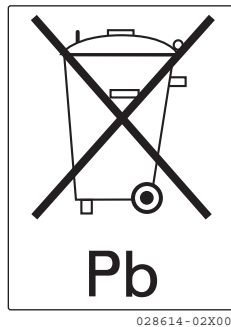


図 8-1

8.1.1 廃油、不凍液の処理

オイル交換で出た廃油や交換した不凍液は、河川や下水道、溝、空地などに絶対に捨てないでください。環境汚染につながります。
廃油の処分については、お買い上げいただいた特販店、または JA へご相談ください。

8.1.2 バッテリーの処理

環境保全と資源のリサイクルのため、交換した古いバッテリーは、放置したり、捨てたりせずに、新しいバッテリーを購入した店へ渡してください。資源としてリサイクルされます。

8.1.3 冷媒ガス（フロン類）の処理

- 冷媒ガスをみだりに大気中に放出することは法令で禁じられています。絶対に行わないでください。
- 冷媒ガス（フロン類）の充填・回収・廃棄は都道府県に登録された第一種フロン類充填回収業者のみが行うことができます。
廃棄する場合は、登録された充填回収業者に依頼してください。

表 8-1 冷媒ガス

使用冷媒（クーラガス）	フロン R-134a
充てん量	770 ± 50g

8.1.4 ホース類の処理

ホース類の合成ゴム製品は、放置したり、捨てたりせずに、購入した店へ渡してください。資源としてリサイクルされます。

フロン排出抑制法によるお客様点検

フロン排出抑制法とは

「フロン類の使用の合理化および管理の適正化に関する法律」（略称「フロン排出抑制法」）として施行されました。

対象機種	エアコン装備（キャビン仕様）のトラクター・コンバインや玄米低温貯蔵庫、ガスヒートポンプなど、第一種特定製品が該当します。 ※ 13 馬力以上のガスヒートポンプは、ガスエンジンの定格出力が 7.5kW 以上となり、別途「定期点検」が必要となります。詳細は販売店にご確認ください。
------	--

機械の管理者（お客様）は、以下のことを行う必要があります。

1. 簡易点検の実施 3 ヶ月に 1 回以上の目視による簡易点検（外観点検※）を行う必要があります。 点検により冷媒の漏れや、その可能性を見つけた場合は、速やかに販売店にご連絡ください。 ※目視で確認可能な配管部分などの異音・異常振動、製品外観の損傷・腐食・錆、油のにじみなどの点検です。簡易点検はお客様自身でもできる点検のため、資格などは必要はありません。	2. 記録の保管 簡易点検を行ったこと、および点検を行った日を記録する必要があります。点検記録表は、機械・機器を廃棄したあとも 3 年間保管する必要があります。 ※機械を他者に売却・譲渡する場合は、点検記録表またはその写しを相手に引き渡す必要があります。点検記録表はつぎのページを参照してください。
点検サービスについて	ヤンマー販売店では、簡易点検に関するアドバイスを行っております。 点検に関するご相談や代行の依頼など、お気軽にご相談ください。

お客様点検用

フロン排出抑制法に基づく
第一種特定製品（農業機械用エアコン機器等）

簡易点検記録表

機 種		管理責任者	
型 式			
機 番			

点 検				項目	機器の 損傷・腐食	機器の 冷媒の漏れ	冷媒量 サイトグラスの 状態・点検	機器の騒音	機器の振動	機器の 温度調整機能	気づいたこと
点検者	年	月	日	基準	損傷・ 著しい腐食	油漏れ・にじみ		異常な音	異常な振動	温度変化が あること	
				3 ヶ 月 に 1 回 以 上 点 検 す る こ と	有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	

冷媒量チェック表

エアコンの状態	異常なし	異常あり		
サイトグラスの状態	ほとんど透明 泡の流れが見えてもエンジン回転を あげると透明になる	気泡の流れるのが見える。 透明または白泡のときもある	霧のようなものが流れているのが わずかに見える	ファンを最大で回し、窓を 全開にしてアイドリングで回しても 気泡が見えない
				

※不具合や不明なことがあった場合は、販売店にお問い合わせください。

冷媒の漏えいを発見した場合は、速やかに漏えい箇所の特定および修理を依頼してください。漏えい箇所が不明の場合は充填しないでください。

※〔記録の保管〕 機械・機器を廃棄したあとも3年間保管する必要があります。

※点検記録表は、この用紙を複写してお使いください。

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は製造打ち切り後 9 年といたします。ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。市販類似品をご使用になりますと機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。

株式会社 **QnKQ**

本社工場	〒 518-0441 三重県名張市夏見2828番地 TEL 0595-63-3111 (代) FAX 0595-64-0857
札幌工場	〒 007-0882 北海道札幌市東区北丘珠2条3丁目1番20号 TEL 011-781-1111 (代) FAX 011-781-1113
営業所・札幌	〒 007-0882 北海道札幌市東区北丘珠2条3丁目1番20号 TEL 011-781-1111 (代) FAX 011-781-1113
豊 富	〒 098-4110 北海道天塩郡豊富町大通り12丁目 TEL 0162-82-1245 (代) FAX 0162-82-1885
北 見	〒 099-2103 北海道北見市端野町3区305-1 TEL 0157-56-3326 (代) FAX 0157-56-3674
中標津	〒 086-1001 北海道標津郡中標津町東1条南10丁目 TEL 0153-72-2983 (代) FAX 0153-72-3080
帯 広	〒 082-0005 北海道河西郡芽室町東芽室基線13-3 TEL 0155-62-3311 (代) FAX 0155-65-3312
東 北	〒 020-0891 岩手県柴波郡矢巾町流通センター南3丁目2番6号 TEL 0196-37-2841 (代) FAX 0196-38-7225
南東北	〒 981-3602 宮城県黒川郡大衡村大衡字尾西373番8号 TEL 022-345-6951 (代) FAX 022-345-6952
関 東	〒 323-0012 栃木県小山市大字羽川字下田66 TEL 0285-24-4481 (代) FAX 0285-24-3791
関 西	〒 518-0441 三重県名張市夏見2828番地 TEL 0595-63-3111 (代) FAX 0595-64-0857
中 国	〒 708-1123 岡山県津山市下高倉西845-1 TEL 0868-29-3131 (代) FAX 0868-29-3132
九 州	〒 834-0115 福岡県八女郡広川町大字新代1389-163 TEL 0943-33-1311 (代) FAX 0943-33-1312
南九州	〒 885-0003 宮崎県都城市高木町4917番1 TEL 0986-38-4321 (代) FAX 0986-38-4342

部品コード

47112 9910 002